イントロダクション

・日商簿記３級の概要（詳しくは商工会議所へお問い合わせ下さい）

①　試験科目　商業簿記　３題以内

②　試験時間：60分

③　合格点：70%以上

④　試験形式：統一試験（紙試験）、ネット試験（CBT試験）

⑤　試験日：統一試験；2月第4日曜日、6月第2日曜日、11月第3日曜日
　　　　　　ネット試験；受験停止期間を除き、随時

⑥　筆記用具（統一試験）：ＨＢまたはＢの黒鉛筆、シャープペン、消しゴムに限る。

⑦　電卓、そろばん（ネット試験はそろばんの使用不可）の使用可。ただし、印刷（出力）機能、メロディー（音の出る）機能、プログラム機能、辞書機能（文字入力を含む）があるものは不可。日数計算、時間計算、換算、税計算、検算（音の出ないものに限る）はプログラム機能に該当しない。

⑧　ネット試験（CBT試験）の注意事項は商工会議所のサイトでご確認下さい。

・学習の仕方

統一試験（紙試験）を前提とした講義を行っています。ネット試験を考えている方も学習は紙を前提に行って下さい。

授業を受けていただき、授業の内容を理解することが大切です。授業を受けた後も、理解できるまでテキストを繰り返し読んで下さい。

また、簿記は授業を聴くだけでは身につきません。必ず、実際に自分で手を動かして問題を解くようにして下さい。まずは、テキストの例題を解けるようにして下さい。

自己学習用教材として、問題集を用意しています。テーマごとに問題を用意していますので、試験当日までこれらの問題を繰り返し解いて、簿記力を高めて下さい。

・重要性について

各論点ごとに「Ａ・Ｂ・Ｃ」

Ａ：試験に頻出している論点なので、必ずマスターすべき論点です。

Ｂ：最近の試験ではほとんど出題されていない論点ですが、それほど難易度が高くないため、時間がある方はマスターしてほしい論点です。

Ｃ：最近の試験ではほとんど出題されていない論点で、かつ、難易度も高い論点なので、ＡとＢの論点をマスターした方で、なお、時間がある方のみ学習すれば良い論点です。

簿記の基本原理①

簿記の意義

【重要性：A】

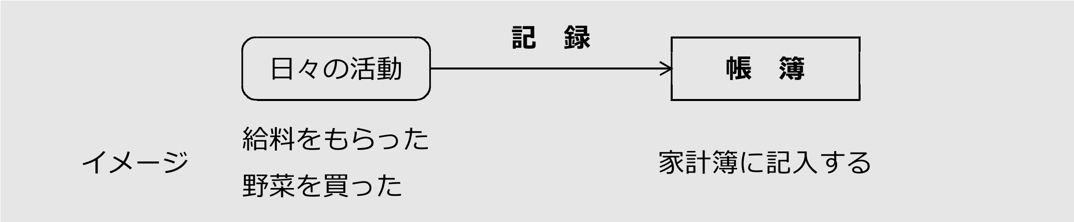
ＰＯＩＮＴ！

① 簿記とはどのようなことをするのか、イメージできるようにしよう！

② ２つの報告書を覚えよう！

（1）簿記とは？

お店や会社は日々の活動を記録・計算し、どのくらい儲かったのかや、どのくらい財産があるのかを明らかにする必要があります。この日々の活動を記録・計算し、報告する手続きを、**簿記**といいます。簿記とは「帳簿記入」を略した言葉といわれますが、お店や会社の日々の活動を、**帳簿**という書類（ノートをイメージして下さい）に記録します。

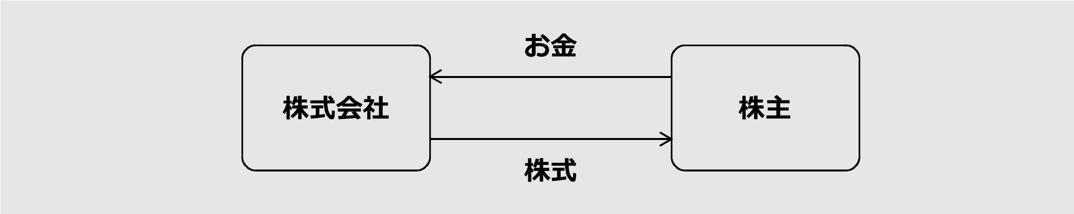


お店や会社の日々の活動を帳簿に記入することによって、お店や会社がいくら儲けたのか（これを**経営成績**といいます）、現金や商品、土地などの財産がいくらあるのか（これを**財政状態**といいます）を明らかにし、経営者や株主（出資者）、銀行、国（税務署）といった関係者に報告書を作成して報告します。

簿記は、会社、個人商店、自治体など様々な主体を対象に行われますが、日商簿記３級では、小規模な株式会社を前提とした簿記が出題されます。

（2）株式会社とは？

会社を設立し、経営活動を行うためには、元手となるお金が必要です。株式会社では、出資の単位を細分化し、多数の人々から元手となるお金を出資してもらいます。出資者は株主となり、一定の権利を行使することができます。このとき、株主の地位を「**株式**」といいます。



（3）報告書とは？

簿記で用いる報告書は**財務諸表**といい、様々な種類がありますが、日商簿記３級で出題されるのは損益計算書と貸 借 対 照 表です。

損益計算書とは、会社がどれくらい儲かったのかという**経営成績**を表す報告書です。一般に英語で、Profit and Loss Statement といいますので、**P/L（ピーエル）**と略します。

貸借対照表とは、会社が、現金や商品、土地といったモノをどれくらい持っているのか、銀行からどれくらいお金を借りているのかといった**財政状態**を表す報告書です。一般に英語で、Balance Sheet といいますので、**B/S（ビーエス）**と略します。

以下に、損益計算書と貸借対照表のイメージを記載しました。具体的な内容はこれから学習していきます。

貸 借 対 照 表（B/S）

資　産	**負　債**
	純資産

損 益 計 算 書（P/L）

費　用	**収　益**
（利　益）	

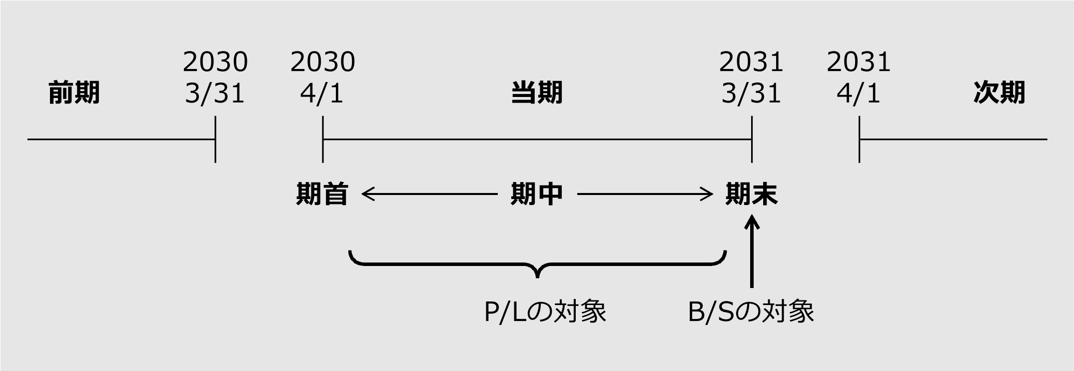
（4）会計期間

簿記は、会社の活動を一定の期間に区切って、経営成績や財政状態を記録します。この一定の期間を**会計期間**（または、**会計年度**、**事業年度**）といいます。

会計期間の始めを**期首**、会計期間の終わりを**期末**（または、**決算日**）、期首と期末の間を**期中**といいます。

現在の会計期間を**当期**、当期より一つ前の会計期間を**前期**、当期より一つ後の会計期間を**次期**（または、**翌期**、**来期**）といいます。

なお、株式会社は会計期間を自由に決めることができます。わが国では決算日が3月31日（これを**３月決算**といいます）の会社が多いので、日商簿記３級では3月決算の出題が基本となります。



（5）損益計算書と貸借対照表と会計期間の関係

損益計算書（P/L）とは、**一会計期間**において、どれくらい儲かったのかという**経営成績**を表す報告書です。例えば、3月決算の会社における損益計算書は4月1日から翌年3月31日という**期間が対象**となります。

貸借対照表（B/S）とは、**期末**において、現金、商品や土地といったモノがどれだけあるのか、銀行からどれだけお金を借りているのかといった**財政状態**を表す報告書です。例えば、3月決算の会社における貸借対照表は、期末である3月31日という**一時点が対象**となります。

簿記の５要素

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　簿記の５要素を覚えよう！

②　簿記の５要素とP/L・B/Sの関係を覚えよう！

（1）簿記の５要素とは？

簿記は日々の活動（これを**取引**といいます）を帳簿へ記入しますが、**財政状態**を表す要素として**資産**、**負債**、**純資産**、**経営成績**を表す要素として**収益**、**費用**の５つの要素に分類して処理します。これを**簿記の５要素**といいます。

- **・財政状態：資産、負債、純資産**
- **・経営成績：収益、費用**

①　資産

資産とは、経営活動に役立つ財産をいいます（**プラスの財産**とイメージして下さい）。具体的には、現金、預金、売掛金、貸付金、商品、建物、備品、土地などが該当します。

②　負債

負債とは、将来お金を支払う義務をいいます（**マイナスの財産**とイメージして下さい）。具体的には、借入金、買掛金、未払金などが該当します。

③　純資産

純資産とは、資産から負債を差し引いた財産（**資産－負債＝純資産**）です（プラスの財産である資産からマイナスの財産である負債を差し引いた**純額の財産**とイメージして下さい）。また、純資産は会社を始める時にあらかじめ用意した元手となるお金と元手をもとに商売で儲けたお金（**利益**といいます）から構成されます。

具体的には、資本金、利益準備金、繰越利益剰余金などが該当します。なお、純資産のことを資本という場合もあります。

貸 借 対 照 表（B/S）

<table>
<tr><td rowspan="2">資　産</td><td>負　債</td></tr>
<tr><td>純資産</td></tr>
</table>

④　収益

収益とは、商品を販売した売上など、財産を増やす原因であり、商売によって獲得した成果です。具体的には、売上、受取利息、受取家賃、受取手数料などが該当します。このように、収益は「受取」という言葉が付く場合が多いです。

⑤　費用

費用とは、商品を購入（仕入といいます）した金額や人件費、広告宣伝費など、財産を減らす原因であり、収益を獲得するためにかかった犠牲です。具体的には、仕入、給　料、広告宣伝費、支払利息、支払手数料などが該当します。このように、費用は「支払」や「費」という言葉が付く場合が多いです。

損 益 計 算 書（P/L）

費　用	**収　益**
（利　益）	

利益は収益と費用の差額であり、簿記の５要素ではありません。

（２）簿記上の取引

簿記は日々の活動（取引）を帳簿に記入しますが、帳簿へ記入すべき取引は簿記の5要素である**資産・負債・純資産・収益・費用を増減させる取引**です。これを**簿記上の取引**といいます。一般に用いる「取引」という言葉と意味内容が異なる場合があるので注意して下さい。

例えば、不動産の賃貸契約を取り交わした場合、一般には取引という言葉を用いるかもしれませんが、簿記では、契約の段階では簿記の5要素が増減していませんので、簿記上の取引とはなりません。実際に賃貸期間が開始し、賃料が発生した時に簿記の5要素が増減するため、簿記上の取引となります。

（３）簿記の５要素と損益計算書・貸借対照表との関係

資産、**負債**、**純資産**は**財政状態**を表す要素ですので、**貸借対照表（B/S）**に記載します。また、**収益**、**費用**は**経営成績**を表す要素ですので、**損益計算書（P/L）**に記載します。

・財政状態：資産、負債、純資産 ―――→ 貸借対照表（B/S）
・経営成績：収益、費用 ―――→ 損益計算書（P/L）

貸借対照表の**左側に資産**を、**右側に負債・純資産**を記載します。ここで、貸借対照表の左側の合計金額と右側の合計金額は必ず一致します（**資産＝負債＋純資産**）。貸借対照表は左側と右側が一致（バランス）しますので、バランスシートというのです。なお、貸借対照表の右側は「負債 → 純資産」の順番で記載します。

損益計算書の**右側に収益**を、**左側に費用**を記載し、収益と費用の差額で**利益**を算定します（**収益－費用＝利益**）。なお、利益は収益と費用の差額であり、簿記の５要素ではありません。

貸 借 対 照 表（B/S）

資　産	**負　債**
	純資産

損 益 計 算 書（P/L）

費　用	**収　益**
（利　益）	

Point!　簿記の5要素がB/S・P/Lの右か左のどちらに記載されるかを覚えよう！

勘　定

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　借方と貸方を覚えよう！

②　勘定記入のルールを覚えよう！

（1）勘定とは？

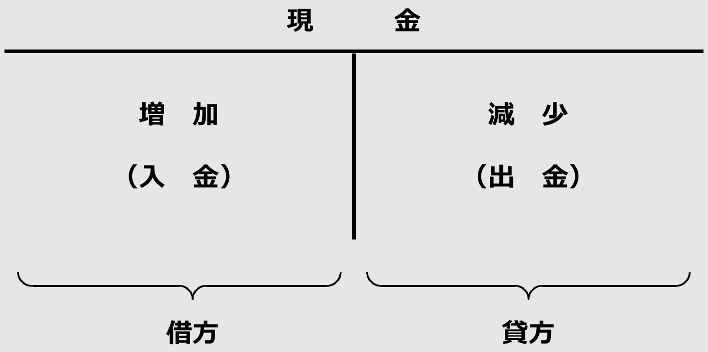
勘定（かんじょう）とは、資産・負債・純資産・収益・費用を記録・計算するための細分化した項目をいいます。**勘定口座**（かんじょうこうざ）とは、日々の活動である取引を記録する表（場所）であり、資産・負債・純資産・収益・費用の増加と減少を左側と右側に分けて記入します。これにより、それらの増加および減少、さらには残りの金額（**残高**（ざんだか）といいます）を記録します。勘定にはその内容がわかるように具体的な名前をつけますが、その名前を**勘定科目**（かんじょうかもく）といいます。

例として、現金勘定を示します。正式な勘定の形式は以下です。

現　　金

日付	摘　　要	仕丁	借　方	日付	摘　　要	仕丁	貸　方

また、アルファベットの「T」の形をしているT勘定という簡略版の勘定で示しますと、以下のようになります。現金の増加（入金）は左側、現金の減少（出金）は右側に記入します。なお、簿記では左側のことを**借方**（かりかた）、右側のことを**貸方**（かしかた）といいます。



Point!　借方の「り」と貸方の「し」に着目して、借方が左、貸方が右と覚えよう！

（2）勘定記入のルール

各勘定への記入は、簿記の５要素に関連して記入のルールが決まっています。

貸借対照表と損益計算書の**左側（借方）**に記載される**資産・費用**については、**増加は左側（借方）**に、減少は右側（貸方）に記入します。

貸借対照表と損益計算書の**右側（貸方）**に記載される**負債・純資産・収益**については、**増加は右側（貸方）**に、減少は左側（借方）に記入します。

貸 借 対 照 表（B/S）

資　産	**負　債**
	純資産

損 益 計 算 書（P/L）

費　用	**収　益**
（利　益）	

資産の勘定

増　加	減　少

収益の勘定

減　少	**増　加**

負債の勘定

減　少	**増　加**

費用の勘定

増　加	減　少

純資産の勘定

減　少	**増　加**

Point!　P/LとB/Sに記載される側が、「増加の記入側」と覚えよう！

簿記の基本原理①　問題

問題1　以下の①から⑤にあてはまる語句を記入しなさい。

貸借対照表

①	②	
	③	

損益計算書

④	⑤
利　益	

問題2　以下の①から⑩に、その勘定の借方または貸方へ増加したときに記入される場合には「増加」、減少したときに記入される場合には「減少」と記入しなさい。

資産の勘定

①	②

負債の勘定

③	④

純資産の勘定

⑤	⑥

収益の勘定

⑦	⑧

費用の勘定

⑨	⑩

簿記の基本原理①　答案用紙

問題1

①		②		③	
④		⑤			

問題2

①		②		③	
④		⑤		⑥	
⑦		⑧		⑨	
⑩					

簿記の基本原理① 解答解説

問題1 **解答**

①	資　産	②	負　債	③	純資産
④	費　用	⑤	収　益		

問題1 **解説**

貸借対照表の借方（左側）に資産、貸方（右側）に負債、純資産を記入します。また、損益計算書の貸方（右側）に収益、借方（左側）に費用を記入し、収益から費用を差し引いて利益を算定します。

貸 借 対 照 表

① 資　産	② 負　債
	③ 純資産

損 益 計 算 書

④ 費　用	⑤ 収　益
利　益	

問題2　**解答**

①	増　加	②	減　少	③	減　少
④	増　加	⑤	減　少	⑥	増　加
⑦	減　少	⑧	増　加	⑨	増　加
⑩	減　少				

問題2　**解説**

資産・費用は増加は借方（左側）に、減少は貸方（右側）に記入します。また、負債・純資産・収益は増加は貸方（右側）に、減少は借方（左側）に記入します。

資産の勘定

①増　加	②減　少

負債の勘定

③減　少	④増　加

純資産の勘定

⑤減　少	⑥増　加

収益の勘定

⑦減　少	⑧増　加

費用の勘定

⑨増　加	⑩減　少

簿記の基本原理②

仕　訳

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

仕訳の手順をマスターしよう！

（1）仕訳とは？

取引をいきなり勘定に記入すると記入間違えをしてしまうかもしれないので、勘定に記入する前に**仕訳**という手続きを行います。**仕訳**とは、取引を借方（左側）と貸方（右側）に分け、勘定科目と金額を決める手続きをいいます。仕訳で借方（左側）または貸方（右側）に複数の勘定科目が生じる場合がありますが、どの勘定科目を先に書くといったルールはありません。なお、取引を借方（左側）と貸方（右側）に分け、記録・計算する簿記を、**複式簿記**といいます。

（2）仕訳の手順

① 借方と貸方の簿記の５要素の決定

取引を借方と貸方に分け、簿記の5要素のどれにあてはまるかを決定します。

② 勘定科目の決定

取引を適切に表す具体的な勘定科目を決定します。

③ 金額の決定

各勘定科目ごとの金額を決定します。なお、必ず借方と貸方の金額は一致します。

例えば、「備品1,000円を現金で購入した」という取引を考えてみます。

① 借方と貸方の簿記の5要素の決定

備品という資産が増加（借方）し、現金という資産が減少（貸方）しました。

② 勘定科目の決定

備品は「備品」勘定（資産）、現金は「現金」勘定（資産）を用います。

③ 金額の決定

借方と貸方ともに、1,000円です。

したがって、仕訳は以下のようになります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
備　　　　品	**1,000**	**現　　　　金**	**1,000**

簡略版として、以下のように仕訳が示される場合もあります。

備　　　　品　　1,000 /　現　　　　金　　1,000

なお、金額については通常、３桁ごとにカンマ（ ,）を付します。

例題　**株主から現金3,000円の出資を受け、株式会社を設立した。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、出資は会社の元手となりますので、純資産の増加（貸方＝右側）として「**資本金**（しほんきん）」勘定（純資産）の増加として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　　金	**3,000**	**資　本　金**	**3,000**

例題　**現金2,000円を銀行から借り入れた。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、借入金（かりいれきん）という負債が増加（貸方＝右側）しましたので「**借入金**」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　　金	**2,000**	**借　入　金**	**2,000**

例題　**借入金の利息300円を現金で支払った。**

現金という資産が減少（貸方＝右側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の減少として処理します。また、支払利息（しはらいりそく）という費用が増加（借方＝左側）しましたので「**支払利息**」勘定（費用）の増加として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
支　払　利　息	**300**	**現　　金**	**300**

例題　**販売に関する手数料として、700円の現金を受け取った。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、受取手数料（うけとりてすうりょう）という収益が増加（貸方＝右側）しましたので、「**受取手数料**」勘定（収益）の増加として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　　金	**700**	**受　取　手　数　料**	**700**

Point!　**勘定科目は新しく出てきた都度、覚えていきましょう！**

転　記

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　転記のルールをマスターしよう！

②　貸借平均の原理の内容を理解しよう！

（1）転記とは？

仕訳のデータを各勘定（勘定口座）へ記入することを**転記**といいます。

（2）転記のルール

① 借方（左側）に仕訳された勘定科目はその勘定の借方（左側）に記入し、貸方（右側）に仕訳された勘定科目はその勘定の貸方（右側）に記入します。

② 日付欄には、仕訳が行われた日付（取引日）を記入します。

③ 摘要欄には、仕訳の相手勘定科目（貸借反対側の勘定科目）を記入します。

④ 借方欄または貸方欄には、仕訳の金額を記入します。

例えば、「1月1日に備品1,000円を現金で購入した」という取引を考えてみます。

日付	借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
1/1	**備　品**	**1,000**	**現　金**	**1,000**

備品が増加したので、備品勘定の借方に記入　**転記**↓

転記↓　現金が減少したので、現金勘定の貸方に記入

備　　品

(日付)	(摘　要)	(借　方)	
1/1	**現　金**	**1,000**	

現　　金

	(日付)	(摘　要)	(貸　方)
	1/1	**備　品**	**1,000**

摘要欄に相手勘定科目を記入することによって、勘定のみでも取引内容がわかります。「備品」勘定の摘要欄に「現金」が記入されていることから、備品を「現金」で購入したことがわかります。また、現金勘定の摘要欄に「備品」が記入されていることから、現金が減少したのは「備品」を購入したためであることがわかります。

例題　**次の仕訳を各勘定に転記しなさい。**

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
1/1	現　金	3,000	資　本　金	3,000
2/2	現　金	2,000	借　入　金	2,000
3/3	支　払　利　息	300	現　金	300
4/4	現　金	700	受　取　手　数　料	700

現　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資　本　金	3,000	3	3	支　払　利　息	300
2	2	借　入　金	2,000				
4	4	受　取　手　数　料	700				

借　入　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				2	2	現　金	2,000

資　本　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現　金	3,000

受取手数料

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				4	4	現　金	700

支 払 利 息

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	3	現　金	300				

（３）貸借平均の原理

仕訳において、借方（左側）と貸方（右側）の金額は必ず一致します。

また、仕訳のデータを各勘定に転記しますが、すべての勘定の借方（左側）に記入された金額の合計金額と貸方（右側）に記入された金額の合計金額も必ず一致します。

さらに、すべての勘定の借方残高の合計金額と貸方残高の合計金額も必ず一致します。これを**貸借平均の原理**（たいしゃくへいきんのげんり）といいます。

例えば、仕訳は以下のとおりとします。すべての仕訳の借方合計6,000円と貸方合計6,000円は必ず一致します。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1	現金	3,000	資本金	3,000
2/2	現金	2,000	借入金	2,000
3/3	支払利息	300	現金	300
4/4	現金	700	受取手数料	700
	借方合計	**6,000**	**貸方合計**	**6,000**

次に、勘定は以下のとおりです（実際の記入の仕方とは違う部分があります）。

現　　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000				
4	4	受取手数料	700				
		借方合計	**5,700**			**貸方合計**	**300**

残高（借方）＝5,700－300＝5,400

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				2	2	現　　　　金	2,000
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**2,000**

残高（貸方）＝2,000－0＝2,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	1	現　　　　金	3,000
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**3,000**

残高（貸方）＝3,000－0＝3,000

受取手数料

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				4	4	現　　　　金	700
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**700**

残高（貸方）＝700－0＝700

支 払 利 息

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
3	3	現　　　　金	300				
		借方合計	**300**			**貸方合計**	**0**

残高（借方）＝300－0＝300

　すべての勘定の借方合計6,000円（＝現金5,700円＋支払利息300円）とすべての勘定の貸方合計6,000円（＝現金300円＋借入金2,000円＋資本金3,000円＋受取手数料700円）は必ず一致します。

　また、借方に残高がある勘定の残高合計5,700円（＝現金5,400円＋支払利息300円）と貸方に残高がある勘定の残高合計5,700円（＝借入金2,000円＋資本金3,000円＋受取手数料700円）も必ず一致します。

試算表

【重要性：A】

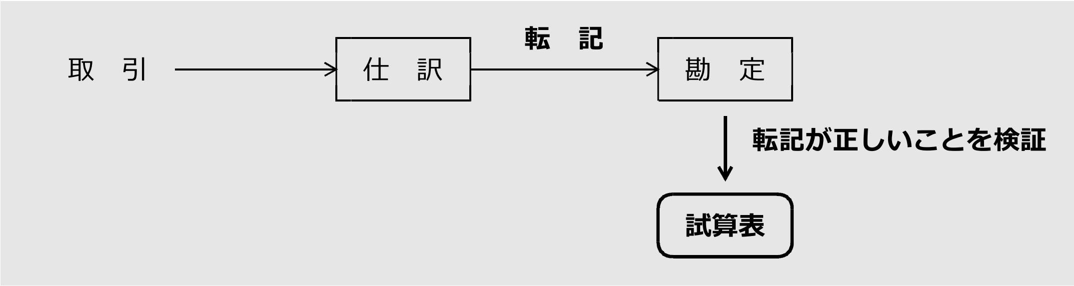
ＰＯＩＮＴ！

試算表について理解しよう！

（１）試算表とは？

取引が発生したら仕訳を行い、各勘定に転記します。しかし、転記が間違って行われる可能性があります。そこで、仕訳のデータが各勘定へ正しく転記されたかを検証するために、**試算表**を作成します。試算表は各勘定の金額を集計した表であり、借方合計と貸方合計が一致すること（**貸借平均の原理**）により、転記が正しいことを検証します。試算表は英語で Trial Balance というので、**T/B（ティービー）**と略します。

また、試算表を作成することで、損益計算書と貸借対照表を作成しやすくなります。



（２）試算表の種類

試算表には、合計試算表、残高試算表、合計残高試算表があります。

① **合計試算表**は、各勘定の貸借の**合計金額**を集計します。

② **残高試算表**は、各勘定の**残高**を集計します。

③ **合計残高試算表**は、合計試算表と残高試算表を１つにまとめた試算表です。

例題　**次の勘定に基づいて、①合計試算表、②残高試算表、③合計残高試算表を作成しなさい。**

現　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資　本　金	3,000	3	3	支　払　利　息	300
2	2	借　入　金	2,000				
4	4	受　取　手　数　料	700				

借　入　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				2	2	現　金	2,000

資　本　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現　金	3,000

受取手数料

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				4	4	現　金	700

支 払 利 息

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	3	現　金	300				

①　合計試算表

合　計　試　算　表

借　方	勘　定　科　目	貸　方
5,700	現　金	300
	借　入　金	2,000
	資　本　金	3,000
	受　取　手　数　料	700
300	支　払　利　息	
6,000		6,000

貸借平均の原理により、すべての勘定の借方合計6,000円とすべての勘定の貸方合計6,000円は必ず一致しますので、合計試算表で貸借が一致することで転記の正確性を検証します。

② 残高試算表

残　高　試　算　表

借　　方	勘定科目	貸　　方
5,400	現　　　　　金	
	借　　入　　金	2,000
	資　　本　　金	3,000
	受　取　手　数　料	700
300	支　払　利　息	
5,700		5,700

貸借平均の原理により、借方に残高がある勘定の残高合計5,700円と貸方に残高がある勘定の残高合計5,700円も必ず一致しますので、残高試算表で貸借が一致することで転記の正確性を検証します。

③ 合計残高試算表

合計残高試算表

借方		勘定科目	貸方	
残　高	合　計		合　計	残　高
5,400	5,700	現　　　　　金	300	
		借　　入　　金	2,000	2,000
		資　　本　　金	3,000	3,000
		受　取　手　数　料	700	700
300	300	支　払　利　息		
5,700	6,000		6,000	5,700

合計試算表と残高試算表の両方を１つの表にまとめたのが、合計残高試算表です。

簿記の基本原理②　問題

問題1　以下の取引について、仕訳を答えなさい。

①　株主から現金100,000円の出資を受け、会社を設立した。
②　備品3,000円を現金で購入した。
③　受取利息として現金2,000円を受け取った。
④　広告宣伝費1,000円を現金で支払った。
⑤　銀行から9,000円を借り入れ、現金を受け取った。
⑥　家賃700円を現金で支払った。
⑦　土地20,000円を現金で購入した。
⑧　給料8,000円を現金で支払った。
⑨　借入金5,000円を現金で返済した。
⑩　手数料として現金1,500円を受け取った。

問題2　以下の取引について、①仕訳を行い、②各勘定へ転記を行いなさい。

1/1　株主から現金80,000円の出資を受け、会社を設立した。
1/2　建物11,000円を現金で購入した。
1/3　家賃として現金9,000円を受け取った。
1/4　旅費交通費1,000円を現金で支払った。
1/5　銀行から4,000円を借り入れた。

問題3　以下の勘定にもとづいて、①合計試算表、②残高試算表、③合計残高試算表を作成しなさい。

現　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資本金	40,000	1	2	建物	20,000
	3	受取家賃	5,000		4	水道光熱費	1,000
	5	借入金	7,000				

建　　物

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	2	現金	20,000				

借 入 金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	5	現金	7,000

資 本 金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現金	40,000

受取家賃

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	3	現金	5,000

水道光熱費

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	4	現金	1,000				

簿記の基本原理② 答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

問題2

①　仕訳

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
1/1				
1/2				
1/3				
1/4				
1/5				

② 勘定記入

現　　金

日付	摘　　要	借　方	日付	摘　　要	貸　方

建　　物

日付	摘　　要	借　方	日付	摘　　要	貸　方

借 入 金

日付	摘　　要	借　方	日付	摘　　要	貸　方

資 本 金

日付	摘　　要	借　方	日付	摘　　要	貸　方

受 取 家 賃

日付	摘　　要	借　方	日付	摘　　要	貸　方

旅費交通費

日付	摘　　要	借　方	日付	摘　　要	貸　方

問題3

① 合計試算表

合計試算表

借方	勘定科目	貸方
	現金	
	建物	
	借入金	
	資本金	
	受取家賃	
	水道光熱費	

② 残高試算表

残高試算表

借方	勘定科目	貸方
	現金	
	建物	
	借入金	
	資本金	
	受取家賃	
	水道光熱費	

③　合計残高試算表

合 計 残 高 試 算 表

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
		現金		
		建物		
		借入金		
		資本金		
		受取家賃		
		水道光熱費		

簿記の基本原理② 解答解説

問題1　解答

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①	**現金**	**100,000**	**資本金**	**100,000**
②	**備品**	**3,000**	**現金**	**3,000**
③	**現金**	**2,000**	**受取利息**	**2,000**
④	**広告宣伝費**	**1,000**	**現金**	**1,000**
⑤	**現金**	**9,000**	**借入金**	**9,000**
⑥	**支払家賃**	**700**	**現金**	**700**
⑦	**土地**	**20,000**	**現金**	**20,000**
⑧	**給料**	**8,000**	**現金**	**8,000**
⑨	**借入金**	**5,000**	**現金**	**5,000**
⑩	**現金**	**1,500**	**受取手数料**	**1,500**

問題1　解説

まずは現金が増加したか、減少したかを考えましょう。現金が増加した場合には借方（左側）に、現金が減少した場合には貸方（右側）に記入します。次に現金の相手勘定科目を現金が記入された側の反対側に記入しましょう。

① 株主からの出資は「資本金」勘定（純資産）の増加として、貸方（右側）に記入します。
② 備品は資産です。「備品」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。
③ 受取利息は銀行に預金したことや取引先にお金を貸したことにより受け取った利息であり、収益です。「受取利息」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。
④ 広告宣伝費は費用です。「広告宣伝費」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。
⑤ 銀行から借りたお金は借入金という負債です。「借入金」勘定（負債）の増加として、貸方（右側）に記入します。

⑥　支払家賃は費用です。「支払家賃」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑦　土地は資産です。「土地」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑧　給料は費用です。「給料」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑨　借入金を返済すると負債が減少します。「借入金」勘定（負債）の減少として、借方（左側）に記入します。

⑩　受取手数料は収益です。「受取手数料」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。

問題2　**解答**

①　仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1	**現金**	**80,000**	**資本金**	**80,000**
1/2	**建物**	**11,000**	**現金**	**11,000**
1/3	**現金**	**9,000**	**受取家賃**	**9,000**
1/4	**旅費交通費**	**1,000**	**現金**	**1,000**
1/5	**現金**	**4,000**	**借入金**	**4,000**

②　勘定記入

現　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	80,000	1	2	建物	11,000
	3	受取家賃	9,000		4	旅費交通費	1,000
	5	借入金	4,000				

建　物

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	2	現金	11,000				

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	5	現　　　　　金	4,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	1	現　　　　　金	80,000

受 取 家 賃

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	3	現　　　　　金	9,000

旅費交通費

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	4	現　　　　　金	1,000				

問題2　**解説**

①　仕訳

1/1 株主からの出資は「資本金」勘定（純資産）の増加として、貸方（右側）に記入します。

1/2 建物は資産です。「建物」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。

1/3 受取家賃は収益です。「受取家賃」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。

1/4 旅費交通費は費用です。「旅費交通費」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

1/5 借入金は負債です。「借入金」勘定（負債）の増加として、貸方（右側）に記入します。

②　転記記入

借方に仕訳された勘定科目はその勘定の借方に記入し、貸方に仕訳された勘定科目はその勘定の貸方に記入します。摘要欄には、仕訳の相手勘定科目を記入し、借方欄または貸方欄には、仕訳の金額を記入します。

問題3　**解答**

①　合計試算表

合　計　試　算　表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
52,000	現　　　　　　金	21,000
20,000	建　　　　　　物	
	借　　入　　金	7,000
	資　　本　　金	40,000
	受　取　家　賃	5,000
1,000	水　道　光　熱　費	
73,000		73,000

②　残高試算表

残　高　試　算　表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
31,000	現　　　　　　金	
20,000	建　　　　　　物	
	借　　入　　金	7,000
	資　　本　　金	40,000
	受　取　家　賃	5,000
1,000	水　道　光　熱　費	
52,000		52,000

③　合計残高試算表

合 計 残 高 試 算 表

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
31,000	52,000	現金	21,000	
20,000	20,000	建物		
		借入金	7,000	7,000
		資本金	40,000	40,000
		受取家賃	5,000	5,000
1,000	1,000	水道光熱費		
52,000	73,000		73,000	52,000

問題3　解説

①　合計試算表には、各勘定の借方合計金額、貸方合計金額を記入します。単純に、借方に記入されている金額を合計し、貸方に記入されている金額を合計するだけです。

②　残高試算表には、各勘定の残高を記入します。各勘定の借方合計と貸方合計を相殺して残高を算定する必要があります。

③　合計残高試算表は①と②の両方を記入します。

簿記の基本原理③

損益計算書と貸借対照表のひな形

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

新しく勘定を学習したら、P/LとB/Sのひな形で確認しよう！

新しく勘定科目(かんじょうかもく)を学習したら、それが損益計算書(そんえきけいさんしょ)または貸借対照表(たいしゃくたいしょうひょう)のどこに記載されるかを確認して下さい。なお、勘定科目の記載順番は覚える必要はありません。

損益計算書

2031年4月1日から2032年3月31日まで

売上原価	×××	売上高	×××
発送費	×××	受取家賃	×××
給料	×××	受取地代	×××
法定福利費	×××	受取手数料	×××
広告宣伝費	×××	受取利息	×××
支払手数料	×××	雑益	×××
旅費交通費	×××	貸倒引当金戻入	×××
貸倒引当金繰入	×××	固定資産売却益	×××
貸倒損失	×××	償却債権取立益	×××
減価償却費	×××		
通信費	×××		
消耗品費	×××		
水道光熱費	×××		
支払家賃	×××		
支払地代	×××		
保険料	×××		
租税公課	×××		
修繕費	×××		
保管費	×××		
諸会費	×××		
雑費	×××		
支払利息	×××		
雑損	×××		
固定資産売却損	×××		
法人税、住民税及び事業税	×××		
当期純利益	×××		
	×××		×××

貸借対照表

2032年3月31日

現金		×××	支払手形	×××
小口現金		×××	買掛金	×××
当座預金		×××	電子記録債務	×××
普通預金		×××	前受金	×××
定期預金		×××	借入金	×××
受取手形	×××		手形借入金	×××
売掛金	×××		未払金	×××
クレジット売掛金	×××		未払配当金	×××
電子記録債権	×××		仮受金	×××
貸倒引当金	×××	×××	未払費用	×××
商品		×××	前受収益	×××
貯蔵品		×××	預り金	×××
貸付金		×××	未払消費税	×××
手形貸付金		×××	未払法人税等	×××
立替金		×××	資本金	×××
前払金		×××	利益準備金	×××
未収入金		×××	繰越利益剰余金	×××
仮払金		×××		
受取商品券		×××		
前払費用		×××		
未収収益		×××		
建物	×××			
備品	×××			
車両運搬具	×××			
減価償却累計額	×××	×××		
土地		×××		
差入保証金		×××		
		×××		×××

当期純利益の算定

【重要性：A】

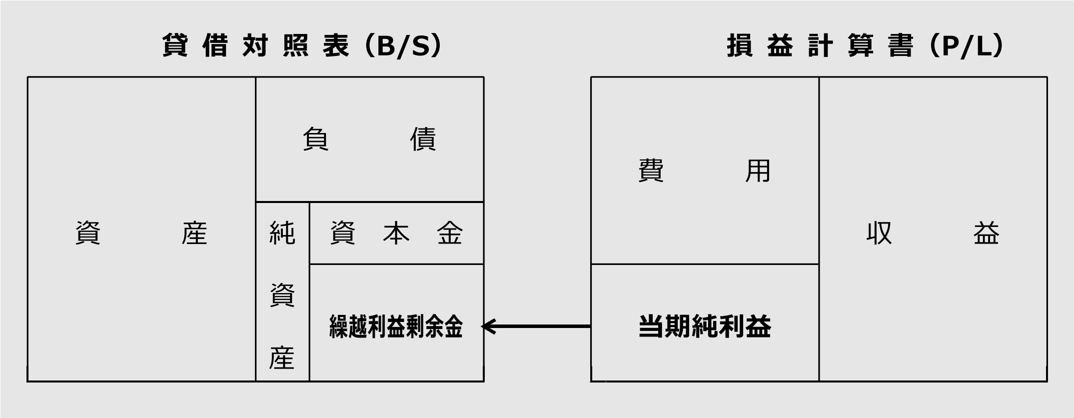
ＰＯＩＮＴ！

当期純利益の算定式を覚えよう！

損益計算書では、収益から費用を差し引いて**利益**を算定します。その利益は当期の一年間で獲得した純額の利益ですので損益計算書において**当期純利益**として表示されます。

収益　－　費用　＝　当期純利益

この当期純利益は、貸借対照表では**繰越利益剰余金**（純資産）として計上されます。詳しくは、後で学習します。



なお、収益より費用が多い場合には、損益計算書において**当期純損失**として表示されます。

P/L・B/Sの作成

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

勘定残高（残高試算表）とP/L・B/Sの関係をマスターしよう！

（1）勘定残高からP/L・B/Sの作成

各勘定の残高をもとに損益計算書・貸借対照表を作成します。

仕　訳 ―（転　記）→ **勘　定** → **P/L・B/S**

勘定から損益計算書・貸借対照表を作成する場合も転記と同様に行います。つまり、**借方残高**の勘定は損益計算書または貸借対照表の**借方**（左側）に記載し、**貸方残高**の勘定は損益計算書または貸借対照表の**貸方**（右側）に記載します。通常、資産・費用は借方残高に、負債・純資産・収益は貸方残高になります。

例題　**次の勘定に基づいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。**

現　　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	1	資　本　金	3,000	3	3	支　払　利　息	300
2	2	借　入　金	2,000				
4	4	受 取 手 数 料	700				

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				2	2	現　　金	2,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	1	現　　金	3,000

受取手数料

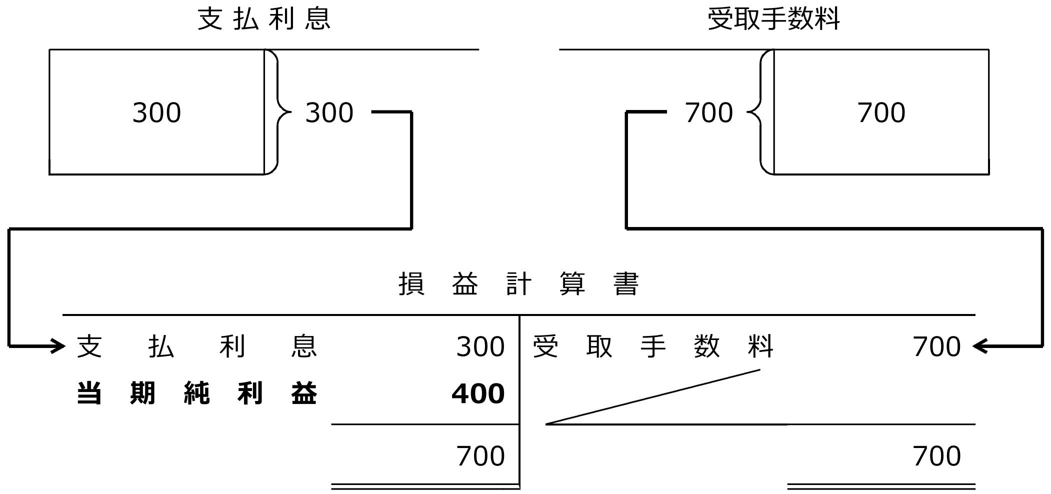
日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				4	4	現　　金	700

支 払 利 息

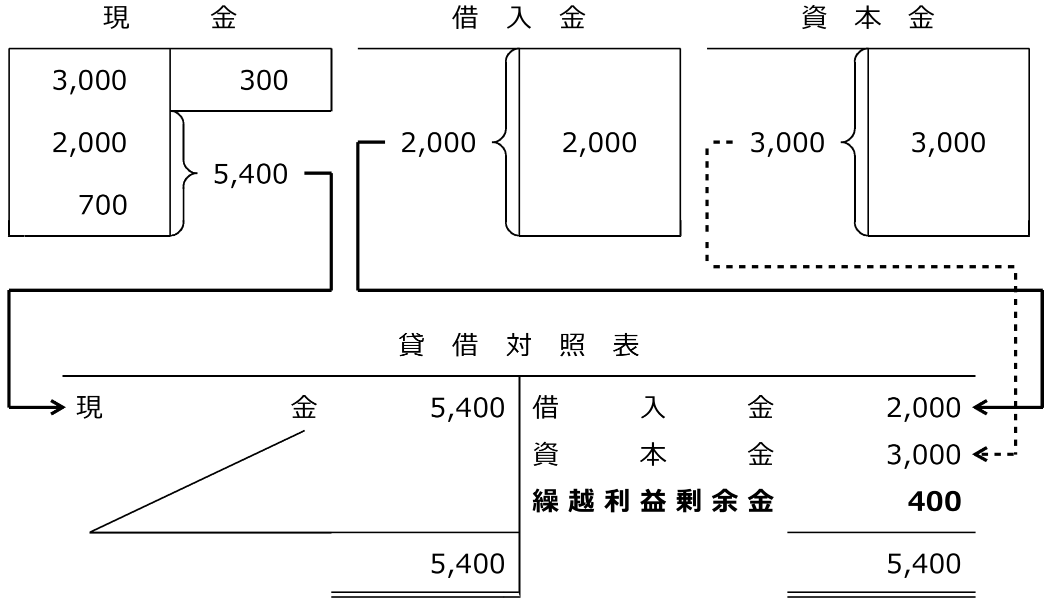
日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
3	3	現　　金	300				

各勘定の残高を算定し、収益・費用は損益計算書へ、資産・負債・純資産は貸借対照表へ記載します。イメージしやすいように各勘定残高と損益計算書・貸借対照表の関係を示すと、以下のようになります。

なお、損益計算書で算定した当期純利益は貸借対照表では**繰越利益剰余金（純資産）**として貸方に計上しますので、損益計算書を作成してから、貸借対照表を作成すると良いでしょう。



当期純利益は**収益－費用**で算定します。



（２）残高試算表からP/L・B/Sの作成

残高試算表をもとにして、損益計算書・貸借対照表を作成することもできます。

その作成方法は勘定残高の場合と同様に、**借方残高**の勘定は損益計算書または貸借対照表の**借方**（左側）に記載し、**貸方残高**の勘定は損益計算書または貸借対照表の**貸方**（右側）に記載します。

例題　**次の残高試算表に基づいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。**

残　高　試　算　表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
5,400	現　　　　　金	
	借　　入　　金	2,000
	資　　本　　金	3,000
	受　取　手　数　料	700
300	支　払　利　息	
5,700		5,700

損　益　計　算　書

支　払　利　息	300	受　取　手　数　料	700
当　期　純　利　益	400		
	700		700

貸　借　対　照　表

現　　　　　金	5,400	借　　入　　金	2,000
		資　　本　　金	3,000
		繰越利益剰余金	400
	5,400		5,400

主要簿と補助簿

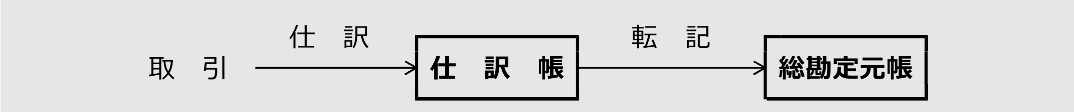
【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

帳簿の種類を覚えよう！

（１）仕訳帳と総勘定元帳

仕訳を記入する帳簿を**仕訳帳**（しわけちょう）といいます。また、各勘定を記入する帳簿を**総勘定元帳**（そうかんじょうもとちょう）（単に、**元帳**（もとちょう）という場合もあります）といいます。仕訳帳は仕訳を行うノート、総勘定元帳は各勘定が集まったノートをイメージして下さい。



仕訳帳と総勘定元帳のひな形を以下に示しますが､具体的な記入方法は後で学習します。

仕　　訳　　帳

1

日付		摘　　要	元丁	借　方	貸　方
4	1	(現　　　　金)	1	10,000	
		(資　　本　　金)	7		10,000
		株式会社Aを設立した			

総 勘 定 元 帳

現　　金　　1

日付		摘　　要	仕丁	借　方	日付		摘　　要	仕丁	貸　方
4	1	資　　本　　金	1	10,000					

資　本　金　　7

日付		摘　　要	仕丁	借　方	日付		摘　　要	仕丁	貸　方
					4	1	現　　　　金	1	10,000

（2）主要簿と補助簿

仕訳帳と総勘定元帳は損益計算書と貸借対照表を作成するために、必ず必要な帳簿ですので**主要簿**（しゅようぼ）といわれます。

また、会社は必要に応じて主要簿以外の帳簿を使う場合があります。特定の取引や特定の勘定について、より詳細に管理・把握したいときに主要簿を補助する**補助簿**（ほじょぼ）という帳簿を使用します。なお、補助簿は**補助記入帳**（ほじょきにゅうちょう）と**補助元帳**（ほじょもとちょう）に分けられます。

補助記入帳とは、特定の取引の明細を記録する補助簿をいいます。補助元帳とは、特定の勘定について会社別、種類別の明細を記録する補助簿をいいます。

例えば、以下のものがありますが、具体的な記入方法は後で学習します。

- **主要簿**　仕訳帳、総勘定元帳
- **補助簿**
  - **補助記入帳** … 現金出納帳（げんきんすいとうちょう）、小口現金出納帳（こぐちげんきんすいとうちょう）、当座預金出納帳（とうざよきんすいとうちょう）、売上帳（うりあげちょう）、仕入帳（しいれちょう）、受取手形記入帳（うけとりてがたきにゅうちょう）、支払手形記入帳（しはらいてがたきにゅうちょう）
  - **補助元帳** … 売掛金元帳（うりかけきんもとちょう）、買掛金元帳（かいかけきんもとちょう）、商品有高帳（しょうひんありだかちょう）、固定資産台帳（こていしさんだいちょう）

簿記一巡

【重要性：A】

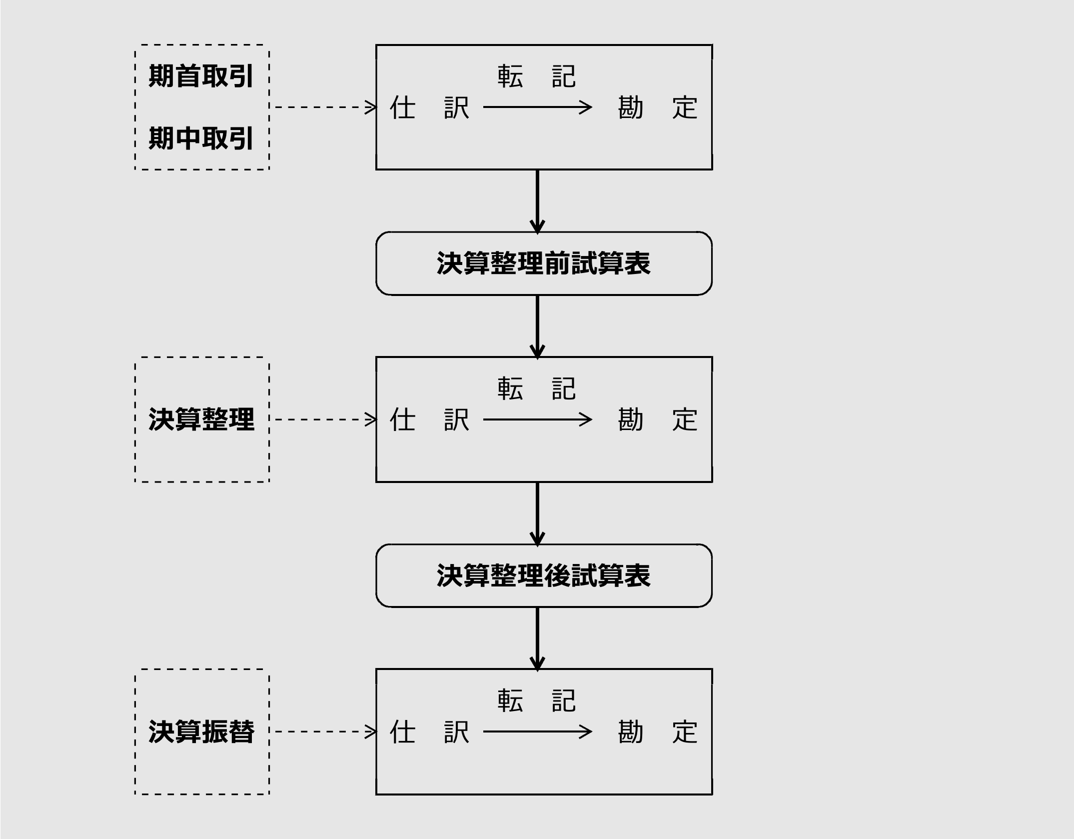
ＰＯＩＮＴ！

① 簿記一巡をイメージできるようにしよう！

② 決算整理をイメージできるようにしよう！

（１）簿記一巡とは？

簿記の手続きには、①期首取引、②期中取引、③決算整理、④決算振替があります。それら一会計期間に行う簿記の手続きを**簿記一巡**といいます。簿記一巡を図で示すと以下のようになります。



これまで日々の取引について仕訳を行ってきましたが、それは②期中取引に該当します。

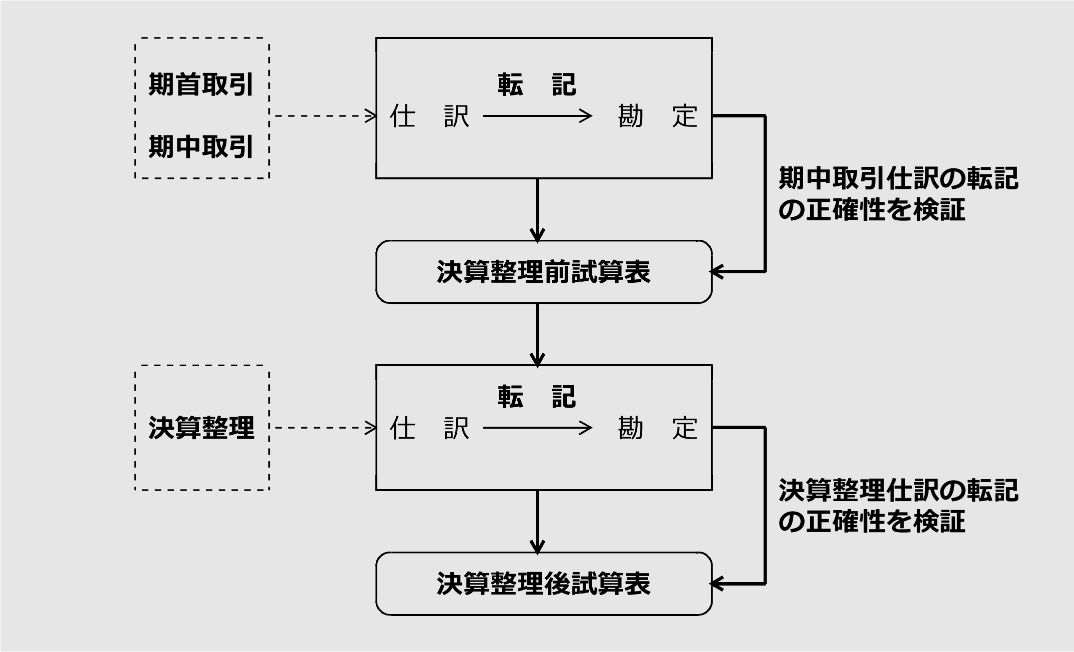
なお、これからの学習において、処理している仕訳が期中取引仕訳なのか、決算整理仕訳なのかをしっかり区別することが大切です。

（2）決算整理

決算（けつさん）とは、経営成績や財政状態を明らかにするため、必要な処理を行い、帳簿を締め切り、損益計算書や貸借対照表を作成するという一連の手続きをいいます。

その中でも、期中取引が正しく行われていても当期の経営成績や財政状態を正しく表すために、必要な修正を行うことを**決算整理**（けつさんせいり）といい、決算整理に関する仕訳を**決算整理仕訳**（けつさんせいりしわけ）といいます。

決算に入る前に、期首取引仕訳や期中取引仕訳の転記の正確性を検証するために試算表を作成します。これを**決算整理前試算表**（けつさんせいりまえしさんひょう）**（前T/B）**といいます。また、決算整理仕訳が行われた後に、決算整理仕訳の転記の正確性を検証するために試算表を作成します。これを**決算整理後試算表**（けつさんせいりごしさんひょう）**（後T/B）**といいます。



決算整理としては、例えば以下のものがありますが、具体的な内容は後で学習します。

売上原価（うりあげげんか）の算定、当座借越（とうざかりこし）の振替、有形固定資産の減価償却（げんかしょうきゃく）、現金過不足（げんきんかふそく）の処理、貸倒引当金（かしだおれひきあてきん）の設定、収益と費用の前受・前払と未収・未払の算定、貯蔵品（ちょぞうひん）の振替、消費税の納付額の算定、法人税等の計上

簿記の基本原理③ 問題

問題1 以下の勘定にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

現　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	40,000	1	2	建物	20,000
	3	受取家賃	5,000		4	水道光熱費	1,000
	5	借入金	7,000				

建　物

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	2	現金	20,000				

借入金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				1	5	現金	7,000

資本金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				1	1	現金	40,000

受取家賃

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				1	3	現金	5,000

水道光熱費

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	4	現金	1,000				

問題2　以下の合計試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

合　計　試　算　表

借　　方	勘 定 科 目	貸　　方
74,000	現　　　　金	69,000
40,000	建　　　　物	11,000
30,000	土　　　　地	
6,000	借　入　金	25,000
	資　本　金	40,000
3,000	受　取　家　賃	12,000
4,500	旅　費　交　通　費	500
157,500		157,500

簿記の基本原理③ 答案用紙

問題1

損 益 計 算 書

水道光熱費	(　　)	受取家賃	(　　)
当期純利益	(　　)		
	(　　)		(　　)

貸 借 対 照 表

現金	(　　)	借入金	(　　)
建物	(　　)	資本金	(　　)
		繰越利益剰余金	(　　)
	(　　)		(　　)

問題2

損 益 計 算 書

旅費交通費	(　　)	受取家賃	(　　)
当期純利益	(　　)		
	(　　)		(　　)

貸 借 対 照 表

現金	(　　)	借入金	(　　)
建物	(　　)	資本金	(　　)
土地	(　　)	繰越利益剰余金	(　　)
	(　　)		(　　)

簿記の基本原理③　解答解説

問題1　**解答**

損　益　計　算　書

水道光熱費	(1,000)	受取家賃	(5,000)
当期純利益	(4,000)		
	(5,000)		(5,000)

貸　借　対　照　表

現金	(31,000)	借入金	(7,000)
建物	(20,000)	資本金	(40,000)
		繰越利益剰余金	(4,000)
	(51,000)		(51,000)

問題1　**解説**

損益計算書と貸借対照表には各勘定の残高を表示します。したがって、現金は31,000（＝40,000＋5,000＋7,000－20,000－1,000）として表示します。

当期純利益は収益5,000－費用1,000の差額（＝4,000）として算定します。

損益計算書で算定された当期純利益は、貸借対照表において、繰越利益剰余金として表示されます。

問題2 **解答**

損　益　計　算　書

旅費交通費	(4,000)	受取家賃	(9,000)
当期純利益	(5,000)		
	(9,000)		(9,000)

貸　借　対　照　表

現金	(5,000)	借入金	(19,000)
建物	(29,000)	資本金	(40,000)
土地	(30,000)	繰越利益剰余金	(5,000)
	(64,000)		(64,000)

問題2 **解説**

損益計算書と貸借対照表には各勘定の残高を表示します。したがって、各勘定の表示される金額は以下となります。

現　　金：74,000－69,000＝5,000
建　　物：40,000－11,000＝29,000
借 入 金：25,000－6,000＝19,000
受取家賃：12,000－3,000＝9,000
旅費交通費：4,500－500＝4,000
当期純利益は収益9,000－費用4,000の差額（＝5,000）として算定します。

損益計算書で算定された当期純利益は、貸借対照表において、繰越利益剰余金として表示されます。

商品売買①

三分法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 三分法の仕訳をマスターしよう！

② 前T/B・後T/Bにおけるそれぞれの勘定の意味を理解しよう！

主な勘定科目

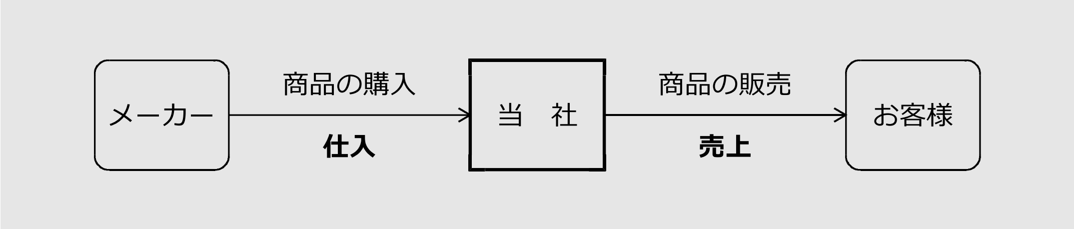
「繰越商品」勘定（資産）

「仕入」勘定（費用）

「売上」勘定（収益）

日商簿記３級では、他の会社が製造した商品を購入して、外部に販売する会社が対象となります（このような簿記を**商業簿記**といいます）。ここでは、商品の売買取引の処理方法を学習します。

なお、商品を購入することを「**仕入**」、商品を販売することを「**売上**」といいます。また、商品を仕入れた時の金額を**原価**（仕入原価）、販売した時の金額を**売価**といいます。



（１）三分法とは？

三分法とは、商品売買取引を「**繰越商品**」勘定（**資産**）、「**仕入**」勘定（**費用**）、「**売上**」勘定（**収益**）の３つの勘定を用いて仕訳する方法です。

（２）売上高

売上高とは、商品を販売したことによる**収益**であり、「**売上**」勘定（収益）で処理します。

（３）売上原価

売上原価とは、販売した商品の購入代金（これを**取得原価**といいます）をいい、**費用**の科目です。売上原価は、当期に仕入れた商品の金額ではなく、当期に売り上げた商品の取得原価です。売上原価は以下の式で算定します。

売上原価 ＝ 期首の商品在庫(期首商品棚卸高) ＋ 当期商品仕入高
－ 期末の商品在庫(期末商品棚卸高)

（４）期首商品がない場合

例題　商品10個を@100円で仕入れ、代金1,000円は現金で支払った。そのうち、８個を@120円で販売し、代金960円は現金で受け取った。その結果、期末に商品200円（@100円、２個）が在庫として残っている。

①　仕入時（期中取引）

商品を仕入れると資産である商品が増加しますが、この商品は販売することを目的として購入した資産であり、これを販売すると売上という収益を獲得する原因である**費用**に変わります。そこで、三分法では販売することを想定して、商品購入時に資産でなく**費用**である「**仕入**」勘定で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　　入	**1,000**	**現　　金**	**1,000**

②　売上時（期中取引）

商品を販売した時には「**売上**」勘定（**収益**）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　金	**960**	**売　　上**	**960**

③　決算整理前残高試算表

扱う論点に着目してもらうために、以下の決算整理前残高試算表は扱う論点に関係のある勘定科目のみを示しています。この場合、借方合計と貸方合計は一致していませんが、あくまでも一部のみを示していますので注意して下さい。

決算整理前残高試算表（一部）

仕　　入	1,000	売　　上	960

④　決算整理（売上原価の算定）

前T/Bでは「仕入」勘定（費用）の金額は当期に仕入れた10個分の1,000円となっています。しかし、そのうち２個は期末に在庫として残っており、費用とはなりません。費用とすべき金額は販売した商品の購入金額である800円（＝@100×8個）です。また、期末在庫200円（＝@100×２個）は資産としての価値がありますので、資産として計上する必要があります。

そこで、決算にあたり、期末商品を「**仕入**」勘定（**費用**）から差し引くとともに「**繰越商品**」勘定（**資産**）に計上します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
繰　越　商　品	**200**	**仕　　　入**	**200**

⑤　決算整理後残高試算表

決算整理を行うことによって、決算整理後の「仕入」勘定（費用）は売上原価の金額である800円となります。また、「繰越商品」勘定（資産）は期末商品200円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

繰　越　商　品	200	売　　　上	960
仕　　　入	800		

⑥　損益計算書・貸借対照表

損益計算書において「売上」勘定（収益）は**売上高**として、「仕入」勘定（費用）は**売上原価**として表示され、貸借対照表において「繰越商品」勘定（資産）は**商品**として表示されます。

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	800	**売　　上　　高**	960

貸　借　対　照　表（一部）

商　　　品	200		

（５）期首商品がある場合

例題　**期首に商品200円（@100円、2個）があった。商品11個を@100円で仕入れ、代金1,100円は現金で支払った。また、10個を@120円で販売し、代金1,200円は現金で受け取った。期末に商品300円（@100円、3個）が在庫として残っている。**

①　期首残高

　後で学習しますが、資産、負債、純資産の各勘定の残高は、前期から当期に繰り越されます。ここでは「繰越商品」勘定（資産）の前期末残高200円が前期から繰り越されてきたことがわかれば良いです。なお、「繰越商品」勘定（資産）の記入は以下となります。

繰 越 商 品

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
4	1	前　期　繰　越	200				

②　仕入時（期中取引）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　入	**1,100**	**現　　金**	**1,100**

③　売上時（期中取引）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　金	**1,200**	**売　　上**	**1,200**

④　決算整理前残高試算表

　決算整理前残高試算表における「繰越商品」勘定（資産）200円は、期首商品の金額です。

決算整理前残高試算表（一部）

繰　越　商　品	200	売　　上	1,200
仕　　入	1,100		

⑤　決算整理（売上原価の算定）

・期首商品

売上原価を算定するために、期首商品が当期にすべて売れたと考えて、期首商品を「繰越商品」勘定（資産）から差し引くとともに「仕入」勘定（費用）に計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　　入	**200**	**繰越商品**	**200**

・期末商品

売上原価を算定するために、期末商品を「仕入」勘定（費用）から差し引くとともに「繰越商品」勘定（資産）に計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越商品	**300**	**仕　　入**	**300**

⑥　決算整理後残高試算表

決算整理を行うことによって、決算整理後の「仕入」勘定（費用）は売上原価の金額である1,000円となります。また、「繰越商品」勘定（資産）は期末商品300円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

繰越商品	300	売　　上	1,200
仕　　入	1,000		

仕入：前T/B 1,100＋期首商品200－期末商品300＝1,000

⑦　損益計算書・貸借対照表

損益計算書（一部）

売上原価	1,000	売上高	1,200

貸借対照表（一部）

商　　品	300		

（6）まとめ　三分法

①　売上原価の算定の仕訳（決算整理仕訳）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	×××	**繰　越　商　品**	×××
繰　越　商　品	×××	**仕　　　　入**	×××

しいれくりしょう　くりしょうしいれ

Point! 「仕入/繰商、繰商/仕入」または「し・くり・くり・し」と覚えましょう！

②　前T/B・後T/Bにおける各勘定の意味

決算整理仕訳を行うので、「繰越商品」勘定と「仕入」勘定の金額が、決算整理前残高試算表（前T/B）と決算整理後残高試算表（後T/B）で異なります。

「繰越商品」勘定は前T/Bにおいては**期首商品**の金額を表しますが、後T/Bでは**期末商品**の金額を表します。また、「仕入」勘定は前T/Bにおいては当期に仕入れた商品（**当期仕入**）の金額を表しますが、後T/Bでは**売上原価**の金額を表します。

	決算整理前残高試算表	決算整理後残高試算表
繰越商品勘定	**期首商品**	**期末商品**
仕 入 勘 定	**当期仕入**	**売上原価**
売 上 勘 定	**売 上 高**	

③　ボックス図

商品売買について、以下のボックス図を書くと理解しやすいでしょう。

商　　品

期首商品	200	売上原価	1,000
当期仕入	1,100	期末商品	300

売掛金・買掛金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　売掛金・買掛金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「売掛金」勘定（資産）

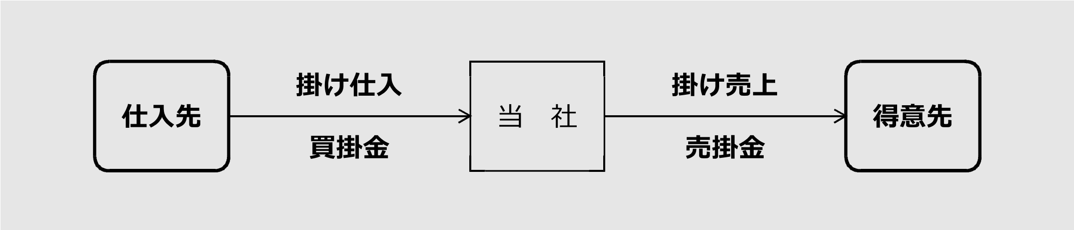
「買掛金」勘定（負債）

（1）売掛金・買掛金とは？

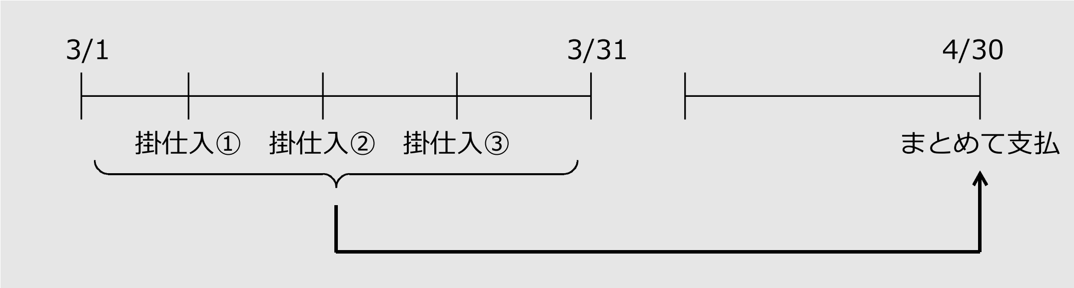
売掛金（うりかけきん）とは、商品の販売代金を売上時には受け取らず、後日に販売代金を受け取る権利をいい、**「売掛金」**勘定（**資産**）で処理します。

買掛金（かいかけきん）とは、商品の仕入時に購入代金を支払わず、後日に購入代金を支払う義務をいい、**「買掛金」**勘定（**負債**）で処理します。

なお、仕入を行う取引先を**仕入先**（しいれさき）、販売を行う取引先を**得意先**（とくいさき）といいます。



このように、取引時に代金の支払や受取をせず、後日に代金の支払や受取を行う取引を**掛け**（か）による取引といいます。これにより、取引の都度お金を用意する必要がなくなります。「月末締め、翌月末払い」といった取引条件は、取引の都度支払を行わずに1ヶ月の取引高を取引月の翌月にまとめて支払うことですので、掛けによる取引を意味します。



（2）会計処理

① 買掛金

例題　商品1,000円を掛けで仕入れた。

買掛金という、後日代金を支払う義務（負債）が生じたので「買掛金」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**1,000**	**買掛金**	**1,000**

例題　買掛金1,000円を現金で支払った。

代金を支払うと買掛金という負債が減少するので「買掛金」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**1,000**	**現金**	**1,000**

② 売掛金

例題　商品を1,200円で掛けで売り上げた。

売掛金という、後日代金を受け取る権利（資産）が生じたので「売掛金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**1,200**	**売上**	**1,200**

例題　売掛金1,200円を現金で受け取った。

代金を受け取ると売掛金という資産が減少するので「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,200**	**売掛金**	**1,200**

前払金・前受金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　前払金・前受金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「前払金」勘定（資産）

「前受金」勘定（負債）

（１）前払金・前受金とは？

商品を仕入れる前に代金の一部を内金や手付金として前払いする場合があります。これを**前払金**（まえばらいきん）といいます。この場合、後日、商品を受け取る権利が生じますので、これを「**前払金**（または、前渡金（まえわたしきん））」勘定（**資産**）で処理します。

商品を販売する前に代金の一部を内金や手付金として前受けする場合があります。これを**前受金**（まえうけきん）といいます。この場合、後日、商品を引き渡す義務が生じますので、これを「**前受金**」勘定（**負債**）で処理します。

（２）会計処理

① 前払金

例題　商品800円を注文し、内金として200円を現金で支払った。

前払金という資産が増加したので「前払金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
前払金	**200**	**現金**	**200**

例題　商品800円を仕入れ、代金のうち200円は注文時に支払った内金と相殺し、残額600円は掛けとした。

実際に商品を仕入れたので、前払金という商品を受け取る権利（資産）が減少したので「前払金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**800**	**前払金**	**200**
		買掛金	**600**

② 前受金

例題 **商品800円の注文を受け、内金として200円を現金で受け取った。**

前受金という負債が増加したので「前受金」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**200**	**前受金**	**200**

例題 **商品800円を売り上げ、代金のうち200円は注文時に受け取った内金と相殺し、残額600円は掛けとした。**

実際に商品を販売したので、前受金という商品を引き渡す義務（負債）が減少したため「前受金」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
前受金	**200**	**売上**	**800**
売掛金	**600**		

商品売買① 問題

問題1　期末商品は2,000円であった。そこで、①決算整理仕訳を行うとともに、②仕入勘定と繰越商品勘定を記入（勘定の締切りは不要）し、③決算整理後残高試算表の空欄にあてはまる金額を答えなさい。なお、決算日は3月31日である。

決算整理前残高試算表（一部）

繰　越　商　品	1,500	売　　　　上	16,000
仕　　　　入	13,000		

問題2　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　商品4,000円を仕入れ、代金のうち1,000円は現金で支払い、残額は掛けとした。
②　商品を6,000円で売り渡し、代金のうち1,500円は現金で受け取り、残額は掛けとした。
③　商品4,200円を注文し、手付金として500円を現金で支払った。
④　商品仕入の掛代金3,000円を現金で支払った。
⑤　商品4,200円を仕入れ、代金のうち500円は手付金として支払っていたので、残額を現金で支払った。
⑥　商品4,800円の注文を受け、内金として1,200円を現金で受け取った。
⑦　得意先から先月締めの掛代金4,500円の回収として、振込手数料200円（当社負担）を差し引かれた残額が当社の普通預金口座に振り込まれた。
⑧　商品4,800円を販売し、代金のうち1,200円は内金として受け取っていたので相殺し、残額を現金で受け取った。
⑨　仕入先に対して買掛金の支払額5,000円と次回の商品仕入のための手付金4,000円として、小切手9,000円を振り出した。

商品売買① 答案用紙

問題1

① 決算整理仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/31				
〃				

② 勘定記入

繰越商品

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
4	1	前期繰越	1,500				

仕入

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
8	8	現金	13,000				

③ 決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表

繰越商品	( )	売上	( )
仕入	( )		

問題2

	借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				

商品売買① 解答解説

問題1　解答

①　決算整理仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/31	**仕　　入**	**1,500**	**繰越商品**	**1,500**
〃	**繰越商品**	**2,000**	**仕　　入**	**2,000**

②　勘定記入

繰越商品

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
4	1	前期繰越	1,500	3	31	仕　　入	1,500
3	31	仕　　入	2,000				

仕　　入

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
8	8	現　　金	13,000	3	31	繰越商品	2,000
3	31	繰越商品	1,500				

③　決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表

繰越商品	(　　2,000)	売　　上	(　　16,000)
仕　　入	(　　12,500)		

問題1　**解説**

・勘定記入

　決算整理仕訳にもとづいて、正しく転記できるようにして下さい。特に、摘要欄に相手勘定科目を記入する点に注意して下さい。

・前T/B

　「繰越商品」勘定（資産）は期首商品を意味し、「仕入」勘定（費用）は当期仕入を意味します。

・後T/B

　「繰越商品」勘定（資産）は期末商品を意味し、「仕入」勘定（費用）は売上原価を意味します。

商　　　品

<table>
<tr><td>期首商品</td><td>1,500</td><td rowspan="2">売上原価</td><td rowspan="2">12,500</td></tr>
<tr><td rowspan="2">当期仕入</td><td rowspan="2">13,000</td></tr>
<tr><td>期末商品</td><td>2,000</td></tr>
</table>

問題2　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕入	4,000	現金 買掛金	1,000 3,000
②	現金 売掛金	1,500 4,500	売上	6,000
③	前払金	500	現金	500
④	買掛金	3,000	現金	3,000
⑤	仕入	4,200	前払金 現金	500 3,700
⑥	現金	1,200	前受金	1,200
⑦	普通預金 支払手数料	4,300 200	売掛金	4,500
⑧	前受金 現金	1,200 3,600	売上	4,800
⑨	買掛金 前払金	5,000 4,000	当座預金	9,000

問題2　**解説**

①　商品を掛けで仕入れた場合、「買掛金」勘定（負債）で処理します。

②　商品を掛けで売り上げた場合、「売掛金」勘定（資産）で処理します。

③　商品を仕入れる前に代金の一部を内金や手付金として前払いした場合、「前払金」勘定（資産）で処理します。

④　仕入に関する掛代金を支払った場合、「買掛金」勘定（負債）の減少として処理します。

⑤　前払金として以前にお金を支払っており、実際に仕入れた場合、「前払金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑥　商品を販売する前に代金の一部を内金や手付金として前受けした場合、「前受金」勘定（負債）で処理します。

⑦　売上に関する掛代金を受け取った場合、「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。なお、振込手数料は当社負担ですので、普通預金に振り込まれた金額は、売掛金の金額から振込手数料が控除された金額となります。また、当社負担の振込手数料は「支払手数料」勘定（費用）で処理します。

⑧　前受金として以前にお金を受け取っており、実際に売り上げた場合、「前受金」勘定（負債）の減少として処理します。

⑨　仕入のための手付金は「前払金」勘定（資産）の増加として処理します。

現金預金

普通預金・定期預金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 普通預金・定期預金の内容を理解しよう！

② 発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「普通預金」勘定（資産）

「定期預金」勘定（資産）

（1）預金の種類

日商簿記3級で出題される預金には、普通預金（ふつうよきん）、定期預金（ていきよきん）、当座預金（とうざよきん）があります。

（2）普通預金・定期預金とは？

普通預金は、いつでも預け入れと引き出しができる預金です。

定期預金は、預け入れはいつでもできますが、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年、5年などの預入期間が定められており、引き出しは原則として、預入期間が経過した時（満期日）のみとなります。

（3）会計処理

普通預金については「**普通預金**」勘定（**資産**）で、定期預金については「**定期預金**」勘定（**資産**）でその預け入れ（増加）や引き出し（減少）を処理します。

例題　現金2,000円を普通預金口座へ預け入れた。

普通預金という資産が増加しますので、「普通預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金	**2,000**	**現金**	**2,000**

例題　現金3,000円を定期預金口座へ預け入れた。

定期預金という資産が増加しますので、「定期預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
定期預金	**3,000**	**現金**	**3,000**

例題　定期預金3,000円の満期日が到来したので、普通預金口座へ預け替えた。

普通預金という資産が増加しますので、「普通預金」勘定（資産）の増加として処理します。また、定期預金という資産が減少しますので、「定期預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金	**3,000**	**定期預金**	**3,000**

（４）複数の口座を開設している場合

　複数の普通預金口座や定期預金口座を開設している場合、管理のために銀行名を用いて口座ごとに勘定を設定することがあります。

例題　**売掛金5,000円が得意先から大手町銀行普通預金口座へ振り込まれた。なお、当社では銀行口座について口座種別と銀行名を組み合わせた勘定科目を使用している。**

　普通預金という資産が増加しますが、本例題では口座種別（普通預金）と銀行名（大手町銀行）を組み合わせた勘定科目を使用していますので、「**普通預金大手町銀行**」勘定（**資産**）の増加として処理します。また、売掛金を回収しましたので「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
普通預金大手町銀行	**5,000**	**売　　掛　　金**	**5,000**

当座預金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座預金の内容を理解しよう！

②　小切手がどのようなものか理解しよう！

③　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

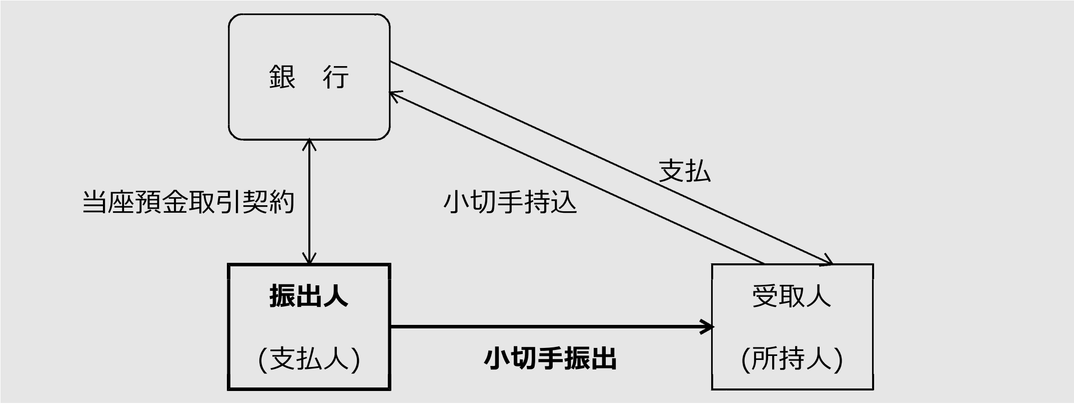
「当座預金」勘定（資産）

（１）当座預金とは？

当座預金は決済用の預金といわれ、利息が付かない点と預金を引き出すときに小切手を使用することが特徴です。当座預金については「**当座預金**」勘定（**資産**）で処理します。

小切手とは、振出人が小切手に記載されている金額を受取人（小切手所持人）に支払うことを約束する証券です。なお、小切手に金額等を記入し、相手に渡すことを**小切手の振り出し**といいます。

小切手を振り出した人がお金を支払い、小切手を受け取った人は小切手を指定の金融機関でお金に換えることができます。また、小切手を受け取った人はその小切手を支払手段として他人に渡すこともできます。



なお、簡略化した小切手の見本は次のとおりです。

小　　切　　手

支払地
○○銀行東京支店

金額　￥1,000,000※

上記金額をこの小切手と引き替えに持参人へお支払い下さい。

振出日2030年×月×日　　　　　株式会社××商事
振出地　東京都　　　　　振出人　代表取締役△△

（2）会計処理

①　当座預金口座に預け入れた時

当座預金口座に現金を預け入れたり、入金があった場合、当座預金という資産が増加するので「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題　**現金1,000円を当座預金口座に預け入れた。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当　座　預　金	**1,000**	**現　　金**	**1,000**

②　小切手の振出

小切手の振出時にはまだ実際の銀行の当座預金口座から預金が減少していませんが、後日、小切手が持ち込まれたら当座預金口座から引き落とされるので、あらかじめ当座預金という資産を減少させておくため「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題　**A社から商品200円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕　　入	**200**	**当　座　預　金**	**200**

③　小切手の決済

小切手を振り出した時に「当座預金」勘定（資産）を減少させていますので、仕訳は行いません。

例題　**当社振出小切手200円が銀行に持ち込まれ、銀行はA社に支払った。**

仕訳は行いません。

④　自動引き落とし

当座預金という資産が減少しますので「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題　**水道代100円が当座預金口座から引き落とされた。**

水道代は「水道光熱費（すいどうこうねつひ）」勘定（費用）の増加として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
水　道　光　熱　費	**100**	**当　座　預　金**	**100**

（３）複数の口座を開設している場合

複数の当座預金口座を開設している場合、管理のために銀行名を用いて口座ごとに勘定を設定することがあります。

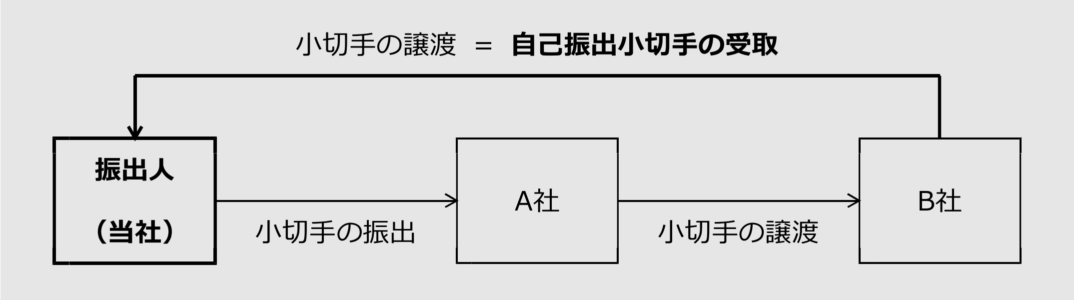
例題　**A信用金庫とB銀行に当座預金口座を開設し、それぞれ現金2,000円を預け入れた。なお、当社では預金口座について口座種別と金融機関名を組み合わせた勘定科目を使用している。**

当座預金という資産が増加しますが、本例題では口座種別（当座預金）と金融機関（A信用金庫、B銀行）を組み合わせた勘定科目を使用していますので、「**当座預金A信用金庫**」勘定（**資産**）および「**当座預金B銀行**」勘定（**資産**）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金A信用金庫	**2,000**	**現　　　金**	**4,000**
当座預金B銀行	**2,000**		

（４）自己振出小切手を受け取った場合

以前に自分が振り出した小切手（自己振出小切手）が他社を経由して、自分が受け取る場合があります。小切手の振出時に、銀行の当座預金口座から減少することを想定して「当座預金」勘定（資産）の減少として処理していましたが、実際の銀行の当座預金口座は減少していません。そこで、自分が振り出した小切手を受け取った時には当座預金の減少の取り消しとするため、「**当座預金**」勘定（資産）の増加として処理します。



例題　**B社へ商品2,000円を売り上げ、代金は自己振出小切手を受け取った。**

小切手の振出時に以下の仕訳を行い、「当座預金」勘定（資産）を減少させています（仕入取引を仮定しています）。

仕　　入　　2,000 /　当　座　預　金　　2,000

自分が振り出した小切手が銀行に持ち込まれなかったので、「当座預金」勘定（資産）を増加させます。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当座預金	**2,000**	**売上**	**2,000**

当座借越

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座借越の仕組みを理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「当座預金」勘定（資産）

「当座借越」勘定（負債）・「借入金」勘定（負債）

（1）当座借越とは？

通常は当座預金の残高を超える金額の小切手を振り出すことはできません。しかし、銀行と当座借越契約（とうざかりこしけいやく）を結んでおけば、決められた借越限度額（かりこしげんどがく）まで当座預金の残高を超えて小切手を振り出すことができます。この当座預金の残高を超えて小切手を振り出すことを**当座借越**（とうざかりこし）といいます。当座借越は銀行からの一時的な借入を意味します。

（2）会計処理

① 期中取引

期中取引において、当座預金口座の残高を超えて小切手を振り出した場合でも、「**当座預金**」勘定（**資産**）の減少として処理します。

② 決算整理

決算において、「当座預金」勘定（資産）が**貸方残高**になっていた場合、**負債**としての**当座借越**であることを意味しますので、「当座預金」勘定（資産）から、「**当座借越**（または**借入金**）」勘定（**負債**）に振り替えます。

③ 次期期首（期首取引）

次期期首において、期中は「当座預金」勘定（資産）で処理するために、「**当座借越**（または**借入金**）」勘定（負債）の残高を、「**当座預金**」勘定（資産）に振り替えます。この仕訳は前期の決算整理仕訳の反対仕訳（逆仕訳）となりますので、**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）といいます。

例題　**当座預金残高は800円であった。取引銀行と当座借越契約を締結しており、借越限度額5,000円である。**

①　商品1,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

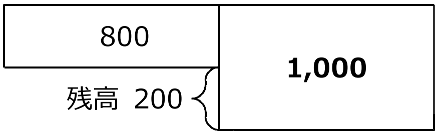
②　決算において、当座預金勘定の残高が貸方残高200円となっているので、当座借越勘定へ振り替える。

③　次期期首において、当座借越勘定の残高200円を、適切な資産の勘定へ振り替える処理を行う。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	**仕入**	**1,000**	**当座預金**	**1,000**

この結果、「当座預金」勘定（資産）は貸方残高200円となり、負債としての当座借越を意味します。

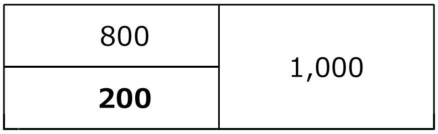
当座預金



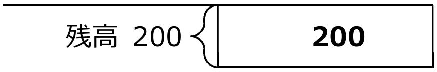
	借方科目	金額	貸方科目	金額
②	**当座預金**	**200**	**当座借越**	**200**

この結果、「当座預金」勘定（資産）は残高ゼロ、「当座借越」勘定（負債）は残高200円となります。

当座預金



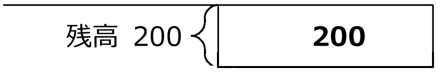
当座借越



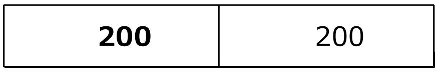
	借方科目	金額	貸方科目	金額
③	**当座借越**	**200**	**当座預金**	**200**

この結果、「当座預金」勘定（資産）は貸方残高200円となり、負債としての当座借越を意味します。また、「当座借越」勘定（負債）は残高はゼロとなります。

当座預金



当座借越



例題　**決算にあたり、当座預金口座が当座借越700円となっているので、適切な勘定に振り替える。なお、当社は当座借越勘定を用いていない。**

決算において、「当座預金」勘定（資産）が貸方残高になっていた場合で「当座借越」勘定（負債）を用いていない場合には、「借入金」勘定（負債）に振り替えます。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当座預金	**700**	**借入金**	**700**

現　金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　「簿記上の現金」の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「現金」勘定（資産）

（1）簿記上の現金

一般に現金とは硬貨及び紙幣という通貨（つうか）を指しますが、簿記上は金融機関ですぐに換金できるもの（**通貨代用証券**（つうかだいようしょうけん）といいます）も「**現金**」勘定（**資産**）で処理します。

通貨代用証券には例えば、以下のものがあります。

・他人振出小切手（たにんふりだしこぎって）：他人が振り出した小切手
・送金小切手（そうきんこぎって）：送金手段として銀行が発行する小切手
・郵便為替証書（ゆうびんがわせしょうしょ）：送金手段として郵便局が発行する証書

例題　**売掛金2,200円の回収として送金小切手を受け取った。**

送金小切手は簿記上の現金なので、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　　金	**2,200**	**売　掛　金**	**2,200**

例題　**売掛金1,200円の回収として郵便為替証書を受け取った。**

郵便為替証書は簿記上の現金なので、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　　金	**1,200**	**売　掛　金**	**1,200**

（2）他人振出小切手の処理

① 他人振出小切手を受け取った場合

現金という資産が増加しますので、**「現金」勘定（資産）の増加**として処理します。

例題 **商品2,000円を売り上げ、代金はA社振出小切手を受け取った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　　　金	**2,000**	**売　　　　上**	**2,000**

② 受け取った他人振出小切手を当座預金口座に預け入れた場合

当座預金という資産が増加しますので**「当座預金」勘定（資産）の増加**として処理し、現金という資産が減少しますので**「現金」勘定（資産）の減少**として処理します。

例題 **昨日受け取ったA社振出小切手2,000円を当座預金に預け入れた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当　座　預　金	**2,000**	**現　　　　金**	**2,000**

③ 他人振出小切手を受け取り、直ちに当座預金へ預け入れた場合

他人振出小切手を受け取り（現金の増加）、直ちに当座預金に預け入れた（現金の減少）場合、現金の増加及び現金の減少として処理しないで、**「当座預金」勘定（資産）の増加**として処理します。

例題 **商品2,000円を売り上げ、代金はA社振出小切手を受け取り、直ちに当座預金口座へ預け入れた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当　座　預　金	**2,000**	**売　　　　上**	**2,000**

この仕訳は以下の２つの仕訳を１つにまとめたものです。

現　　　　金	2,000	/	売　　　　上	2,000
当　座　預　金	2,000	/	現　　　　金	2,000

④　他人振出小切手を支払手段として他人に渡した場合

他人振出小切手を受け取った時は「現金」勘定（資産）の増加として処理しますので、他人振出小切手を他人に渡して減少した場合、**「現金」**勘定（**資産**）の減少として処理します。

例題　**B社から商品2,000円を仕入れ、代金はA社振出小切手で支払った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**2,000**	**現　　　　金**	**2,000**

<小切手の処理のまとめ>

①　小切手の振出　＝　当座預金の減少

②　他人振出小切手の受取　＝　現金の増加

③　他人振出小切手の受取　＋　ただちに当座預金に預入　＝　当座預金の増加

④　他人振出小切手の譲渡　＝　現金の減少

⑤　自己振出小切手の受取　＝　当座預金の増加

現金過不足

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　現金過不足の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

③　帳簿残高を実際有高に合わせることに注意しよう！

主な勘定科目

「現金過不足」勘定

「現金」勘定（資産）

「雑益」勘定（収益）

「雑損」勘定（費用）

（1）現金過不足とは？

現金の帳簿残高（ちょうぼざんだか）（現金勘定の残高）と実際有高（じっさいありだか）（実際の現金の金額）が一致しないことがあります。この帳簿残高と実際有高の差額を**現金過不足**（げんきんかぶそく）といいます。

現金過不足が生じた場合、実態に合わせるため、帳簿残高を実際有高と一致させる必要がありますが、不一致原因がわからないため、一時的に「**現金過不足**」勘定で処理します。

不一致原因が判明した場合には、「現金過不足」勘定から適切な勘定へ振り替えます。

（2）期中に現金過不足が判明したとき

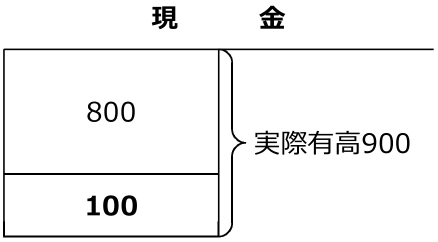
① 帳簿残高 ＜ 実際有高

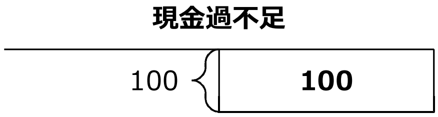
例題　現金残高が800円であったところ、実際有高は900円であった。

帳簿残高を実際有高に合わせるため「現金」勘定（資産）を100円増加させます。また、相手勘定科目として「現金過不足」勘定の貸方に記入します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**100**	**現 金 過 不 足**	**100**

この結果、現金勘定の残高は900円となり、実際有高と一致します。

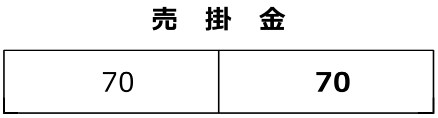


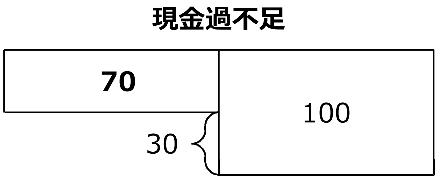


例題　現金過剰額100円のうち、70円は売掛金の回収であったことが判明した。

「現金過不足」勘定から「売掛金」勘定（資産）に振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現 金 過 不 足	**70**	**売　　掛　　金**	**70**





② 帳簿残高 ＞ 実際有高

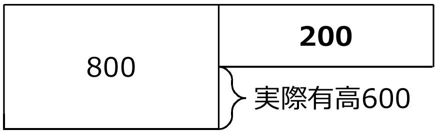
例題 **現金残高が800円であったところ、実際有高は600円であった。**

帳簿残高を実際有高に合わせるため「現金」勘定（資産）を200円減少させます。また、相手勘定科目として「現金過不足」勘定の借方に記入します。

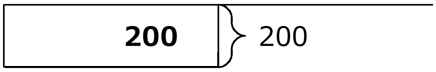
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
現 金 過 不 足	**200**	**現 金**	**200**

この結果、現金勘定の残高は600円となり、実際有高と一致します。

現 金



現金過不足

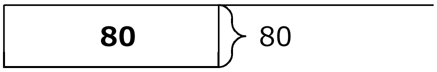


例題 **現金不足額200円のうち、80円は切手代で使用していたことが判明した。**

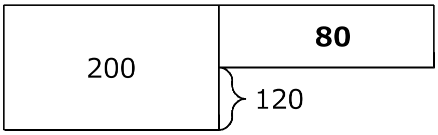
「現金過不足」勘定から「通信費」勘定（費用）に振り替えます。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
通 信 費	**80**	**現 金 過 不 足**	**80**

通 信 費



現金過不足



（３）原因が判明しなかったとき

現金過不足の不一致原因が判明しなかった時は、「現金過不足」勘定が貸方残高（現金過剰）の場合、「**雑益**」勘定（**収益**）に振り替えます。また、「現金過不足」勘定が借方残高（現金不足）の場合、「**雑損**」勘定（**費用**）に振り替えます。

この処理は通常、**決算整理**で行います。したがって、「現金過不足」勘定は他の勘定に振り替えられますので、決算整理後には「現金過不足」勘定の残高はゼロとなります。

① 現金過不足勘定の貸方残高（現金過剰）

例題　決算において、現金過剰額100円の原因が判明しなかった。

現金過不足の判明時に以下の仕訳を行っています。

現　　金　　100 / 現　金　過　不　足　　100

現金過不足

	100

（100 {）

「現金過不足」勘定から「雑益」勘定（収益）に振り替えます。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　金　過　不　足	**100**	**雑　　　益**	**100**

雑　　益

	100

（100 {）

現金過不足

100	100

② 現金過不足勘定の借方残高（現金不足）

例題　**決算において、現金不足額200円の原因が判明しなかった。**

現金過不足の判明時に以下の仕訳を行っています。

現　金　過　不　足　　　200 / 現　　　　　金　　　200

現金過不足

200	200

「現金過不足」勘定から「雑損」勘定（費用）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
雑　　　損	**200**	**現　金　過　不　足**	**200**

雑　損

200	200

現金過不足

200	**200**

小口現金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　小口現金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「小口現金」勘定（資産）

（１）小口現金とは？

会社では文房具を購入するなど日常業務で発生する少額の支払に備えて、各部署に少額の現金を用意しておき、この現金で支払を行うことがあります。この少額の現金を**小口現金**といいます。小口現金は「**小口現金**」勘定（**資産**）で処理します。

前渡する金額を一定とする**定額資金前渡制度**（**インプレスト・システム**ともいいます）と必要に応じて随時補給する制度がありますが、通常は定額資金前渡制度が採用されます。

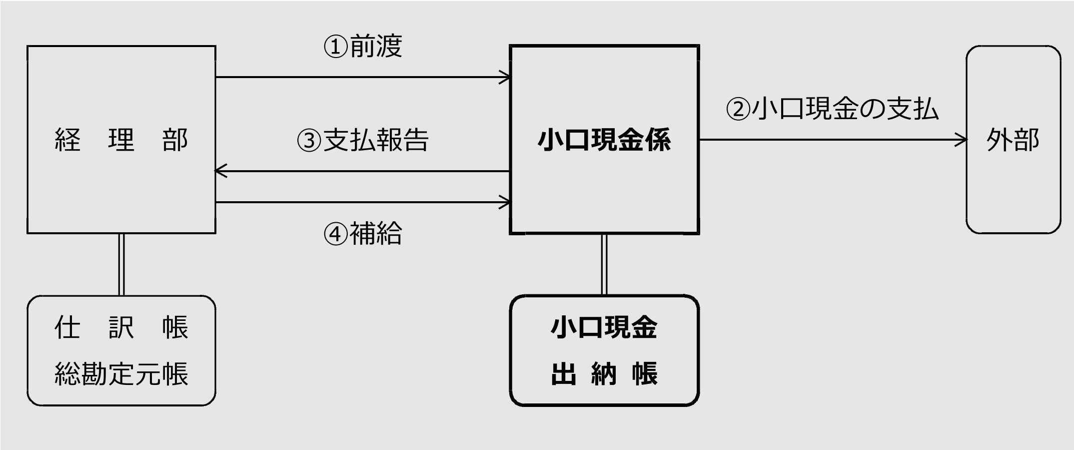
定額資金前渡制度は以下の流れで行われます。

① 経理部（または会計係）は小口現金係（または用度係、小払係）に少額の金額を渡します。

② 小口現金係は日常の少額の諸経費を小口現金から支払います。そして、その支払明細を**小口現金出納帳**に記入します。小口現金出納帳は小口現金の支払明細を記帳する補助簿（補助記入帳）です。

③ 一定期間ごとに小口現金係は経理部に支払報告を行い、それに伴って経理部は仕訳を行います。仕訳を行うのは、小口現金係でなく経理部なので注意して下さい。

④ 経理部は小口現金係に小口現金を補給し、小口現金の金額は一定の前渡額となります。



① 小口現金の前渡時

例題 **1月1日 小口現金2,000円を小切手を振り出して小口現金係に前渡した。**

小口現金という資産が増加したので「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手の振出は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	**2,000**	**当座預金**	**2,000**

② 小口現金で支払った時

例題 **小口現金係は、1/9に電車代300円、1/15に切手代150円、1/21にお茶菓子代100円、1/25に切手代50円を小口現金で支払った。**

小口現金係が諸経費を小口現金で支払っても、経理部は報告を受けていないので、仕訳は行いません（仕訳を行うのは経理部です）。小口現金係は小口現金の使用明細を以下のように小口現金出納帳に記入します（記入の仕方は後で学習します）。

小口現金出納帳

受入	日付		摘要	支払	内訳		
					旅費交通費	通信費	雑費
2,000	1	1	小口現金受け入れ				
		9	電車代	300	300		
		15	切手代	150		150	
		21	お茶菓子代	100			100
		25	切手代	50		50	
			合計	600	300	200	100
600		31	小口現金受け入れ				
		〃	次月繰越	2,000			
2,600				2,600			
2,000	2	1	前月繰越				

③　小口現金係から支払報告があった時

例題　**小口現金係から1月分の小口現金の支払報告（電車代300円、切手代200円、お茶菓子代100円）を受けた。**

　経理部は小口現金係からの支払報告に基づき、使用した分は適切な勘定で処理します。また小口現金という資産が減少したので「小口現金」勘定（資産）の減少として処理します。なお、電車代は「旅費交通費」勘定（費用）、切手代は「通信費」勘定（費用）、お茶菓子代は「雑費（ざつぴ）」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	**300**	**小口現金**	**600**
通信費	**200**		
雑費	**100**		

④　小口現金の補給時

例題　**1月31日 小口現金を補給するため小口現金係へ600円の小切手を振り出した。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	**600**	**当座預金**	**600**

⑤　支払報告と小口現金の補給が同時であった場合

例題　**小口現金係から1月分の小口現金の支払報告（電車代300円、切手代200円、お茶菓子100円）を受け、ただちに小切手600円を振り出して小口現金を補給した。**

支払報告を受けたと同時に小切手を振り出して補給した場合、小口現金の減少と小口現金の増加が同額であるため、「小口現金」勘定（資産）を用いずに処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	**300**	**当座預金**	**600**
通信費	**200**		
雑費	**100**		

この仕訳は以下の２つの仕訳を１つにまとめたものです。

旅費交通費	300	小口現金	600
通信費	200		
雑費	100		
小口現金	600	当座預金	600

（2）小口現金で使われる勘定科目

小口現金の主な支払内容と勘定科目は以下の通りです。

勘定科目	支払内容
旅費交通費	電車代、バス代、タクシー代、飛行機代、宿泊代など
通信費	切手代、はがき代、電話代など
水道光熱費	水道代、電気代、ガス代など
消耗品費（しょうもうひんひ）	文房具代、コピー用紙など
雑　費	お茶菓子代、その他どの勘定にも該当しない項目

現金預金 問題

問題1　以下の取引に関して、(1)仕訳を行いなさい。また、(2)当座預金勘定への転記を行いなさい。なお、日付は省略すること。

① 当座預金口座を開設し、80,000円を普通預金から振り込んだ。また、小切手帳の交付を受け、手数料として800円を現金で支払った。そして、普通預金口座から定期預金口座へ50,000円を預け入れた。
② 広告宣伝費2,000円の支払いのために、小切手を振り出した。
③ 商品40,000円を売り上げ、代金は得意先振出の小切手を受け取った。
④ 商品30,000円を売り上げ、代金は当社振出の小切手を受け取った。
⑤ 商品25,000円を仕入れ、代金は得意先振出の小切手で支払った。
⑥ 商品50,000円を売り上げ、代金は送金小切手を受け取った。
⑦ 小口現金係から今月の支払報告（旅費交通費1,000円、通信費1,500円、雑費400円）を受けた。
⑧ 小口現金を補給するために、小口現金係へ2,900円の小切手を振り出した。
⑨ 期中に現金の実際残高が帳簿残高より少なかったため、現金過不足勘定で処理していた1,000円のうち、700円は支払手数料の記帳漏れであることが決算日に判明した。残額は不明であるので、適当な勘定に振り替える。
⑩ 小口現金係から、旅費交通費3,000円、消耗品費2,000円、雑費1,000円の小口現金の使用について報告を受けたため、ただちに小切手を振り出して資金を補給した。

問題2　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

④ 決算において、X銀行の当座預金口座が当座借越100,000円となっているので、適切な勘定に振り替える。ただし、当社は複数の金融機関を利用しており、他の金融機関にも当座預金口座を開設しているため、口座ごとに勘定を設定している。なお、当社では当座借越勘定を用いている。
⑤ 期首において、X銀行の当座預金口座における当座借越100,000円を適切な資産の勘定へ再振替仕訳を行った。
⑥ 月末の金庫を実査したところ、硬貨10,000円、紙幣20,000円、得意先振出の小切手35,000円、約束手形40,000円、郵便切手500円が保管されていた。現金の帳簿残高は70,000円であった。不一致原因を調べたが原因は判明しなかったが、調査は継続して行うこととした。

現金預金 答案用紙

問題1

(1) 仕訳

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

(2) 当座預金勘定の記入

当 座 預 金

日付	摘　　要	借　方	日付	摘　　要	貸　方
省略			省略		

問題2

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				

現金預金 解答解説

問題1 **解答**

(1) 仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	当座預金	80,000	普通預金	80,000
	支払手数料	800	現金	800
	定期預金	50,000	普通預金	50,000
②	広告宣伝費	2,000	当座預金	2,000
③	現金	40,000	売上	40,000
④	当座預金	30,000	売上	30,000
⑤	仕入	25,000	現金	25,000
⑥	現金	50,000	売上	50,000
⑦	旅費交通費	1,000	小口現金	2,900
	通信費	1,500		
	雑費	400		
⑧	小口現金	2,900	当座預金	2,900
⑨	支払手数料	700	現金過不足	1,000
	雑損	300		
⑩	旅費交通費	3,000	当座預金	6,000
	消耗品費	2,000		
	雑費	1,000		

(2) 当座預金勘定の記入

当座預金

日付	摘要	借方	日付	摘要	貸方
省略	普通預金	80,000	省略	広告宣伝費	2,000
	売上	30,000		小口現金	2,900
				諸口	6,000

問題1　**解説**

(1) 仕訳

①　当座預金口座に預け入れた場合、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。なお、銀行へ支払う手数料を当社が負担した場合は「支払手数料」勘定（費用）で処理します。また、定期預金口座に預け入れた場合、「定期預金」勘定（資産）の増加として処理します。

②　小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

③　他社振出小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

④　当社振出小切手を受け取った場合、当座預金の減少の取消しとして、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑤　他社振出小切手を支払手段に用いた場合、「現金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑥　送金小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑦　小口現金係から小口現金の支払報告を受けたときに、「小口現金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑧　小口現金を補給した場合、「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑨　「現金過不足」勘定から判明した分は「支払手数料」勘定（費用）に振り替え、不明分は「雑損」勘定（費用）に振り替えます。

⑩　ただちに小切手を振り出して小口現金の補給した場合、「小口現金」勘定（資産）の減少および増加の処理をしないで、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

(2) 当座預金勘定の記入

仕訳にもとづいて、正しく転記できるようにして下さい。特に、摘要欄に相手勘定科目を記入する点に注意して下さい。また、相手勘定科目が複数の場合には「諸口」と記載する点にも注意して下さい。

問題2 **解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	当座預金X銀行	100,000	当座借越	100,000
②	当座借越	100,000	当座預金X銀行	100,000
③	現金過不足	5,000	現金	5,000

問題2 **解説**

① 本問では当座預金に関して、口座ごとに勘定を設定しているので、「当座預金X銀行」勘定（資産）を用いて仕訳を行います。

当座借越については「当座借越」勘定（負債）に振り替えます。

② 期中は当座借越も「当座預金X銀行」勘定（資産）で処理するため、前期の決算整理仕訳の反対仕訳（再振替仕訳）を期首に行います。

③ 現金の実際有高は65,000円（=硬貨10,000円＋紙幣20,000円＋得意先振出の小切手35,000円）と帳簿残高70,000円の差額5,000円を「現金過不足」勘定に振り替えます。また、帳簿残高より実際有高が少なかったので、「現金」勘定（資産）の減少として仕訳を行います。

なお、約束手形は「受取手形」勘定（資産）で、郵便切手は「貯蔵品」勘定（資産）で処理しますので、簿記上の現金ではありません。

手　形

約束手形

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　約束手形の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「受取手形」勘定（資産）

「支払手形」勘定（負債）

（1）手形とは？

手形とは、一定の日に一定の金額を支払うために取り交わした証券です。手形には、約束手形と為替手形がありますが、日商簿記3級では**約束手形**を学習します。なお、手形に金額等を記入し、相手に渡すことを**手形の振り出し**といいます。

（2）約束手形とは？

約束手形とは、振出人（支払人）が名宛人（約束手形の宛名の人で、受取人）に対して支払期日（満期日）に手形金額（額面金額）を支払うことを約束する証券です。

簡略化した約束手形の見本は次のとおりです。

約　束　手　形

B　社　殿

金額　￥1,000,000※

支払期日
2030年×月×日

上記金額をあなたへこの約束手形と引替えに**お支払いいたします。**

振出日2030年×月×日

振出人　A社

（3）会計処理

振出人は支払人なので、将来、金銭を支払う義務があるため「**支払手形**」勘定（負債）で処理し、名宛人は受取人なので、将来、金銭を受け取る権利があるため「**受取手形**」勘定（資産）で処理します。

① 振出人（A社）

例題 **B社から商品2,000円を仕入れ、代金は約束手形を振り出した。**

約束手形を振り出すと、支払期日に手形金額を支払う義務が生じますので「支払手形」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**2,000**	**支払手形**	**2,000**

例題 **約束手形2,000円の支払期日が到来したため、代金を当座により支払った。**

支払期日に手形金額を支払うと支払手形という負債が減少しますので「支払手形」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払手形	**2,000**	**当座預金**	**2,000**

② 名宛人（B社）

例題 **A社へ商品2,000円を売り上げ、代金は約束手形を受け取った。**

約束手形を受け取ると、支払期日に手形金額を受け取る権利が生じますので「受取手形」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手形	**2,000**	**売上**	**2,000**

例題 **約束手形2,000円の支払期日が到来し、代金を受け取り当座に預け入れた。**

支払期日に手形金額を受け取ると受取手形という資産が減少しますので「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**2,000**	**受取手形**	**2,000**

電子記録債権・債務

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　電子記録債権の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「電子記録債権」勘定（資産）

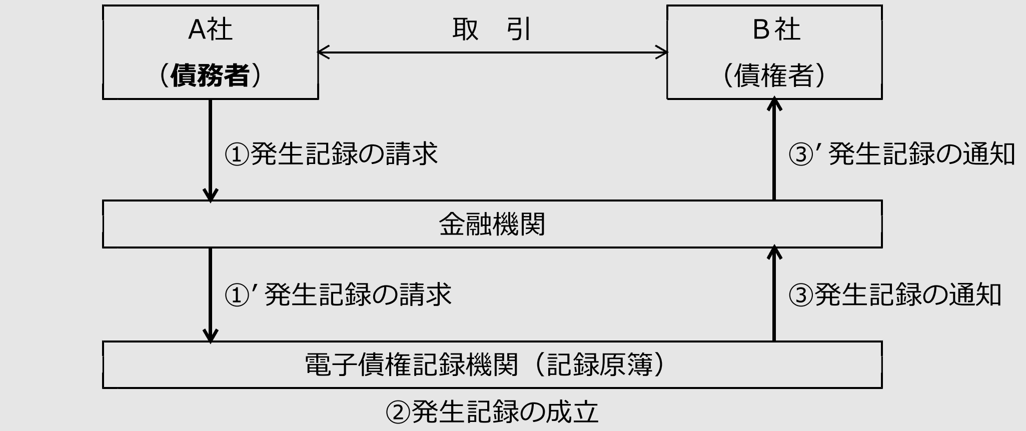
「電子記録債務」勘定（負債）

（1）電子記録債権とは？

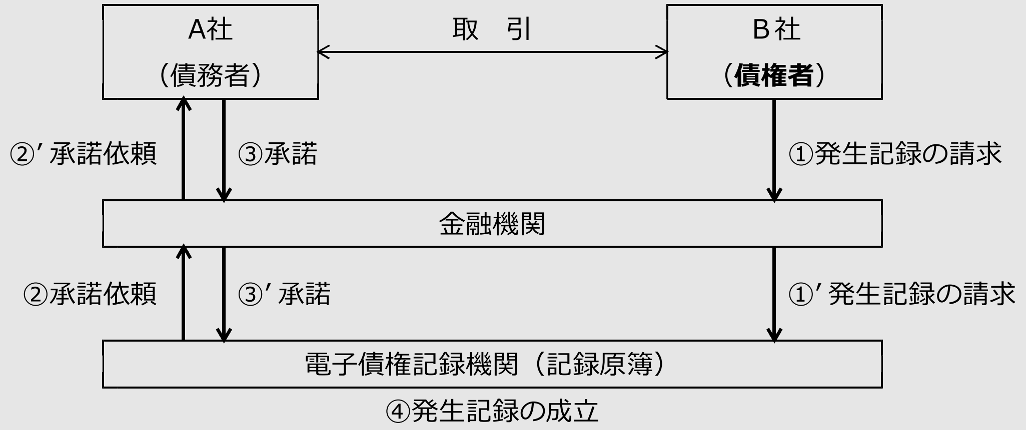
電子記録債権とは、その発生や譲渡について電子記録を要件とする金銭債権をいいます。ここでいう電子記録とは、電子債権記録機関が作成する記録原簿への記録事項を記録することをいいます。手形債権には、作成や保管にコストがかかり、また、分割することができず、紛失や盗難のリスクがありますが、電子記録債権はそれらの問題点を克服した新しい債権です。

（参考）電子記録債権には、債務者が発生記録の請求を行う「債務者請求方式」と、債権者が発生記録の請求を行い、債務者から承諾を得ることによって発生記録が成立する「債権者請求方式」があります。

<債務者請求方式>



<債権者請求方式>



（2）会計処理

電子記録債権は、会計処理上は手形債権と同様の処理を行いますが、**「電子記録債権」**勘定（資産）や**「電子記録債務」**勘定（負債）で処理します。

例題　**以下の取引について、A社及びB社の会計処理を答えなさい。**

①　A社はB社から商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。

②　A社は買掛金10,000円について、発生記録の請求を行い、電子記録債務が生じた。

③　A社は支払期日が到来したので当座預金により支払い、B社は当座預金に振り込まれたことを確認した。

(1) A社

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	**仕入**	**10,000**	**買掛金**	**10,000**
②	**買掛金**	**10,000**	**電子記録債務**	**10,000**
③	**電子記録債務**	**10,000**	**当座預金**	**10,000**

(2) B社

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	**売掛金**	**10,000**	**売上**	**10,000**
②	**電子記録債権**	**10,000**	**売掛金**	**10,000**
③	**当座預金**	**10,000**	**電子記録債権**	**10,000**

手　形 問題

問題1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　商品30,000円を仕入れ、代金は約束手形を振り出して支払った。

②　商品を40,000円で売り上げ、代金は約束手形で受け取った。

③　約束手形15,000円の満期日が到来し、手形金額を普通預金に預け入れた。

④　振り出した約束手形30,000円の満期日が到来し、手形金額を当座預金により支払った。

⑤　当社は北海社に対する売掛金10,000円について、発生記録の請求を行い、同社の承諾を得て電子記録債権が生じた。

⑥　当社は青森社に対する買掛金11,000円について、発生記録の請求を行い、電子記録債務が生じた。

⑦　仕入先から商品7,000円を仕入れ、代金のうち3,000円は約束手形を振り出し、残額は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金残高は3,500円であったが、取引銀行と当座借越契約（借越限度額10,000円）を結んでいる。

手　形 答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				

手　形 解答解説

問題1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	仕入	30,000	支払手形	30,000
②	受取手形	40,000	売上	40,000
③	普通預金	15,000	受取手形	15,000
④	支払手形	30,000	当座預金	30,000
⑤	電子記録債権	10,000	売掛金	10,000
⑥	買掛金	11,000	電子記録債務	11,000
⑦	仕入	7,000	支払手形	3,000
			当座預金	4,000

問題1　**解説**

①　約束手形を振り出した場合、「支払手形」勘定（負債）の増加として処理します。

②　約束手形を受け取った場合、「受取手形」勘定（資産）の増加として処理します。

③　約束手形の代金を受け取った場合、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

④　振り出した約束手形の代金を支払った場合、「支払手形」勘定（負債）の減少として処理します。

⑤　「売掛金」勘定（資産）から「電子記録債権」勘定（資産）に振り替えます。

⑥　「買掛金」勘定（負債）から「電子記録債務」勘定（負債）に振り替えます。

⑦　約束手形を振り出した場合、「支払手形」勘定（負債）の増加として処理します。また、資産である当座預金を上回る金額の小切手を振り出した場合、当座借越が生じますが、期中は「当座預金」勘定（資産）で処理します。したがって、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

有形固定資産

取得

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 有形固定資産の内容を理解しよう！

② 取得時の仕訳をマスターしよう！

③ 付随費用に注意しよう！

主な勘定科目

「建物」勘定（資産）

「備品」勘定（資産）

「車両運搬具」勘定（資産）

「土地」勘定（資産）

（1）有形固定資産とは？

有形固定資産とは、会社が活動するために長期間使用するために保有する形のある資産をいいます。具体的には、建物、備品、車両運搬具、土地などがあります。

勘定科目	内容
建物	本社ビル、店舗、事務所、倉庫
備品	机、いす、パソコン、棚
車両運搬具	配送用トラック、営業用車両
土地	建物の敷地

（2）取得

有形固定資産を購入した場合、**取得原価**で「建物」「備品」「車両運搬具」「土地」勘定（**資産**）などの該当する勘定の増加として処理します。取得原価は、購入金額（**購入代価**）に仲介手数料、登記料、据付費（設置費用）、引取運賃、購入手数料、登録手数料、整地費用などの**付随費用**を加算した金額となります。

取得原価 ＝ 購入代価 ＋ 付随費用

例題　建物100,000円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。また、不動産会社へ仲介手数料2,000円は現金で支払った。

建物という資産が増加するので「建物」勘定（資産）の増加として処理します。取得原価は購入代価100,000円＋付随費用2,000円＝102,000円となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物	**102,000**	**当座預金**	**100,000**
		現金	**2,000**

減価償却

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　減価償却の内容を理解しよう！

②　減価償却の計算方法をマスターしよう！

（１）減価償却とは？

有形固定資産を使用することで収益の獲得に貢献します。また、土地以外の有形固定資産は使用することや時の経過によって価値が減少していきます。そこで、決算において価値の減少分だけ有形固定資産の帳簿価額を減少させるとともに、同額を費用として計上します。この手続きを**減価償却**（げんかしょうきゃく）といいます。減価償却によって計上する費用は「**減価償却費**（げんかしょうきゃくひ）」勘定（**費用**）で処理します。

（２）減価償却の３要素

減価償却は有形固定資産の**取得原価**（しゅとくげんか）、**耐用年数**（たいようねんすう）、**残存価額**（ざんぞんかがく）の３つの要素を使って計算します。減価償却は、取得原価から残存価額を差し引いた金額を耐用年数にわたって、各期に費用として配分する手続きです。

・取得原価とは、有形固定資産の取得に要した支出額です。
・耐用年数とは、有形固定資産の利用可能年数です。
・残存価額とは、有形固定資産を耐用年数まで使用した後に残っている価値で、残存価額はゼロの場合もあります。

（３）定額法

減価償却方法には様々な方法がありますが、日商簿記３級では**定額法**（ていがくほう）が出題されます。

①　計算式

定額法とは、有形固定資産の耐用期間中、毎期同額の減価償却費を計上する方法です。したがって、１年あたりの減価償却費は同じとなります。

１年あたりの減価償却費　＝　(取得原価　－　残存価額)　÷　耐用年数

「残存価額は取得原価の10%」の場合には、以下の式で減価償却費を算定します。

１年あたりの減価償却費　＝　取得原価　×　0.9　÷　耐用年数

「残存価額がゼロ」の場合、以下の式で減価償却費を算定します。

１年あたりの減価償却費　＝　取得原価　÷　耐用年数

例題　**当期首に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数30年、定額法）について、当期の減価償却費を計算しなさい。**

(取得原価120,000－残存価額120,000×0.1)÷耐用年数30年
＝取得原価120,000×0.9÷耐用年数30年＝3,600

例題　**当期首に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額ゼロ、耐用年数30年、定額法）について、当期の減価償却費を計算しなさい。**

取得原価120,000÷耐用年数30年＝4,000

②　期中取得

前期以前や期首に取得した有形固定資産は１年間使用していますので、１年分の減価償却費を計上します。期中に取得した有形固定資産については、１年間使用していませんので、使用期間に応じて**月割計算**で減価償却費を計上します。

減価償却費　＝　(取得原価　－　残存価額)　÷　耐用年数　÷　12ヶ月　×　使用月数

例題　**当期7月１日に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数30年、定額法）について、当期の減価償却費を計算しなさい。なお、決算日は毎年３月31日である。**

(取得原価120,000－残存価額120,000×0.1)÷耐用年数30年÷12ヶ月×９ヶ月
＝取得原価120,000×0.9÷耐用年数30年÷12ヶ月×９ヶ月＝2,700

記帳方法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　間接法の内容を理解しよう！

②　減価償却の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「減価償却費」勘定（費用）

「減価償却累計額」勘定（資産のマイナス）

減価償却の記帳方法には直接法と間接法がありますが、日商簿記3級では**間接法**が出題されます。なお、減価償却費は有形固定資産の売却時を除き、**決算整理**で計上します。

間接法とは、減価償却費を有形固定資産の金額から直接減額しないで「減価償却累計額」勘定で処理する方法です。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
減　価　償　却　費	**×××**	**減 価 償 却 累 計 額**	**×××**

「減価償却累計額」勘定は具体的な有形固定資産の名前をつけて「建物減価償却累計額」「備品減価償却累計額」とすることもあります。なお、「減価償却累計額」勘定は**資産のマイナス**を表す勘定（借方科目のマイナス＝**貸方科目**）であり、有形固定資産勘定から控除する性質です。

貸　借　対　照　表

2030年12月31日

⋮			
備　　　　　　品	×××		
減 価 償 却 累 計 額	△×××	×××	

例題　**当期首に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数30年、定額法）について、当期の減価償却の仕訳を答えなさい。**

(取得原価120,000－残存価額120,000×0.1)÷耐用年数30年

＝取得原価120,000×0.9÷耐用年数30年＝減価償却費3,600

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
減　価　償　却　費	**3,600**	**建物減価償却累計額**	**3,600**

売却

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

売却時の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「固定資産売却益」勘定（収益）

「固定資産売却損」勘定（費用）

有形固定資産を売却した場合、有形固定資産という資産が減少するので、具体的な「有形固定資産」勘定（資産）及び「減価償却累計額（げんかしょうきゃくるいけいがく）」勘定（資産のマイナス）の減少として処理します。

売却時の帳簿価額（ちょうぼかがく）より高く売却した場合は、売却時の帳簿価額と売却価額の差額を「**固定資産売却益**（こていしさんばいきゃくえき）」勘定（**収益**）として処理します。また、売却時の帳簿価額より安く売却した場合は、売却時の帳簿価額と売却価額の差額を「**固定資産売却損**（こていしさんばいきゃくそん）」勘定（**費用**）として処理します。なお、帳簿価額とは、取得原価から減価償却累計額を控除した金額をいいます。

帳簿価額 ＜ 売却価額（**高く売却**） → 固定資産売却**益**（収益）
帳簿価額 ＞ 売却価額（**安く売却**） → 固定資産売却**損**（費用）

（１）期首売却

期首に売却した場合には、当期の減価償却費（げんかしょうきゃくひ）の計上は行いません。したがって、売却時の帳簿価額は以下の式で算定します。

売却時の帳簿価額 ＝ 取得原価 － 期首減価償却累計額

例題 **当期首において、備品（取得原価10,000円、期首の減価償却累計額4,000円）を5,500円で売却し、代金は現金で受け取った。間接法を採用している。**

売却時の帳簿価額＝取得原価10,000－期首減価償却累計額4,000＝6,000

備品という資産が減少するので、取得原価10,000円を「備品」勘定（資産）から減少させ、減価償却累計額4,000円を「備品減価償却累計額」勘定（資産のマイナス）から減少させます。

また、売却時の帳簿価額より安く売却していますので、売却時の帳簿価額6,000円と売却価額5,500円との差額500円は「固定資産売却損」勘定（費用）として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品減価償却累計額	**4,000**	**備品**	**10,000**
現金	**5,500**		
固定資産売却損	**500**		

例題　**当期首において、備品（取得原価10,000円、期首の減価償却累計額4,000円）を6,300円で売却し、代金は現金で受け取った。間接法を採用している。**

売却時の帳簿価額＝取得原価10,000－期首減価償却累計額4,000＝6,000

売却時の帳簿価額より高く売却していますので、売却価額6,300円と売却時の帳簿価額6,000円との差額300円は「固定資産売却益」勘定（収益）として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品減価償却累計額	**4,000**	**備品**	**10,000**
現金	**6,300**	**固定資産売却益**	**300**

（２）期中売却

期中に売却した場合には、期首から売却時までの使用期間に対応した減価償却費（げんかしょうきゃくひ）を計上します。したがって、売却時の帳簿価額（ちょうぼかがく）は以下の式で算定します。

売却時の帳簿価額 ＝ 取得原価 － 期首減価償却累計額 － 期首から売却時までの減価償却費
＝ 取得原価 － 売却時の減価償却累計額

例題　**備品（取得原価10,000円、期首の減価償却累計額4,000円、期首から売却時までの減価償却費1,500円）を4,000円で売却し、代金は現金で受け取った。間接法を採用している。**

売却時の帳簿価額＝取得原価10,000－期首減価償却累計額4,000
－期首から売却時までの減価償却費1,500＝4,500

期首から売却時までの減価償却費を「減価償却費」勘定（費用）の増加として処理します。備品という資産が減少するので、取得原価10,000円を「備品」勘定（資産）から減少させ、期首の減価償却累計額4,000円を「備品減価償却累計額」勘定（資産のマイナス）から減少させます。

売却時の帳簿価額より安く売却していますので、売却時の帳簿価額4,500円と売却価額4,000円との差額500円は「固定資産売却損」勘定（費用）として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品減価償却累計額	**4,000**	**備品**	**10,000**
減価償却費	**1,500**		
現金	**4,000**		
固定資産売却損	**500**		

この仕訳は以下のように分解するとわかりやすいでしょう。

・期首から売却時までの減価償却費の計上

減価償却費　1,500 / 備品減価償却累計額　1,500

・減価償却費の計上後に売却

備品減価償却累計額	5,500	備品	10,000
現金	4,000		
固定資産売却損	500		

例題 **備品（取得原価10,000円、期首の減価償却累計額4,000円、期首から売却時までの減価償却費1,500円）を4,800円で売却し、代金は現金で受け取った。間接法を採用している。**

売却時の帳簿価額＝取得原価10,000－期首減価償却累計額4,000

－期首から売却時までの減価償却費1,500＝4,500

売却時の帳簿価額より高く売却していますので、売却価額4,800円と売却時の帳簿価額4,500円との差額300円は「固定資産売却益」勘定（収益）として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
備品減価償却累計額	**4,000**	**備　　品**	**10,000**
減　価　償　却　費	**1,500**	**固 定 資 産 売 却 益**	**300**
現　　金	**4,800**		

この仕訳は以下のように分解するとわかりやすいでしょう。

・期首から売却時までの減価償却費の計上

減　価　償　却　費　　1,500 /　備品減価償却累計額　　1,500

・減価償却費の計上後に売却

備品減価償却累計額　　5,500 /　備　　品　　10,000

現　　金　　4,800　　固 定 資 産 売 却 益　　300

月次決算

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　**月次決算の内容を理解しよう！**

②　**減価償却の金額の算定をマスターしよう！**

主な勘定科目

「減価償却費」勘定（費用）

「減価償却累計額」勘定（資産のマイナス）

これまでは、年に一度決算を行うことを前提とした会計処理を学習してきました。しかし、刻々と変化する経営状況に対応するため、経営成績を月単位で把握する会社が多いです。この月単位で月次の利益を算定することを「**月次決算**（げつじけっさん）」といいます。

月次決算を採用している場合、年度末に行っていた決算整理仕訳を毎月の月次決算で行いますが、減価償却費など年単位で計算される金額は１年間の減価償却費を見積もり、それを12ヶ月で割った金額を毎月の月次決算で計上します。なお、日商簿記3級では月次決算に関して、**減価償却費の月次決算の処理**が出題されます。

例題 **建物（取得原価120,000円、残存価額ゼロ、耐用年数20年、定額法、前期首に取得）に関して、9月の月次決算で減価償却費を計上する（3月決算）。**

①　９月月次決算整理前残高試算表

月次決算を行っている場合、前月（8月）までの減価償却費が計上されています。

9月月次決算整理前残高試算表（一部）

建　　　　　　物	120,000	建物減価償却累計額	8,500
減　価　償　却　費	2,500		

減価償却費：120,000÷20年÷12ヶ月×5ヶ月

＝4月から8月までの減価償却費2,500

建物減価償却累計額：期首建物減価償却累計額6,000(＝120,000÷20年)

＋4月から8月までの減価償却費2,500＝8,500

②　9月の月次決算整理仕訳

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
減　価　償　却　費	**500**	**建物減価償却累計額**	**500**

減価償却費：120,000÷20年÷12ヶ月＝500

③　９月月次決算整理後残高試算表

9月月次決算整理後残高試算表（一部）

建　　　　　　物	120,000	建物減価償却累計額	9,000
減　価　償　却　費	3,000		

減価償却費：120,000÷20年÷12ヶ月×6ヶ月

＝4月から9月までの減価償却費3,000

建物減価償却累計額：期首建物減価償却累計額6,000(＝120,000÷20年)

＋4月から9月までの減価償却費3,000＝9,000

修繕

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　固定資産の修繕等に関して、費用として処理するのか、資産として処理するのか、その違いを理解しよう！

②　修繕等に関する仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「修繕費」勘定（費用）

固定資産を取得した後に、修繕や改良等を行うことがあります。

これらの修繕や改良等に関する支出は以下の２つに分類できます。

①　固定資産の使用可能期間を延長させたり、価値を高めるもの

②　固定資産の機能の回復や現状を維持するためのもの

①については、固定資産の価値が高まるため、固定資産として処理します。なお、このことを「**資本的支出**（しほんてきししゅつ）」といいます。

②については、固定資産の価値は高まっておらず、現状維持のための費用であるため、「**修繕費**（しゅうぜんひ）」勘定（費用）で処理します。なお、このことを「**収益的支出**（しゅうえきてきししゅつ）」といいます。

例題　**建物の改良と修繕を行い、代金300,000円を当座預金口座から支払った。そのうち、建物の資産価値を高める支出額が200,000円、建物の現状維持のための支出額が100,000円であった。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物	**200,000**	**当座預金**	**300,000**
修繕費	**100,000**		

有形固定資産 問題

問題1 以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。なお、決算日は12月31日であり、減価償却の記帳方法は間接法を採用している。

2030年1月1日

備品845,000円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。また、運送料として5,000円を現金で支払った。

2030年12月31日

決算日となり、減価償却（定額法、残存価額：取得原価の10%、耐用年数５年）を行う。

2031年1月1日

2030年1月1日に取得した備品のうち取得原価100,000円を70,000円で売却し、代金は現金で受け取った。

2031年3月31日

2030年1月1日に取得した備品のうち取得原価200,000円を170,000円で売却し、代金は小切手で受け取った。

2031年12月31日

決算日となり、減価償却（定額法、残存価額：取得原価の10%、耐用年数５年）を行う。

問題2　以下の取引に関して、間接法を採用している場合における車両勘定と減価償却累計額勘定への転記を行いなさい。なお、車両について、定額法（残存価額ゼロ、耐用年数6年）により減価償却を行う。また、決算日は3月31日である。

1月1日　車両720,000円を購入し、代金は現金で支払った。
3月31日　決算にあたり、減価償却を行う。

問題3　以下の取引に関して、間接法を採用している場合における車両勘定と減価償却累計額勘定への転記を行いなさい。なお、車両について、定額法（残存価額ゼロ、耐用年数6年）により減価償却を行う。また、決算日は3月31日であり、当社は月次決算を行っている。

1月1日　車両720,000円を購入し、代金は現金で支払った。
1月31日　月次決算にあたり、減価償却を行う。
2月28日　月次決算にあたり、減価償却を行う。
3月31日　決算にあたり、減価償却を行う。

有形固定資産　答案用紙

問題1

2030年	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
1/1				
12/31				

2031年	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
1/1				
3/31				
12/31				

問題2

車　　両

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

減価償却累計額

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

問題3

車　　両

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

減価償却累計額

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

有形固定資産　解答解説

問題1　解答

2030年	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1	備品	850,000	当座預金	845,000
			現金	5,000
12/31	減価償却費	153,000	減価償却累計額	153,000

2031年	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1	減価償却累計額	18,000	備品	100,000
	現金	70,000		
	固定資産売却損	12,000		
3/31	減価償却累計額	36,000	備品	200,000
	減価償却費	9,000	固定資産売却益	15,000
	現金	170,000		
12/31	減価償却費	99,000	減価償却累計額	99,000

問題1　**解説**

2030年1月1日　取得原価：購入代価845,000＋付随費用5,000＝850,000

2030年12月31日　取得原価850,000×0.9÷5年＝153,000

2031年1月1日　減価償却累計額：100,000×0.9÷5年＝18,000
売却時の帳簿価額：100,000－減価償却累計額18,000＝82,000
固定資産売却損：帳簿価額82,000－売却価額70,000＝12,000

2031年3月31日　減価償却累計額：200,000×0.9÷5年＝36,000
減価償却費：200,000×0.9÷5年÷12ヶ月×3ヶ月＝9,000
売却時の帳簿価額：200,000－減価償却累計額36,000
－期首から売却時までの減価償却費9,000＝155,000
固定資産売却益：売却価額170,000－帳簿価額155,000＝15,000

なお、売却の仕訳は以下のように分解するとわかりやすいでしょう。

・期首から売却時までの減価償却費の計上

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	**9,000**	**減価償却累計額**	**9,000**

・減価償却費の計上後に売却

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却累計額	**45,000**	**備品**	**200,000**
現金	**170,000**	**固定資産売却益**	**15,000**

2031年12月31日　取得原価(850,000－100,000－200,000)×0.9÷5年＝99,000

問題2　**解答**

車　　　両

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	1	現　　金	720,000				

減価償却累計額

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				3	31	減 価 償 却 費	30,000

問題2　**解説**

車両の購入

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
車　　両	**720,000**	**現　　金**	**720,000**

減価償却費：720,000÷6年÷12ヶ月×3ヶ月＝30,000

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
減 価 償 却 費	**30,000**	**減価償却累計額**	**30,000**

問題3 **解答**

車　　両

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	現　金	720,000				

減価償却累計額

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	31	減価償却費	10,000
				2	28	減価償却費	10,000
				3	31	減価償却費	10,000

問題3 **解説**

車両の購入

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
車　両	**720,000**	**現　金**	**720,000**

1ヶ月あたり減価償却費：720,000÷6年÷12ヶ月＝10,000

・1月31日

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
減価償却費	**10,000**	**減価償却累計額**	**10,000**

・2月28日

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
減価償却費	**10,000**	**減価償却累計額**	**10,000**

・3月31日

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
減価償却費	**10,000**	**減価償却累計額**	**10,000**

その他の取引①

未収入金・未払金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　未収入金・未払金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「未収入金」勘定（資産）

「未払金」勘定（負債）

（１）未収入金・未払金とは？

取引時には代金を受け取らず、後日、一定の日に代金を受け取る場合があります。この後日受け取る代金（権利）は、商品を売り上げた時は「売掛金（うりかけきん）」勘定（資産）で処理しますが、固定資産など商品以外の取引は「**未収入金**（みしゅうにゅうきん）（または、未収金）」勘定（**資産**）で処理します。

取引時には代金を支払わず、後日、一定の日に代金を支払う場合があります。この後日支払う代金（義務）は、商品を仕入れた時は「買掛金（かいかけきん）」勘定（負債）で処理しますが、固定資産など商品以外の取引は「**未払金**（みばらいきん）」勘定（**負債**）で処理します。

（２）会計処理

① 未収入金

例題　土地1,000円を1,200円で売却し、代金は月末に受け取ることとした。

後日代金を受け取る権利（資産）が生じ、商品の販売以外の取引であるため「未収入金」勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
未　収　入　金	**1,200**	**土　地**	**1,000**
		固定資産売却益	**200**

例題　月末になり、土地の売却代金1,200円を現金で受け取った。

未収入金という資産が減少したので、「未収入金」勘定（資産）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　金	**1,200**	**未　収　入　金**	**1,200**

②　未払金

例題　**消耗品1,000円を購入し、代金は月末払いとした。**

後日代金を支払う義務（負債）が生じ、商品の仕入以外の取引であるため「未払金」勘定（負債）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
消　耗　品　費	**1,000**	**未　払　金**	**1,000**

例題　**月末になり、消耗品の購入代金1,000円を現金で支払った。**

未払金という負債が減少したので、「未払金」勘定（負債）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
未　払　金	**1,000**	**現　金**	**1,000**

仮払金・仮受金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　仮払金・仮受金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「仮払金」勘定（資産）

「仮受金」勘定（負債）

（１）仮払金・仮受金とは？

現金の支払や受取があったが、その内容がわからなかったり、金額や相手勘定科目が決まっていないことがあります。この場合、相手勘定科目や金額が決まるまで一時的に「**仮払金**（かりばらいきん）」勘定（**資産**）や「**仮受金**（かりうけきん）」勘定（**負債**）で処理しておきます。

そして、内容が判明したり、金額や相手勘定科目が確定したら、適切な勘定に振り替えます。

（２）会計処理

①　仮払金

例題　**従業員の出張にあたり、旅費交通費の概算額（がいさんがく）として1,000円を現金で渡した。**

まだ、旅費交通費の金額が確定していないので、一時的に「仮払金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮払金	**1,000**	**現金**	**1,000**

例題　**従業員が出張から戻り、概算額1,000円のうち、旅費交通費として800円を使用したとの報告を受け、残金200円は現金で受け取った。**

旅費交通費の金額が800円と確定したので、「仮払金」勘定（資産）を減少させるとともに、「旅費交通費」勘定（費用）の増加と現金勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	**800**	**仮払金**	**1,000**
現金	**200**		

② 仮受金

例題　当座預金に1,000円の入金があったが、内容が不明であった。

内容が不明であるため、一時的に「仮受金」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**1,000**	**仮受金**	**1,000**

例題　内容不明な入金額1,000円が、売掛金の決済額であることが判明した。

内容が判明したので、「仮受金」勘定（負債）を減少させるとともに、「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮受金	**1,000**	**売掛金**	**1,000**

立替金・預り金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　立替金・預り金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「立替金」勘定（資産）

「預り金」勘定（負債）

（１）立替金とは？

従業員が支払うべき金額を会社が代わりに立て替えた場合など、金銭を一時的に立替払いする場合があります。これを**立替金**（たてかえきん）といいます。

（２）立替金の会計処理

立替えた金銭は、後日、返してもらう権利が生じますので、「**立替金**」勘定（**資産**）として処理します。なお、具体的な内容を示すために、「従業員立替金」勘定（資産）等を用いる場合もあります。

例題　**従業員が負担すべき支出1,000円を現金で立て替えた。**

「立替金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
立替金	**1,000**	**現金**	**1,000**

例題　**従業員に対する立替金1,000円の返金を現金で受けた。**

「立替金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,000**	**立替金**	**1,000**

（３）預り金とは？

従業員の給料に対して所得税や社会保険料が課せられますが、従業員に給料を支払う際に、その給料から所得税や社会保険料を天引き（これを源泉徴収といいます）し、残額を従業員に支払います。天引きしたお金は従業員に代わって、後日、税務署などに支払います。これを**預り金**といいます。

（４）預り金の会計処理

預かった金銭は、後日、支払う義務が生じますので、「**預り金**」勘定（**負債**）として処理します。なお、具体的な内容を示すために、「従業員預り金」勘定（負債）や「所得税預り金」勘定（負債）、「社会保険料預り金」勘定（負債）等を用いる場合もあります。

例題　**給料10,000円のうち、所得税500円を差し引いた残額9,500円を現金で支払った。**

「預り金」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
給　料	**10,000**	**預り金**	**500**
		現　金	**9,500**

例題　**税務署に所得税500円を現金で支払った。**

「預り金」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
預り金	**500**	**現　金**	**500**

法定福利費

【重要性：B】

（２）雇用保険料の処理【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

① 法定福利費の内容を理解しよう！

② 仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「法定福利費」勘定（費用）

「預り金」勘定（負債）

「立替金」勘定（資産）

（１）法定福利費とは？

社会保険とは、一般的に年金保険、健康保険、雇用保険、労災保険など法律等で加入が定められている保険をいいます。社会保険は雇用主（会社）と従業員が負担率に応じて負担します。このうち、会社が負担する分を「**法定福利費**」勘定（**費用**）で処理します。

なお、従業員が負担する分は、従業員に給料を支払う際に、その給料から天引きしますので、「**預り金**」勘定（**負債**）で処理します。

例題　**社会保険料の従業員負担分3,000円（給料支払時に預り金勘定で処理している）を、雇用主負担分3,100円と併せて当座預金で支払った。**

給料支払時に以下の仕訳が行われています。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
給　　料	×××	預　り　金	3,000
		当 座 預 金	×××

従業員負担分は「預り金」勘定（負債）の減少として処理し、会社（雇用主）負担分は「法定福利費」勘定（費用）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
預　り　金	**3,000**	**当 座 預 金**	**6,100**
法 定 福 利 費	**3,100**		

（２）雇用保険料の処理

雇用保険料は、一年分の雇用保険料（従業員負担分と会社負担分）を一括して支払います。従業員負担分について、支払時までに従業員から預かっている分は「**預り金**」勘定（**負債**）で処理していますが、支払時以降の分はまだ従業員から預かっていません。そこで、支払時には「**立替金**」勘定（**資産**）で処理します。また、支払時以降に給与支払い時に従業員から雇用保険料を天引きした場合には「立替金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題　**①　6月分の給料について、従業員負担分の雇用保険料6,000円を控除した残額194,000円を普通預金から振り込んで支払った。**

②　7月3日に、本年度の雇用保険料216,000円を一括して現金で支払った。そのうち従業員負担分は72,000円（月額相当額6,000円）であり、144,000円は会社負担分である。従業員負担分については、4月から6月までの3か月分18,000円は、給料から毎月月額相当額を預かっているが、7月以降の9か月分54,000円については、いったん会社が立て替えて支払い、その後の毎月の給料から精算することとしている。

③　7月分の給料について、雇用保険料6,000円を控除した残額194,000円を普通預金から振り込んで支払った。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	給料	200,000	預り金 普通預金	6,000 194,000
②	法定福利費 預り金 立替金	144,000 18,000 54,000	現金	216,000
③	給料	200,000	立替金 普通預金	6,000 194,000

差入保証金

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　差入保証金の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「差入保証金」勘定（資産）

「支払手数料」勘定（費用）

不動産を賃貸する場合に、敷金や保証金を貸主に差し入れることがあります。この敷金や保証金は退去時に返還してもらいます。

差し入れた敷金や保証金は「**差入保証金**」勘定（**資産**）で処理します。

また、不動産会社へ仲介手数料を支払うことが通常ですが、これを「**支払手数料**」勘定（**費用**）で処理します。

例題　**店舗の賃貸にあたり、敷金30,000円、不動産会社への手数料10,000円、１ヶ月分の家賃10,000円を普通預金口座から振り込んだ。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
差入保証金	**30,000**	**普通預金**	**50,000**
支払手数料	**10,000**		
支払家賃	**10,000**		

その他の取引①　問題

問題1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 建物250,000円を購入し、代金は翌月末に支払うこととした。また、不動産会社へ仲介手数料2,000円が生じたが、現金で支払った。

② 土地77,000円を99,000円で販売し、代金は翌月末に受け取ることとした。

③ 従業員の出張に際し、旅費の概算額40,000円を現金で支払った。

④ ③の従業員が出張から戻り、旅費の残金として5,000円を現金で受け取った。

⑤ 出張中の従業員から当座預金口座に35,000円の入金があったが、このうち25,000円は回収した売掛代金であるが、残額は不明であった。

⑥ ⑤の原因不明な入金が得意先から注文を受けた商品100,000円の内金10,000円であることが判明した。

⑦ 取引先の旅費4,000円を立替払いし、現金で支払った。

⑧ 従業員に対する給料にかかる所得税10,000円を差し引き、手取金190,000円を当座より支払った。

⑨ 従業員に対する給料80,000円から、所得税の源泉徴収額8,000円および社会保険料15,000円と、従業員に対する立替金2,000円を差し引き、残額を当座預金口座から振り込んだ。

⑩ 従業員の給料から源泉徴収していた１月から６月までの所得税合計額123,000円を、銀行において納付書とともに現金で納付した。ただし、この納付方法については所轄税務署より納期の特例を承認されている。

⑪ 従業員が業務のために立て替えた1ヶ月分の諸経費は次のとおりであった。そこで、来月の給料に含めて従業員へ支払うこととし、未払金として計上した。

　　電車代6,000円、タクシー代4,000円、消耗品費5,000円

⑫ 健康保険料および厚生年金保険料について、従業員負担額35,000円に会社負担額（従業員負担額と同額）を加えて普通預金口座から振り込んで納付した。

⑬ 事務所の賃貸にあたり、敷金400,000円、不動産会社への仲介手数料80,000円を普通預金口座から振り込んだ。

⑭ 営業活動で利用する電車代支払用ICカードに現金30,000円を入金し、電車の移動のために、12,000円使用した。なお、ICカードへ入金した時に仮払金勘定で処理し、使用時に適切な勘定へ振り替えている。

⑮ 営業活動で利用する電車代支払用ICカードに現金10,000円を入金し、領収書の発行を受けた。なお、ICカードへ入金した時に全額費用に計上する方法を採用している。

その他の取引① 答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				
⑪				
⑫				
⑬				
⑭				
⑮				

その他の取引① 解答解説

問題1 解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	建物	252,000	未払金	250,000
			現金	2,000
②	未収入金	99,000	土地	77,000
			固定資産売却益	22,000
③	仮払金	40,000	現金	40,000
④	旅費交通費	35,000	仮払金	40,000
	現金	5,000		
⑤	当座預金	35,000	売掛金	25,000
			仮受金	10,000
⑥	仮受金	10,000	前受金	10,000
⑦	立替金	4,000	現金	4,000
⑧	給料	200,000	預り金	10,000
			当座預金	190,000
⑨	給料	80,000	預り金	23,000
			立替金	2,000
			当座預金	55,000
⑩	預り金	123,000	現金	123,000
⑪	旅費交通費	10,000	未払金	15,000
	消耗品費	5,000		
⑫	預り金	35,000	普通預金	70,000
	法定福利費	35,000		
⑬	差入保証金	400,000	普通預金	480,000
	支払手数料	80,000		
⑭	仮払金	30,000	現金	30,000
	旅費交通費	12,000	仮払金	12,000
⑮	旅費交通費	10,000	現金	10,000

問題1 **解説**

①　支払代金の未払について、商品の仕入以外は「未払金」勘定（負債）で処理します。また、仲介手数料は固定資産の購入に関する付随費用ですので、固定資産の取得原価に含めるために「建物」勘定（資産）で処理します。

②　商品以外の代金を後日受け取る場合には「未収入金」勘定（資産）で処理します。

③　勘定科目や金額が決まっていない支払については「仮払金」勘定（資産）で処理します。

④　勘定科目や金額が確定したら、「仮払金」勘定（資産）から適切な勘定へ振り替えます。

⑤　勘定科目が不明な入金があった場合、「仮受金」勘定（負債）で処理します。

⑥　内容が判明したら、「仮受金」勘定（負債）から適切な勘定へ振り替えます。

⑦　取引先の費用を立て替えた場合、「立替金」勘定（資産）で処理します。

⑧　従業員の所得税を預かった場合、「預り金」勘定（負債）で処理します。

⑨　所得税の源泉徴収額及び社会保険料の従業員負担額は「預り金」勘定（負債）として処理します。また、従業員への立替金の返済として「立替金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑩　従業員の所得税を預かった時に「預り金」勘定（負債）で処理していますので、所得税を支払った時には「預り金」勘定（負債）の減少として処理します。なお、従業員の所得税は給料を支払った翌月に納付するのが原則ですが、一定の要件を満たした場合には、源泉徴収した所得税を半年に１回の支払いとすることができます。これを「納期の特例」といいます。

⑪　電車代とタクシー代は「旅費交通費」勘定（費用）で処理します。また、来月の給料に含めて従業員へ支払いますので、「未払金」勘定（負債）で処理します。

⑫　社会保険料（健康保険料および厚生年金保険料）の従業員負担分は「預り金」勘定（負債）の減少として処理し、会社負担分は「法定福利費」勘定（費用）で処理します。

⑬　支払った敷金は「差入保証金」勘定（資産）で処理し、不動産会社への仲介手数料は「支払手数料」勘定（費用）で処理します。

⑭　本問では、問題の指示により、入金時に「仮払金」勘定（資産）に計上し、使用時に「旅費交通費」勘定（費用）へ振り替える処理を行います。

⑮　本問では、入金時に全額費用に計上する方法を採用していますので、電車等の交通手段に対する支払額は「旅費交通費」勘定（費用）で処理します。

商品売買②

諸掛り

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　諸掛りの内容を理解しよう！

②　付随費用は、商品の取得原価に含めること！

③　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「仕入」勘定（費用）

「発送費」勘定（費用）

商品を仕入れる時や販売する時には商品を移動させるため、様々な費用がかかります。これを**諸掛り**といいます。諸掛りとしては、発送費（送料）、運賃、荷役費、保険料、購入手数料、関税などがあります。

商品を仕入れる際にかかった諸掛りを**仕入諸掛り**、商品を売り上げる際にかかった諸掛りを**売上諸掛り**といいます。

（１）仕入諸掛り

① 当社負担

当社負担の仕入諸掛りは商品を購入するための**付随費用**なので、固定資産と同様に、商品の取得原価に含めます。したがって、「**仕入**」勘定（**費用**）で処理します。なお、取得原価とは購入代価に付随費用を加算した金額です。

取得原価 ＝ 購入代価 ＋ 付随費用

例題 **商品800円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取費用50円を現金で支払った。**

取得原価は購入代価800円＋付随費用(引取費用)50円＝850円となります。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
仕　入	**850**	**買 掛 金**	**800**
		現　金	**50**

② 取引先負担

取引先が負担する仕入諸掛りを立替払いした場合、後日、仕入諸掛りの代金を受け取ることができます。この場合、取引先が負担する仕入諸掛りは商品の取得原価に含めず、「**立替金**」勘定（**資産**）として処理します。

例題 **商品800円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、仕入先負担の引取費用50円を現金で支払った。**

仕入諸掛りを仕入先が負担するので「立替金」勘定（資産）の増加として処理します。なお、当社が負担しないので、商品の取得原価に含めませんので注意して下さい。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
仕　　入	**800**	**買　掛　金**	**800**
立　替　金	**50**	**現　　金**	**50**

取引先が負担する諸掛りを立替払いした場合、仕入代金とあわせて精算するため「**買掛金**」勘定（**負債**）に含めて処理する場合があります。ただし、買掛金と立替金は本来、性質が異なるため、問題に指示がない場合（問題から判明する場合も含みます）は「**立替金**」勘定（**資産**）で処理すべきでしょう。

例題 **商品800円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、仕入先負担の引取費用50円を現金で支払った。立て替えた金額は買掛金に含めて処理する。**

買掛金は購入代価800円－仕入先負担の引取費用50円＝750円となります。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
仕　　入	**800**	**買　掛　金**	**750**
		現　　金	**50**

この仕訳は以下のように分解するとわかりやすいでしょう。

仕　　入　800 / 買　掛　金　800
買　掛　金　50 / 現　　金　50

（２）売上諸掛り

① 当社負担

売上諸掛りは、「**発送費**」勘定（**費用**）で処理します。なお、「支払運賃」勘定（費用）や「発送運賃」勘定（費用）で処理することもあります。

例題　商品900円を売り上げ、代金は掛けとした。なお、発送費40円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**900**	**売上**	**900**
発送費	**40**	**現金**	**40**

② 取引先負担

売手が支払った売上諸掛りを買手に請求できる場合、商品の売上と商品の発送を一連の取引と考えて、特に指示がない場合は、受け取る売上諸掛りの金額は「**売上**」勘定（**収益**）で処理します。

例題　商品900円を売り上げ、発送費40円を加えた合計額を掛けとした。なお、発送費40円は後日支払うこととした。

発送費についても得意先から代金を得られ、商品の売上と商品の発送を一連の取引と考えて、売上は900円＋発送費40円＝940円となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**940**	**売上**	**940**
発送費	**40**	**未払金**	**40**

返品

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　返品の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

①　仕入戻し：「仕入」勘定（費用）

②　売上戻り：「売上」勘定（収益）

（１）返品とは？

商品の品違いなどを理由に商品を仕入先に戻したり、得意先から戻ってくることを**返品**（へんぴん）といいます。仕入れた商品を返品することを**仕入戻し**（しいれもどし）、売り上げた商品が返品されることを**売上戻り**（うりあげもどり）といいます。

返品は仕入や売上がなかったことと同じですので、仕入時や売上時の仕訳を取り消す処理を行います。なお、通常、仕入時や売上時の借方科目と貸方科目を反対にした仕訳（逆仕訳）を行います。

（２）会計処理

① 仕入戻し

例題 **仕入先から掛仕入した商品100円を品違いのため返品した。**

仕入時に以下の仕訳を行っています。

仕　入　100 / 買　掛　金　100

仕入戻し時には、仕入を取り消す仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買　掛　金	**100**	**仕　入**	**100**

② 売上戻り

例題 **得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）が品違いのため返品された。**

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　120 / 売　上　120

売上戻り時には、売上を取り消す仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売　上	**120**	**売　掛　金**	**120**

受取商品券

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　受取商品券の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「受取商品券」勘定（資産）

（１）受取商品券とは？

デパートなどが発行する商品券(しょうひんけん)は、贈答用(ぞうとうよう)など販売促進(はんばいそくしん)を目的として発行しています。また、加盟百貨店の共通商品券、ギフトカード、ビール券や自治体・商店街・商工会議所等が発行した商品券など、自社が発行した商品券以外の商品券を扱う場合もあります。この自社で発行した以外の商品券を**受取商品券**(うけとりしょうひんけん)**（他店商品券**(たてんしょうひんけん)**）**といいます。なお、自社で発行した商品券については日商簿記3級では出題されません。

（２）会計処理

商品を売り上げ、代金として受取商品券を受け取った場合、その商品券の発行体に対して後日、代金を請求できますので、「**受取商品券**」勘定（**資産**）で処理します。

①　受取商品券を受け取った時

例題　**商品1,200円を売り上げ、代金は自治体発行の商品券1,000円と現金200円を受け取った。**

将来、金銭を受け取る権利（資産）を「受取商品券」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取商品券	**1,000**	**売上**	**1,200**
現金	**200**		

②　受取商品券の精算

例題　**自治体発行の商品券1,000円を引き渡して換金請求**(かんきんせいきゅう)**を行い、現金を受け取った。**

金銭を受け取る権利（資産）が減少しましたので「受取商品券」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,000**	**受取商品券**	**1,000**

クレジット売掛金

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　クレジット売掛金の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

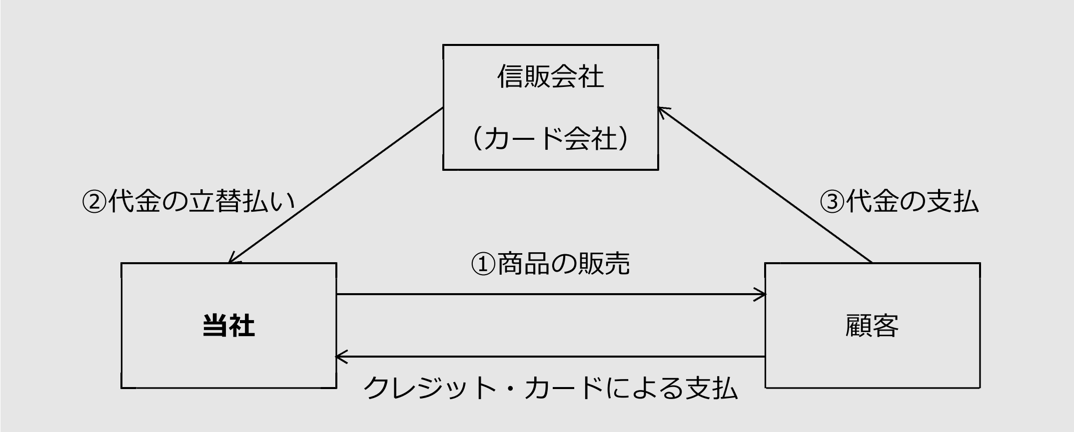
主な勘定科目

「クレジット売掛金」勘定（資産）

「支払手数料」勘定（費用）

（1）クレジット売掛金とは？

クレジット取引とは、クレジットカードでの支払いにより顧客へ商品を販売するが、代金は手数料が差し引かれて信販会社（しんぱんがいしや）から入金される取引をいいます。クレジット取引によりあとで信販会社から代金を受け取る権利を**クレジット売掛金**といいます。



（2）会計処理

クレジット売掛金は、「売掛金」勘定（資産）とは区別して「**クレジット売掛金**」勘定（**資産**）で処理します。なお、信販会社へ支払う手数料は原則として、**売上時**に「**支払手数料**」勘定（**費用**）で処理します。したがって、「クレジット売掛金」勘定（資産）に計上される金額は、手数料が控除された後日、信販会社から入金される金額となります。

例題　**商品10,000円をクレジット払いにて販売した。なお、信販会社へのクレジット手数料は販売代金の２%であり、販売時に計上する。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
クレジット売掛金	**9,800**	**売　　　　上**	**10,000**
支　払　手　数　料	**200**		

支払手数料：10,000×２%＝200

例題　**信販会社から手数料が差し引かれた手取額9,800円が当座に振り込まれた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　　座　　預　　金	**9,800**	**クレジット売掛金**	**9,800**

　なお、信販会社への手数料を**入金時**に計上する方法も考えられます。この場合、「クレジット売掛金」勘定（資産）に計上される金額は、販売価額（手数料が控除される前の金額）となります。なお、日商簿記3級においては問題の指示に従って下さい。

例題　**商品10,000円をクレジット払いにて販売した。なお、信販会社へのクレジット手数料は販売代金の２%であり、入金時に計上する。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
クレジット売掛金	**10,000**	**売　　上**	**10,000**

例題　**信販会社から手数料200円が差し引かれた手取額9,800円が当座に振り込まれた。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当　座　預　金	**9,800**	**クレジット売掛金**	**10,000**
支　払　手　数　料	**200**		

支払手数料：10,000×２%＝200

商品売買② 問題

問題1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　得意先へ商品100,000円を販売し、送料4,000円を加えた合計額をは翌月末に受け取ることとした。なお、送料4,000円は後日支払うこととした。

②　販売目的の中古自動車を30,000円で購入し、代金は小切手で支払った。また、運送業者へ送料1,000円を現金で支払った。なお、当社は自動車販売業を営んでいる。

③　得意先へ商品50,000円を売り上げ、代金は翌月末に受け取ることとした。なお、発送費2,000円を小切手を振り出して支払った。

④　商品80,000円を仕入れ、代金は小切手で支払った。なお、仕入先負担の送料3,000円を運送業者へ現金で支払った。

⑤　以前に得意先へ掛け売り上げした商品60,000円のうち、5,000円が品違いのため返品された。なお、返品に伴い、掛代金を減額した。

⑥　商品65,000円を売り上げ、代金は当社が加盟している商店街の共通商品券42,000円と現金23,000円を受け取った。

⑦　当社が加盟している商店街の共通商品券42,000円の精算を行い、現金42,000円を受け取った。

⑧　商品80,000円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、先方負担の送料3,000円を現金で支払ったが、掛代金に含めて処理する。

⑨　商品66,000円をクレジット払いにて売り上げた。なお、信販会社へのクレジット手数料は売価の１%であり、売上時に認識する。

商品売買②　答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				

商品売買② 解答解説

問題1 解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	売掛金 発送費	104,000 4,000	売上 未払金	104,000 4,000
②	仕入	31,000	当座預金 現金	30,000 1,000
③	売掛金 発送費	50,000 2,000	売上 当座預金	50,000 2,000
④	仕入 立替金	80,000 3,000	当座預金 現金	80,000 3,000
⑤	売上	5,000	売掛金	5,000
⑥	受取商品券 現金	42,000 23,000	売上	65,000
⑦	現金	42,000	受取商品券	42,000
⑧	仕入	80,000	買掛金 現金	77,000 3,000
⑨	クレジット売掛金 支払手数料	65,340 660	売上	66,000

問題1　解説

①　送料も得意先から回収できるので、売上に含めて処理します。売上諸掛を支払った場合、「発送費」勘定（費用）などで処理します。

②　自動車販売業では「自動車」という「商品」を販売しますので、「販売目的の中古自動車の購入」は「仕入」勘定（費用）で処理します。また、当社負担の仕入諸掛は商品の取得原価に含めますので、「仕入」勘定（費用）で処理します。

③　売上諸掛を支払った場合、「発送費」勘定（費用）などで処理します。

④　先方負担の仕入諸掛を立替払いした場合、特に指示がない場合には「立替金」勘定（資産）で処理します。

⑤　売上戻りは「売上」勘定（収益）の減少として処理します。

⑥　当社で発行した以外の商品券を受け取った場合、「受取商品券」勘定（資産）で処理します。

⑦　当社で発行した以外の商品券を精算する場合、「受取商品券」勘定（資産）の減少として処理します。

⑧　先方負担の仕入諸掛を立替払いした場合、掛代金に含めるとの指示があるため「買掛金」勘定（負債）の減少として処理します。なお、以下の２つの仕訳で考えるとわかりやすいでしょう。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	80,000	買掛金	80,000
買掛金	3,000	現金	3,000

⑨　クレジット取引に係る売上債権は「クレジット売掛金」勘定（資産）で処理します。信販会社への支払手数料を売上時に認識しますので、「クレジット売掛金」勘定（資産）の金額は、売上金額から当該支払手数料を控除した金額となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
クレジット売掛金	65,340	売上	66,000
支払手数料	660		

クレジット売掛金：66,000－支払手数料660＝65,340

支払手数料：66,000×１％＝660

貸倒引当金

貸倒損失

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　貸倒れの内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貸倒損失」勘定（費用）

（1）貸倒れとは？

取引先が倒産したことなどにより、売掛金や受取手形といった債権が回収できなくなることを、**貸倒れ**（かしだおれ）といいます。

（2）当期発生売掛金の貸倒れ

売掛金が回収できなくなり、資産としての価値がなくなったので、貸倒れ時に「売掛金」勘定（資産）を減少させます。また、貸倒れに伴う費用を「**貸倒損失**（かしだおれそんしつ）」勘定（**費用**）で処理します。

例題　**得意先に対して、当期に商品1,000円を掛で売り上げた。後日、得意先が倒産し、売掛金1,000円が回収不能となった。**

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　1,000 /　売　　上　1,000

「売掛金」勘定（資産）の減少と「貸倒損失」勘定（費用）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
貸　倒　損　失	**1,000**	**売　掛　金**	**1,000**

貸倒引当金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　貸倒引当金の内容を理解しよう！

②　貸倒引当金の算定方法をマスターしよう！

③　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貸倒引当金」勘定（資産のマイナス）

「貸倒引当金繰入」勘定（費用）

「貸倒引当金戻入」勘定（収益）

（１）貸倒引当金とは？

売掛金などの貸倒れに備えて、あらかじめ準備した金額を**貸倒引当金**（かしだおれひきあてきん）といいます。決算にあたり、当期末における売掛金や受取手形などの債権が、次期以降にどれだけ貸倒れるかを予測し、その見積額（みつもりがく）を貸倒引当金として計上します。

（２）設定方法

貸倒見積額は以下の式で算定します。なお、日商簿記３級では対象となる債権と貸倒実績率は問題文に与えられます。

貸倒見積額　＝　売掛金・受取手形などの債権期末残高　×　貸倒実績率

（３）仕訳

貸倒見積額は「**貸倒引当金繰入**（かしだおれひきあてきんくりいれ）」勘定（**費用**）と「**貸倒引当金**（かしだおれひきあてきん）」勘定を用いて処理します。**決算整理仕訳**として行われます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸 倒 引 当 金 繰 入	**×××**	**貸　倒　引　当　金**	**×××**

なお、「貸倒引当金」勘定は「減価償却累計額」勘定と同様に、**資産のマイナス**を表す勘定（借方科目のマイナス＝**貸方科目**）であり、設定対象となった売掛金や受取手形から控除する性質です。

貸　借　対　照　表

2030年12月31日

⋮			
売　　掛　　金	10,000		
貸　倒　引　当　金	△300	9,700	

例題　**売掛金の期末残高10,000円に対して３％の貸倒れを見積もり、貸倒引当金を設定する。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸 倒 引 当 金 繰 入	**300**	**貸　倒　引　当　金**	**300**

売掛金期末残高10,000円×３％＝貸倒見積額300

（４）差額補充法

① 貸倒見積額 ＞ 貸倒引当金の決算整理前残高

決算で貸倒引当金を設定するにあたり、前期に設定した貸倒引当金に残高がある場合があります。その場合、当期末の貸倒見積額と貸倒引当金の決算整理前残高の差額を追加で繰り入れます。この方法を**差額補充法**（さがくほじゅうほう）といいます。

例題　**売掛金の期末残高10,000円に対して３％の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。なお、決算整理前の貸倒引当金残高は100円であった。**

① 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

		貸倒引当金	100

② 決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金繰入	**200**	**貸倒引当金**	**200**

売掛金期末残高10,000円×３％＝貸倒見積額300

貸倒見積額300－貸倒引当金決算整理前残高100＝200

③ 決算整理後残高試算表

決算整理後の「貸倒引当金」勘定は見積額300円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

貸倒引当金繰入	200	貸倒引当金	300

② 貸倒見積額 ＜ 貸倒引当金の決算整理前残高

当期末の貸倒見積額が貸倒引当金の決算整理前残高より少ない場合、その差額を「貸倒引当金」勘定を減額するとともに、「**貸倒引当金戻入**（かしだおれひきあてきんもどしいれ）」勘定を用いて**収益**に計上します。

例題　売掛金の期末残高10,000円に対して３％の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。なお、決算整理前の貸倒引当金残高は400円であった。

① 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

		貸 倒 引 当 金	400

② 決算整理

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
貸 倒 引 当 金	**100**	**貸 倒 引 当 金 戻 入**	**100**

売掛金期末残高10,000円×３％＝貸倒見積額300

貸倒引当金決算整理前残高400－貸倒見積額300＝100

③ 決算整理後残高試算表

決算整理後の「貸倒引当金」勘定は見積額300円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

		貸 倒 引 当 金	300
		貸 倒 引 当 金 戻 入	100

貸倒時の処理

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　仕訳をマスターしよう！

②　貸倒引当金の残高に注意しよう！

③　いつ発生した売掛金が貸し倒れたのかに注意すること！

主な勘定科目

「貸倒引当金」勘定（資産のマイナス）

「貸倒損失」勘定（費用）

（１）前期以前発生売掛金の貸倒れ

①　貸倒金額　＜ 貸倒引当金残高

前期以前に発生した売掛金については前期末に貸倒引当金を設定しています。したがって、貸倒れ時に、「**貸倒引当金**」勘定を減少させます。

例題　**得意先が倒産し、前期の売上に関する売掛金1,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は2,000円であった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸　倒　引　当　金	**1,000**	**売　　　掛　　　金**	**1,000**

②　貸倒金額　＞ 貸倒引当金残高

貸倒引当金の残高を上回る貸倒れが生じた場合、「貸倒引当金」勘定を残高全額を減少させるとともに、その上回った金額は「**貸倒損失**」勘定（費用）で処理します。

例題　**得意先が倒産し、前期の売上に関する売掛金1,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は800円であった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸　倒　引　当　金	**800**	**売　　　掛　　　金**	**1,000**
貸　　倒　　損　　失	**200**		

（２）当期発生売掛金の貸倒れ

すでに学習しましたが、当期発生売掛金については、「**貸倒損失**」勘定（**費用**）で処理します。当期発生売掛金については決算が到来していないので、貸倒引当金を設定していません。そのため、貸倒引当金を用いることができないと考えて良いでしょう。

（３）貸倒れ時の処理のまとめ

・当期発生売掛金の貸倒れ　…　貸倒損失
・前期以前発生売掛金の貸倒れ　…　貸倒引当金の減少
貸倒引当金残高を上回る場合は、貸倒損失

Point! 貸し倒れた売掛金・受取手形がいつ発生したか確認すること！

償却債権取立益

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　償却債権取立益が生じる理由を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「償却債権取立益」勘定（収益）

取引先の倒産などによって、前期以前に貸倒処理した売掛金や受取手形などの債権の一部または全部が、当期に回収できる場合があります。

この場合、前期以前の処理を修正するのではなく、回収できた当期に「**償却債権取立益**（しょうきゃくさいけんとりたてえき）」勘定を用いて**収益**に計上します。前期以前に償却（貸倒処理）した債権を取り立てられた（回収できた）ことによる収益なので、このような勘定科目名となっています。

例題　**前期に得意先が倒産し、その際に売掛金1,000円の貸倒処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い800円の分配を受け、同額が普通預金口座へ振り込まれた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金	**800**	**償却債権取立益**	**800**

貸倒引当金 問題

問題1 以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 得意先が倒産し、前期に販売した商品に関する掛代金50,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は37,000円であった。

② 前期に貸倒れとして処理していた売掛金60,000円のうち、20,000円が回収され、当座預金口座に振り込まれた。なお、貸倒引当金残高は18,000円であった。

③ 当期に売り上げた商品に関する売掛金16,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金残高は25,000円であった。

④ 受取手形の期末残高200,000円および売掛金の期末残高350,000円に対して、２％の貸倒引当金を差額補充法により設定する。なお、決算整理前残高試算表における貸倒引当金は7,000円であった。

⑤ 得意先が倒産し、当期に発生した売掛金123,000円のうち、23,000円はかねて注文を受けた際に受け取っていた手付金と相殺し、残額は貸倒れとして処理した。

⑥ 得意先が倒産し、前期に販売した商品に関する掛代金22,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は88,000円であった。

貸倒引当金　答案用紙

問題1

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

貸倒引当金 解答解説

問題1 解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	貸倒引当金 貸倒損失	37,000 13,000	売掛金	50,000
②	当座預金	20,000	償却債権取立益	20,000
③	貸倒損失	16,000	売掛金	16,000
④	貸倒引当金繰入	4,000	貸倒引当金	4,000
⑤	前受金 貸倒損失	23,000 100,000	売掛金	123,000
⑥	貸倒引当金	22,000	売掛金	22,000

問題1　**解説**

①　前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合、「貸倒引当金」勘定（負債）を取り崩します。また、貸倒引当金の残高を上回る貸倒が生じた場合、その超過額を「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

②　前期に貸倒処理した売掛金を当期に回収した場合、「償却債権取立益」勘定（収益）で処理します。

③　当期に発生した売掛金が当期に貸し倒れた場合、「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

④　貸倒見積高と決算整理前の残高との差額を「貸倒引当金繰入」勘定（費用）で処理します。

貸倒見積高：(200,000＋350,000)×2%＝11,000

貸倒引当金繰入：11,000－前T/B 貸倒引当金7,000＝4,000

⑤　前受金として受け取った金額を売掛金の回収として処理します。

・前受金の受取時

現　金	23,000 /	前受金	23,000

・前受金の売掛金回収額への充当

前受金	23,000 /	売掛金	23,000

また、当期に発生した売掛金が当期に貸し倒れた場合、「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

⑥　前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合、「貸倒引当金」勘定（負債）を取り崩します。

税金

法人税等

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　中間納付、確定申告の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「法人税、住民税及び事業税」勘定（費用）

「仮払法人税等」勘定（資産）

「未払法人税等」勘定（負債）

（１）税金の分類

株式会社では様々な税金が課せられますが、簿記上は以下のように分類されます。

① 利益に課せられる税金

利益に課せられる税金として、法人税、都道府県民税及び市町村民税である住民税、事業税があります。

② 費用となる税金

固定資産税や印紙税（いんしぜい）等は「**租税公課**」勘定（費用）として処理します。

③ 資産の付随費用となる税金

資産の購入に付随して生じる不動産取得税（ふどうさんしゅとくぜい）、登録免許税（とうろくめんきょぜい）や関税等は**資産の取得原価**として処理します。

④ 消費税

日商簿記3級では、**税抜方式**を学習します。

（２）法人税等

法人税等とは、利益に課せられる税金である法人税、住民税及び事業税をいいます。法人税が国から、住民税や事業税が都道府県や市町村から課されます。

法人税、住民税及び事業税はともに、利益に課せられる税金ですので、それらをまとめて「**法人税、住民税及び事業税**（または、法人税等）」勘定（**費用**）で処理します。なお、損益計算書には「法人税、住民税及び事業税」として計上します。

① 中間申告（ちゆうかんしんこく）

中間申告とは、期首から６ヶ月を経過した日から２ヶ月以内に、前年度の法人税額の２分の１または６ヶ月を一事業年度とみなして仮決算を行って算出した６ヶ月分の法人税額のいずれかを申告・納付することです。

中間申告において納付した法人税額はまだ、確定していませんので「**仮払法人税等**」勘定（**資産**）で処理します。

例題　**法人税等の中間納付を行い、150,000円を当座により支払った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仮 払 法 人 税 等	**150,000**	**当　座　預　金**	**150,000**

② 決算

1年間の利益を課せられる当期の法人税等を算定し、「**法人税、住民税及び事業税**（または、法人税等）」勘定（**費用**）で処理します。

１年間の法人税等が中間納付額より多い場合は後日その差額を納付しますので、その差額を「**未払法人税等**」勘定（**負債**）で処理します。

例題　**決算にあたり当期の法人税等を500,000円計上する。なお、法人税等の中間納付は150,000円であった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
法人税、住民税及び事業税	**500,000**	**仮 払 法 人 税 等**	**150,000**
		未 払 法 人 税 等	**350,000**

③ 確定申告（かくていしんこく）

確定申告とは、原則として、決算日後２ヶ月以内に法人税、住民税、事業税を申告し、納付することをいいます。中間納付額を差し引いた残額を納付しますので、支払時に「**未払法人税等**」勘定（負債）を減少させます。

例題　**未払法人税等350,000円について小切手を振り出して支払った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
未 払 法 人 税 等	**350,000**	**当　座　預　金**	**350,000**

租税公課

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「租税公課」勘定（費用）

租税公課（そぜいこうか）とは、税金のうち費用の性格を有するものであり、具体的には、印紙税（いんしぜい）、固定資産税（こていしさんぜい）、自動車税（じどうしゃぜい）などがあります。これらは「**租税公課**」勘定（**費用**）で処理します。

例題　**店舗にかかる固定資産税200円を現金で支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
租　税　公　課	**200**	**現　　　金**	**200**

例題　**収入印紙500円を購入し、現金で支払った。なお、この収入印紙はただちに使用した。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
租　税　公　課	**500**	**現　　　金**	**500**

消費税

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 消費税の内容を理解しよう！

② 仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

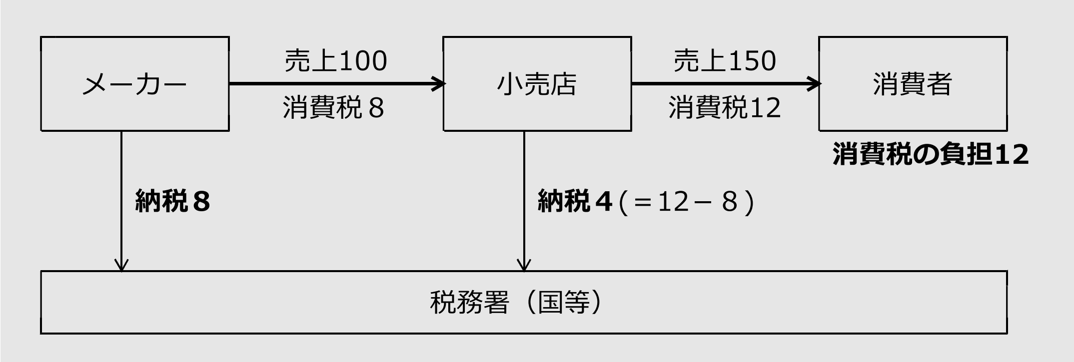
「仮受消費税」勘定（負債）

「仮払消費税」勘定（資産）

「未払消費税」勘定（負債）

（１）消費税とは？

消費税とは、事業者が国内で行った資産の譲渡やサービスの提供等に課せられる税金です。消費税は、製造、流通等の過程で課税されますが、最終的には消費者が税の負担を行います。したがって、消費税は消費者でない会社の損益には影響を与えません。



消費税の会計処理には、税抜方式（ぜいぬきほうしき）と税込方式（ぜいこみほうしき）がありますが、日商簿記３級では**税抜方式**が出題されます。また、消費税の税率は問題の指示に従って下さい。

（２）税抜方式

①　仕入時

商品を仕入れた場合等、消費税を支払ったときには「**仮払消費税**」勘定（**資産**）で処理します。

例題　**商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　　入	**10,000**	**買　　掛　　金**	**10,800**
仮　払　消　費　税	**800**		

仮払消費税：10,000×8%＝800

買掛金：10,000＋消費税800＝10,800

②　売上時

商品を売り上げた場合等、消費税を受け取ったときには「**仮受消費税**」勘定（**負債**）で処理します。

例題　**商品10,000円を15,000円で販売し、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　　掛　　金	**16,200**	**売　　　　　上**	**15,000**
		仮　受　消　費　税	**1,200**

仮受消費税：15,000×8%＝1,200

売掛金：15,000＋消費税1,200＝16,200

③　決算時

受け取った消費税と支払った消費税を相殺した差額を納付しますので、「**未払消費税**」勘定（**負債**）で処理します。

例題　**決算において、受け取った消費税1,200円と支払った消費税800円を相殺し、納付額を決定する。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仮 受 消 費 税	**1,200**	**仮 払 消 費 税**	**800**
		未 払 消 費 税	**400**

④　納付時

確定申告を行い、納付額の支払時に「**未払消費税**」勘定（負債）を減少させます。

例題　**消費税の納付額400円を当座預金から支払った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
未 払 消 費 税	**400**	**当 座 預 金**	**400**

税金 問題

問題1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 法人税及び住民税について中間納付を行い、前期の業績にもとづいて220,000円を小切手を振り出して納付した。
② 決算にあたり、法人税等の当期充当額を900,000円計上する。なお、すでに法人税等の中間納付を300,000円行っている。
③ 当社は得意先に商品を420,000円で販売し、消費税33,600円とともに現金で受け取った。なお、消費税の会計処理として税抜方式を採用している。
④ 決算に際して、消費税の納付額を計算し、これを確定する。なお、当期の消費税仮払分は742,000円、消費税仮受分は990,000円であり、消費税の処理は税抜方式によっている。
⑤ 店舗の固定資産税44,000円を現金で支払った。

税金 答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				

税金 解答解説

問題1 **解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	**仮払法人税等**	**220,000**	**当座預金**	**220,000**
②	**法人税等**	**900,000**	**仮払法人税等**	**300,000**
			未払法人税等	**600,000**
③	**現金**	**453,600**	**売上**	**420,000**
			仮受消費税	**33,600**
④	**仮受消費税**	**990,000**	**仮払消費税**	**742,000**
			未払消費税	**248,000**
⑤	**租税公課**	**44,000**	**現金**	**44,000**

問題1 **解説**

①　法人税等の中間納付は「仮払法人税等」勘定（資産）で処理します。

②　法人税等の当期充当額は当期の法人税等の金額です。決算において未納額を「未払法人税等」勘定（負債）で処理します。なお、未払法人税等の金額は以下となります。

　　　未払法人税等：900,000－中間納付額300,000＝600,000

③　税抜方式では受け取った消費税を「仮受消費税」勘定（負債）で処理します。なお、現金の金額は以下となります。

　　　現金：売上420,000＋消費税33,600＝453,600

④　仮受消費税と仮払消費税の差額が未払の納付額であり、「未払消費税」勘定（負債）で処理します。

⑤　固定資産税は、「租税公課」勘定（費用）で処理します。

その他の取引②

貸付金・借入金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　貸付金と借入金を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貸付金」勘定（資産）

「受取利息」勘定（収益）

「借入金」勘定（負債）

「支払利息」勘定（費用）

（1）貸付金・借入金とは？

取引先や従業員にお金を貸し付けることがあります。その場合、将来、貸し付けた金銭を返してもらう権利が生じますので「**貸付金**」勘定（**資産**）で処理します。なお、従業員や役員（取締役等）への貸付金については「従業員貸付金」勘定（資産）や「役員貸付金」勘定（資産）を用いる場合があります。

また、銀行からお金を借り入れた場合、将来、借り入れた金銭を返済する義務が生じますので「**借入金**」勘定（**負債**）で処理します。なお、役員（取締役等）からの借入金については「役員借入金」勘定（負債）を用いる場合があります。

金銭の貸借に伴って、通常、利息が生じます。金銭を貸し付けることによって受け取る利息は「**受取利息**」勘定（**収益**）で処理します。また、金銭を借り入れることによって支払う利息は「**支払利息**」勘定（**費用**）で処理します。

（2）会計処理

① 貸付金

例題　取引先に1,000円を現金で貸し付けた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸付金	**1,000**	**現金**	**1,000**

例題　貸付金の利息20円を現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**20**	**受取利息**	**20**

例題　貸付金1,000円が返済され、当座に振り込まれた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**1,000**	**貸付金**	**1,000**

② 借入金

例題 **銀行から1,000円を借り入れ、当座に振り込まれた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**1,000**	**借入金**	**1,000**

例題 **借入金の利息20円を当座により支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払利息	**20**	**当座預金**	**20**

例題 **借入金1,000円を返済し、当座により支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
借入金	**1,000**	**当座預金**	**1,000**

（３）利息の計算

利息は、年利率と貸付期間（借入期間）により**日割計算**または**月割計算**します。

例題　**借入元本20,000円、利率年3.65%、借入期間30日の場合における支払利息の金額を計算しなさい。なお、1年を365日とする日割計算を行うこと。**

借入金額20,000×3.65%÷365日×30日＝支払利息60

例題　**借入元本10,000円、利率年２%、借入期間９ヶ月の場合における支払利息の金額を計算しなさい。なお、月割計算を行うこと。**

借入金額10,000×２%÷12ヶ月×９ヶ月＝支払利息150

例題　**銀行から10,000円を借り入れていたが、支払期日が到来したため、元利合計を当座預金から返済した。なお、借入に伴う利率は年２%、借入期間は当期中の９ヶ月であった。なお、月割計算を行うこと。**

元利（がんり）合計とは、元本（本例題では10,000円）と利息（本例題では150円）の合計を意味します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
借　入　金	**10,000**	**当　座　預　金**	**10,150**
支　払　利　息	**150**		

支払利息：借入金額10,000×２%÷12ヶ月×９ヶ月＝支払利息150

手形貸付金・手形借入金

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　手形貸付金と手形借入金を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「手形貸付金」勘定（資産）

「手形借入金」勘定（負債）

（1）手形貸付金・手形借入金とは？

金銭の貸借は通常、借用証書（しやくようしようしよ）を用いますが、借用証書の代わりに手形を用いる場合があります。手形を用いた貸付、借入は通常の貸付金・借入金と区別するために、「**手形貸付金**（てがたかしつけきん）」勘定（**資産**）、「**手形借入金**（てがたかりいれきん）」勘定（**負債**）を用いて処理します。また、約束手形を振り出したり、受け取ったりしますが、「受取手形」勘定（資産）や「支払手形」勘定（負債）を用いないように注意して下さい。

（2）会計処理

① 手形貸付金

例題　**取引先に1,000円を現金で貸し付け、借用証書の代わりに約束手形を受け取った。**

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
手　形　貸　付　金	**1,000**	**現　　　　　金**	**1,000**

例題　**手形貸付金1,000円が返済され、当座に振り込まれた。**

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
当　座　預　金	**1,000**	**手　形　貸　付　金**	**1,000**

② 手形借入金

例題　**取引先から現金1,000円を借り入れ、借用証書の代わりに約束手形を振り出した。**

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　　　　　金	**1,000**	**手　形　借　入　金**	**1,000**

例題　**手形借入金1,000円を返済し、当座により支払った。**

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
手　形　借　入　金	**1,000**	**当　座　預　金**	**1,000**

訂正仕訳

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　訂正仕訳の内容を理解しよう！

②　仕訳の導出方法をマスターしよう！

取引時に仕訳を行ったが、勘定科目を間違えたり、金額を間違えたりする場合があります。その場合、正しい処理になるように**訂正仕訳**(ていせいしわけ)を行う必要があります。

処理としては、まず、①誤った仕訳を取り消すために、誤った仕訳の貸借反対の仕訳を考えます。これを逆仕訳(ぎゃくしわけ)(または反対仕訳(はんたいしわけ))といいます。次に、②正しい仕訳を考えます。この①と②を合算した仕訳が訂正仕訳となります。

(1)勘定科目の間違い

例題　売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、間違えて売上勘定の貸方に記入していた。

実際に以下の仕訳を行っています。

当座預金　1,000 / 売上　1,000

訂正仕訳を行うには、まず、①誤った仕訳の逆仕訳を考えます。

売上　1,000 / 当座預金　1,000

次に、②正しい仕訳を行います。

当座預金　1,000 / 売掛金　1,000

①と②を合計した仕訳が、訂正仕訳となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	**1,000**	**売掛金**	**1,000**

実際に行った仕訳の借方「当座預金」は正しく、貸方の「売上」が間違いですので、それを正しく「売掛金」に訂正しています。

（２）金額の間違い

例題　**売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、間違えて100円として仕訳を行っていた。**

実際に以下の仕訳を行っています。

当　座　預　金　　　100 /　売　　掛　　金　　　100

訂正仕訳を行うには、まず、①誤った仕訳の逆仕訳を考えます。

売　　掛　　金　　　100 /　当　座　預　金　　　100

次に、②正しい仕訳を行います。

当　座　預　金　　　1,000 /　売　　掛　　金　　　1,000

①と②を合計した仕訳が、訂正仕訳となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**900**	**売掛金**	**900**

実際に行った仕訳では、借方の「当座預金」が900円少なく、貸方の「売掛金」が900円少ないので、それを正しく訂正しています。

（３）未処理

本来行うべき仕訳を行っていなかった場合があります。それを**未処理**（みしょり）といいます。未処理が判明した場合には、本来行うべき仕訳を行って下さい。

例題　**売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、未処理であった。**

この取引に関して仕訳が行われていませんので、本来行うべき仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**1,000**	**売掛金**	**1,000**

貯蔵品

【重要性：Ｂ】

ＰＯＩＮＴ！

①　貯蔵品で処理されるものを覚えよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貯蔵品」勘定（資産）

「租税公課」勘定（費用）・「通信費」勘定（費用）

郵便切手や収入印紙など換金性の高い資産は、購入時に費用勘定（郵便切手は「通信費」、収入印紙は「租税公課」）で処理し、決算において未使用分を費用勘定から「**貯蔵品**」勘定（**資産**）へ振り替えます。

また、次期期首において、期中は費用勘定で処理するために、「貯蔵品」勘定（資産）の残高を、各費用勘定に振り替えます。この仕訳は前期の決算整理仕訳の反対仕訳（逆仕訳）となりますので、**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）といいます。

例題　① **収入印紙1,000円を現金で購入した。**
② **決算において、未使用の収入印紙が200円あった。**
③ **期首において、未使用の収入印紙200円を適切な費用勘定へ再振替仕訳を行った。**

① 購入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
租税公課	**1,000**	**現金**	**1,000**

② 決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
貯蔵品	**200**	**租税公課**	**200**

この結果、租税公課は収入印紙の使用分800円となります。

③ 次期期首（再振替仕訳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
租税公課	**200**	**貯蔵品**	**200**

例題　①　**決算において、未使用の切手が300円あった。**

②　次期期首において、前期末に振り替えた勘定から元の勘定へ再振替仕訳を行う。

①　決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
貯蔵品	**300**	**通信費**	**300**

②　次期期首（再振替仕訳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	**300**	**貯蔵品**	**300**

その他の取引② 問題

問題1 以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 銀行から100,000円を借り入れ、当座預金に預け入れた。

② 借入金100,000円にかかる半年分の利息（年利率２%）を当座により支払った。

③ 借入金（元本均等返済）の今月返済分の元本200,000円と利息（各自計算）が普通預金口座から引き落とされた。利息の引落額は未返済の元本800,000円に年利率3.65%を適用し、30日分の日割計算（1年を365日とする）した額である。

④ 取引先へ50,000円を現金にて貸し付けた。

⑤ 取引先から貸付金の元本50,000円の返済と貸付期間1年分の利息（年利率1%）を現金にて受け取った。

⑥ 取引先から約束手形80,000円を受け取ったが、これは現金の貸し付けに関して受け取ったものである。

⑦ 取引先から現金30,000円を借り入れ、借用証書の代わりに約束手形を振り出した。

⑧ 商品45,000円を掛けで販売したが、誤って54,000円と記入していたので、正しい金額に修正する。

⑨ 商品77,000円を仕入れ、代金のうち23,000円は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとしたが、本日、注文時に手付金として35,000円を支払っていたことが判明したため、訂正を行う。なお、掛代金についてまだ、決済は行われていない。

⑩ 従業員に対する給料90,000円から、従業員に対する貸付金9,000円およびその利息500円を差し引き、手取額を現金で支給した。

⑪ 期末において、未使用の収入印紙が7,000円あった。

その他の取引②　答案用紙

問題1

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				
⑪				

その他の取引② 解答解説

問題1　解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	当座預金	100,000	借入金	100,000
②	支払利息	1,000	当座預金	1,000
③	借入金 支払利息	200,000 2,400	普通預金	202,400
④	貸付金	50,000	現金	50,000
⑤	現金	50,500	貸付金 受取利息	50,000 500
⑥	手形貸付金	80,000	現金	80,000
⑦	現金	30,000	手形借入金	30,000
⑧	売上	9,000	売掛金	9,000
⑨	買掛金	35,000	前払金	35,000
⑩	給料	90,000	貸付金 受取利息 現金	9,000 500 80,500
⑪	貯蔵品	7,000	租税公課	7,000

問題1　**解説**

①　銀行からお金を借り入れた場合、「借入金」勘定（負債）で処理します。

②　利息の支払いは「支払利息」勘定（費用）で処理します。

100,000×２%÷12ヶ月×6ヶ月＝1,000

③　元本の返済は「借入金」勘定（負債）の減少として処理し、利息の支払いは「支払利息」勘定（費用）で処理します。なお、元本均等返済とは、元本を均等額で分割で返済することです。この場合、利息の計算の基礎となる元本額は、今月の返済額でなく、未返済元本となりますので、注意して下さい。

未返済元本800,000×3.65%÷365日×30日＝2,400

④　取引先への貸し付けは、「貸付金」勘定（資産）で処理します。

⑤　貸付金の元本の返済は「貸付金」勘定（資産）の減少として処理します。また、利息の受け取りは「受取利息」勘定（収益）で処理します。

50,000×1%＝500

⑥　手形による貸し付けは、「手形貸付金」勘定（資産）で処理します。

⑦　手形による借入は、「手形借入金」勘定（負債）で処理します。

⑧　実際に行われた仕訳は以下です。

売　掛　金	54,000 /	売　　上	54,000

あるべき仕訳は以下です。

売　掛　金	45,000 /	売　　上	45,000

したがって、訂正仕訳は以下となります。

売　　上	9,000 /	売　掛　金	9,000

⑨　実際に行われた仕訳は以下です。

仕　　入	77,000	当　座　資　産	23,000
		買　掛　金	54,000

あるべき仕訳は以下です。

仕　　入	77,000	当　座　資　産	23,000
		前　払　金	35,000
		買　掛　金	19,000

したがって、訂正仕訳は以下となります。

買　掛　金	35,000 /	前　払　金	35,000

⑩　従業員への貸付金の回収として「貸付金」勘定（資産）の減少として処理します。また、貸付金の利息を受け取ったので、「受取利息」勘定（収益）として処理します。

⑪　収入印紙は期中は「租税公課」勘定（費用）で処理していますが、未使用分があった場合、決算で「貸蔵品」勘定（資産）に振り替えます。

収益・費用の前受・前払と未収・未払

４分類

【重要性：Ｃ】

ＰＯＩＮＴ！

収益・費用の前受・前払と未収・未払の内容を大まかにとらえよう！

当期に受け取った金額や当期に支払った金額を期中に収益や費用として処理している場合に、その中に次期の分が含まれている場合があります。そこで、次期の分を当期の収益・費用から差し引き、次期に繰り延べることを、**収益の前受・費用の前払**といいます。

また、当期の収益・費用であるのに、まだお金を支払っていなかったり、まだお金を受け取っていないことにより、収益・費用として処理が行われていない場合があります。そこで、当期の収益・費用とするために計上することを、**収益の未収・費用の未払**といいます。

収益・費用の前受・前払と未収・未払の処理は、通常、**決算整理**で行われます。

- **・費用の前払 ⟶ 前払費用（資産）**
- **・収益の前受 ⟶ 前受収益（負債）**

- **・費用の未払 ⟶ 未払費用（負債）**
- **・収益の未収 ⟶ 未収収益（資産）**

費用の前払

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　費用の前払の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

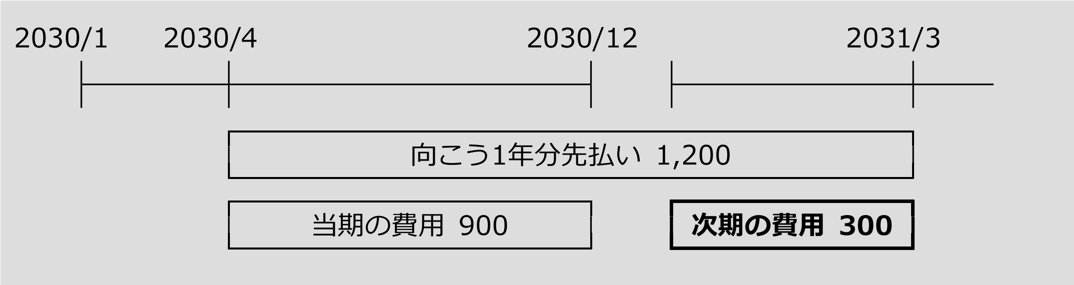
主な勘定科目

「前払費用」勘定（資産）

当期に支払った費用の中に次期以降の費用が含まれている場合、これを当期の費用から差し引いて、次期以降の費用とするために繰り延べます。これを、**費用の前払**といい、費用の前払から生じる勘定を**前払費用**といいます。

前払費用はお金を支払っていますが、まだ、サービスを受けておらず、今後サービスを受ける権利として**資産**です。なお、前払費用は具体的な内容を示すために「前払家賃」勘定、「前払地代」勘定、「前払保険料」勘定、「前払利息」勘定などを用います。

例題　**2030年4月1日に向こう１年分の支払家賃1,200円を現金で支払った。なお、決算日は12月31日である。**



① 家賃支払時（期中取引）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
支　払　家　賃	**1,200**	**現　　　　金**	**1,200**

② 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

支　払　家　賃	1,200	

③ 決算整理（2030年12月31日）

前T/Bにおける支払家賃1,200円のうち、2030年4月から12月の9ヶ月分900円は当期の費用ですが、2031年1月から3月までの３ヶ月分300円は次期の費用とすべきです。そこで、決算にあたり、次期の費用分300円を当期の費用から差し引き、次期の費用とするために「前払家賃」勘定（資産）として繰り延べます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
前　払　家　賃	**300**	**支　払　家　賃**	**300**

④　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

前　払　家　賃	300	
支　払　家　賃	900	

⑤　次期期首の処理（2031年１月１日）

繰り延べた費用は、次期の費用とするために、期首で決算整理仕訳の逆仕訳を行います。これを**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）といいます。これにより、繰り延べた前払費用が次期の費用となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
支　払　家　賃	**300**	**前　払　家　賃**	**300**

収益の前受

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　収益の前受の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「前受収益」勘定（負債）

当期に受け取った収益の中に次期以降の収益が含まれている場合、これを当期の収益から差し引いて、次期以降の収益とするために繰り延べます。これを、**収益の前受**いい、収益の前受から生じる勘定を**前受収益**（まえうけしゅうえき）といいます。

前受収益はお金を受け取っていますが、まだ、サービスを提供しておらず、今後サービスを提供する義務として**負債**です。なお、前受収益は具体的な内容を示すために「前受家賃（まえうけやちん）」勘定、「前受地代（まえうけちだい）」勘定、「前受利息（まえうけりそく）」勘定などを用います。

例題　**2030年4月1日に向こう１年分の受取家賃1,200円を現金で受け取った。なお、決算日は12月31日である。**

①　家賃受取時（期中取引）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**1,200**	**受　取　家　賃**	**1,200**

②　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

	受　取　家　賃	1,200

③　決算整理（2030年12月31日）

前T/Bにおける受取家賃1,200円のうち、2030年4月から12月の9ヶ月分900円は当期の収益ですが、2031年1月から3月までの３ヶ月分300円は次期の収益とすべきです。そこで、決算にあたり、次期の収益分300円を当期の収益から差し引き、次期の収益とするために「前受家賃」勘定（負債）として繰り延べます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
受　取　家　賃	**300**	**前　受　家　賃**	**300**

④　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

		前　受　家　賃	300
		受　取　家　賃	900

⑤　次期期首の処理（2031年１月１日）

繰り延べた前受収益は、次期の収益とするために、期首で**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）を行います。これにより、繰り延べた前受収益が次期の収益となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
前　受　家　賃	**300**	**受　取　家　賃**	**300**

費用の未払

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　費用の未払の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「未払費用」勘定（負債）

当期の費用として発生していますが、支払が次期以降のためにお金を支払っておらず、当期に費用として処理されていない場合があります。この場合、当期の費用として計上する必要があります。これを**費用の未払**といい、費用の未払から生じる勘定を**未払費用**といいます。

未払費用はサービスは受けましたが、まだお金を支払っていないので、今後の支払義務として**負債**です。なお、未払費用は具体的な内容を示すために「未払家賃」勘定、「未払地代」勘定、「未払保険料」勘定、「未払利息」勘定、「未払法定福利費」勘定などを用います。

例題　2030年4月1日に銀行から借入期間２年で借り入れ、利息１年分1,200円を毎年3月31日に現金で後払いする。なお、決算日は12月31日である。

① 借入時（期中取引）

利息を後払いするので、借入時には利息に関する仕訳はありません。

② 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

支　払　利　息	0	

③ 決算整理（2030年12月31日）

2030年4月から12月の9ヶ月分900円は当期の費用ですが、支払日が2031年3月31日であるため、決算整理前には費用に計上されていません。そこで、900円を当期の費用として計上し、未払分を「未払利息」勘定（負債）として計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払利息	**900**	**未払利息**	**900**

④　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

支　　払　　利　　息	900	未　　払　　利　　息	900

⑤　次期期首の処理（2031年１月１日）

期首に**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）を行います。ここで、支払利息という費用が貸方残高となりますが、2031年３月31日に１年分の利息を支払い、その処理を行えば、正しい金額となります。

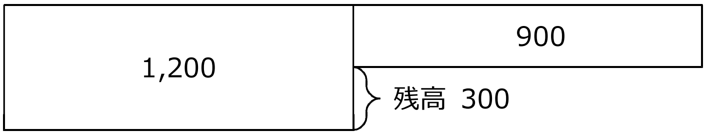
借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
未　払　利　息	**900**	**支　払　利　息**	**900**

⑥　利息支払時（2031年３月31日）

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
支　払　利　息	**1,200**	**現　　　　金**	**1,200**

2031年３月31日に１年分の利息を支払い、「支払利息」勘定に1,200円を計上すると、そのうち前期分900円（2030年4月から12月の9ヶ月分）は期首の再振替仕訳で「支払利息」勘定のマイナスとして処理されているので、次期分の300円が正しく計上されます。

支払利息



収益の未収

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　収益の未収の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「未収収益」勘定（資産）

当期の収益として発生していますが、受取が次期以降のためにお金を受け取っておらず、当期に収益として処理されていない場合があります。この場合、当期の収益として計上する必要があります。これを**収益の未収**といい、収益の未収から生じる勘定を**未収収益**（みしゅうしゅうえき）といいます。

未収収益はサービスは提供しましたが、まだお金を受け取っていないので、今後お金を受け取る権利として**資産**です。なお、未収収益は具体的な内容を示すために「未収家賃（みしゅうやちん）」勘定、「未収地代（みしゅうちだい）」勘定、「未収利息（みしゅうりそく）」勘定などを用います。

例題　**2030年4月1日に貸付期間２年で貸付を行い、利息１年分1,200円を毎年3月31日に現金で後受けする。なお、決算日は12月31日である。**

① 貸付時（期中取引）

利息を後受けするので、貸付時には利息に関する仕訳はありません。

② 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

	受　取　利　息　　0

③ 決算整理（2030年12月31日）

2030年4月から12月の9ヶ月分900円は当期の収益ですが、受取日が2031年3月31日であるため、決算整理前には収益に計上されていません。そこで、900円を当期の収益として計上し、未収分を「未収利息」勘定（資産）として計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未　収　利　息	**900**	**受　取　利　息**	**900**

④　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

未　収　利　息	900	受　取　利　息	900

⑤　次期期首の処理（2031年１月１日）

期首に**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）を行います。ここで、受取利息という収益が借方残高となりますが、2031年３月31日に１年分の利息を受け取り、その処理を行えば、正しい金額となります。

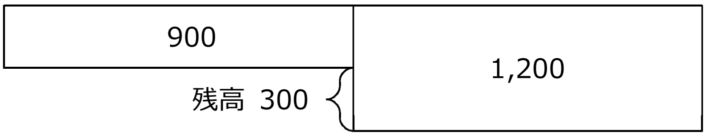
借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
受　取　利　息	**900**	**未　収　利　息**	**900**

⑥　利息受取時（2031年３月31日）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**1,200**	**受　取　利　息**	**1,200**

2031年３月31日に１年分の利息を受け取り、「受取利息」勘定に1,200円を計上すると、そのうち前期分900円（2030年4月から12月の9ヶ月分）は期首の再振替仕訳で「受取利息」勘定のマイナスとして処理されているので、次期分の300円が正しく計上されます。

受取利息



収益・費用の前受・前払と未収・未払　問題

問題1　以下の取引に関して、①から④について必要な決算整理仕訳を、⑤については期首における仕訳を行いなさい。なお、決算日は2030年12月31日である。

①　借入金500,000円は2030年10月1月に年利率2.4%、利息は後払い、期間8ヶ月の条件で借り入れたものである。
②　決算整理前の保険料勘定34,000円は建物に対する火災保険料で毎年、同額を6月1日に1年分を支払っている。
③　受取家賃は毎年同額を7月1日に1年分を受け取っており、本年も同額受け取っている。なお、決算整理前の受取家賃勘定は81,000円であった。
④　当社保有の土地を取引先に貸しているが、契約により毎月の地代は翌月初に受け取ることとなっている、なお、毎月の地代は300,000円である。
⑤　前期に計上した未収利息11,000円を、当期首に再振替仕訳を行った。

収益・費用の前受・前払と未収・未払　答案用紙

問題1

	借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				

収益・費用の前受・前払と未収・未払　解答解説

問題1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	支　払　利　息	3,000	未　払　利　息	3,000
②	前　払　保　険　料	10,000	保　険　料	10,000
③	受　取　家　賃	27,000	前　受　家　賃	27,000
④	未　収　地　代	300,000	受　取　地　代	300,000
⑤	受　取　利　息	11,000	未　収　利　息	11,000

問題1　**解説**

①　費用の未払として、「未払利息」勘定（負債）で処理します。

500,000×2.4%÷12ヶ月×3ヶ月(2030年10月から12月)＝3,000

②　費用の前払として、「前払保険料」勘定（資産）で処理します。決算整理前の「保険料」勘定（費用）の金額は17ヶ月分（2030年1月から2031年5月、期首の再振替仕訳分5ヶ月分＋2030年6月1日支払の１年分）であり、繰り延べるのは5ヶ月分（2031年1月から5月）です。したがって、前払保険料の金額は以下となります。

34,000÷17ヶ月×5ヶ月＝10,000

③　収益の前受として、「前受家賃」勘定（負債）で処理します。決算整理前の「受取家賃」勘定（収益）の金額は18ヶ月分（2030年1月から2031年6月、期首の再振替仕訳分6ヶ月分＋2030年7月1日受取の１年分）です。繰り延べるのは6ヶ月分（2031年1月から6月）です。したがって、前受家賃の金額は以下となります。

81,000÷18ヶ月×6ヶ月＝27,000

④　収益の未収として、「未収地代」勘定（資産）で処理します。

⑤　前期の決算整理で以下の仕訳が行われているので、当期首で逆仕訳である再振替仕訳を行います。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
未　収　利　息	11,000	受　取　利　息	11,000

帳簿の締切

決算振替

【重要性：Ａ】

ＰＯＩＮＴ！

決算振替では何が行われるかを大まかにとらえよう！

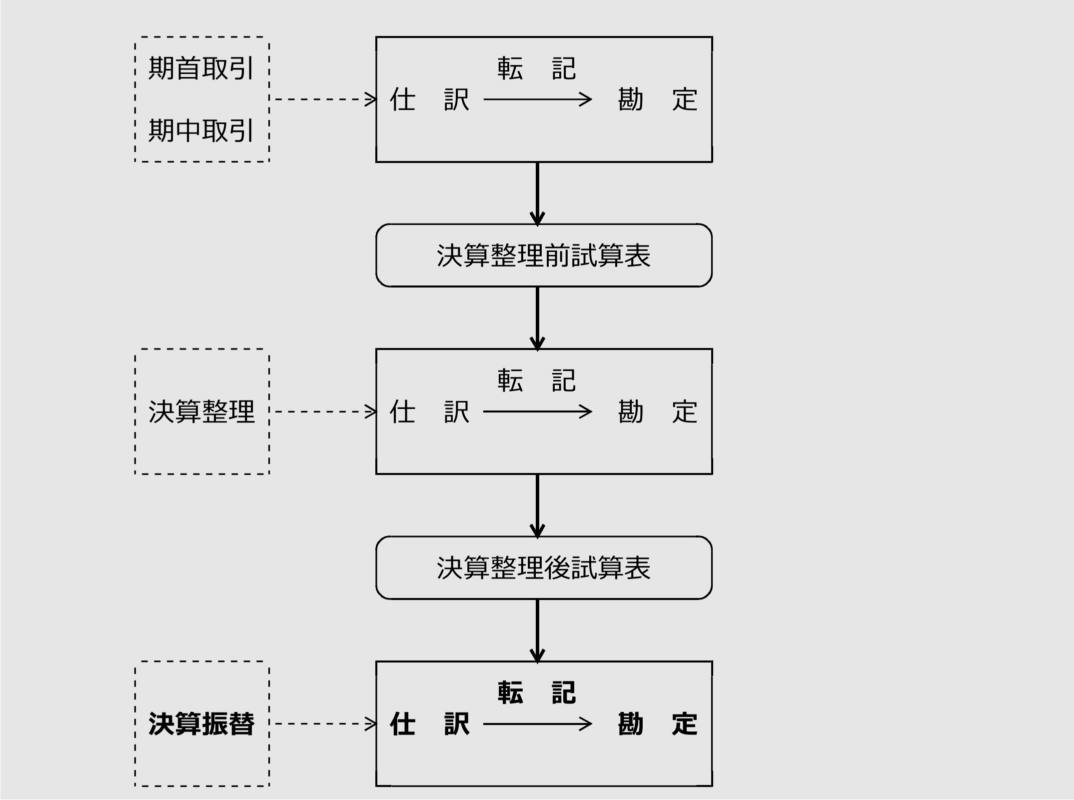
決算整理を行うことによって、当期の経営成績を表す正しい収益と費用に、また、当期の財政状態を表す正しい資産、負債及び純資産になります。そして、損益計算書と貸借対照表を作成します。しかし、損益計算書と貸借対照表は財務諸表であり、帳簿ではありません。帳簿においても当期の勘定記入と次期の勘定記入を区別するため、**帳簿の締切**（しめきり）という手続きを行います。

帳簿の締切の手続きは、次の流れで行います。

① 損益振替（そんえきふりかえ）
② 資本振替（しほんふりかえ）
③ 資産、負債及び純資産の勘定残高の繰越

損益振替と資本振替をあわせて**決算振替**（けつさんふりかえ）といい、決算振替で行う仕訳を**決算振替仕訳**（けつさんふりかえしわけ）といいます。

決算振替が簿記一巡の中でどこに該当するのかを理解していただくために、簿記一巡の図を再度、記載します。



損益振替

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　損益振替の目的を理解しよう！

②　損益振替仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「損益」勘定

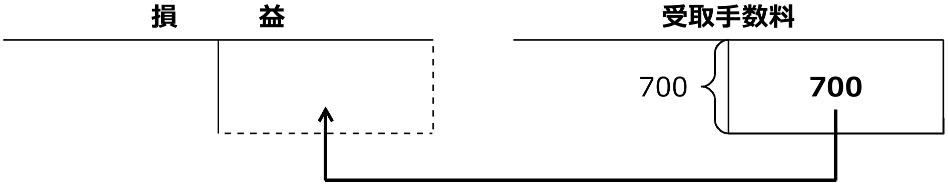
　決算整理で正しい残高となった収益、費用をもとに損益計算書で当期純利益を算定しますが、帳簿においても当期純利益を算定するために、収益と費用の各勘定残高を「**損益**（そんえき）」勘定に振り替えます。これを**損益振替**（そんえきふりかえ）といいます。なお、「損益」勘定は決算振替の際にのみ利用し、期中取引や決算整理においては利用されません。

　損益振替を行うと収益と費用のすべての勘定残高が「損益」勘定に集まり、その差額で当期純利益を算定します。また、損益振替を行うことで収益、費用の各勘定の残高がゼロとなり、収益と費用の勘定は締め切られます。

　実際の勘定記入とは異なりますが、損益振替のイメージは以下のようになります。

・収益勘定の振替

①　損益振替前

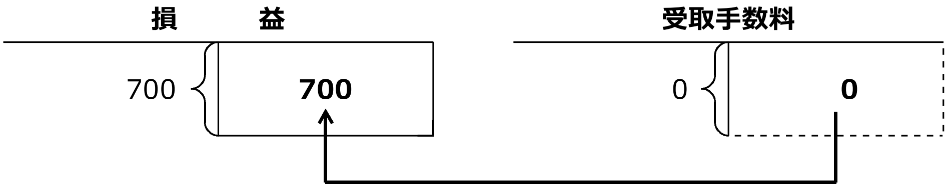


②　損益振替仕訳

　「受取手数料」勘定の貸方残高700を「損益」勘定の貸方に振り替えます。損益振替を行うと、「損益」勘定の貸方に700が記入され、「受取手数料」勘定の残高はゼロとなります（③損益振替後を見て下さい）。そこで、借方に「受取手数料」勘定700、貸方に「損益」勘定700として仕訳を行います。

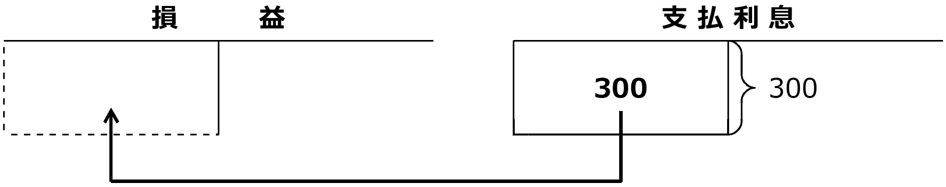
借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手数料	**700**	**損益**	**700**

③　損益振替後



・費用勘定の振替

①　損益振替前

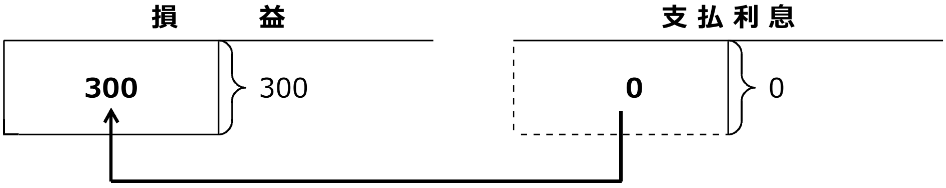


②　損益振替仕訳

「支払利息」勘定の借方残高300を「損益」勘定の借方に振り替えます。損益振替を行うと、「損益」勘定の借方に300が記入され、「支払利息」勘定の残高はゼロとなります（③損益振替後を見て下さい）。そこで、借方に「損益」勘定300、貸方に「支払利息」勘定300として仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
損益	**300**	**支払利息**	**300**

③　損益振替後



実際の勘定の記入は以下となります。「損益」勘定の差額で当期純利益400を算定します。また、損益振替を行うと収益と費用の各勘定は残高がゼロとなり、締め切られます。

受取手数料

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	損益	700	4	4	現金	700

支払利息

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
3	3	現金	300	12	31	損益	300

損益

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	支払利息	300	12	31	受取手数料	700

資本振替

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 資本振替の目的を理解しよう！

② 資本振替仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「損益」勘定

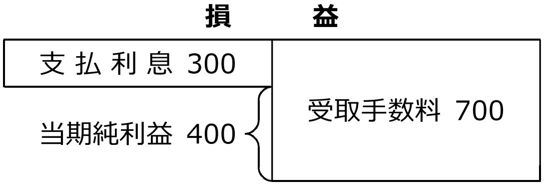
「繰越利益剰余金」勘定（純資産）

損益振替（そんえきふりかえ）によって、収益と費用の各勘定残高が「損益」勘定に振り替えられ、その差額で当期純利益を算定します。当期純利益は元手をもとにして獲得した利益であり、その分だけ純資産が増加します。

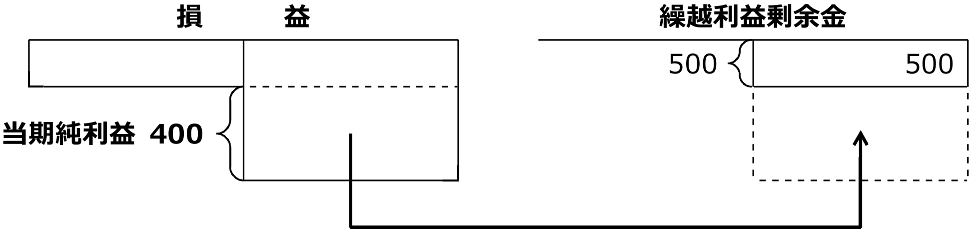
そこで、「損益」勘定で算定した当期純利益を「**繰越利益剰余金**（くりこしりえきじょうよきん）」勘定（**純資産**）に振り替えます。これを**資本振替**（しほんふりかえ）といいます。

実際の勘定記入とは異なりますが、資本振替のイメージは以下のようになります。

・損益振替後の「損益」勘定



①　資本振替前

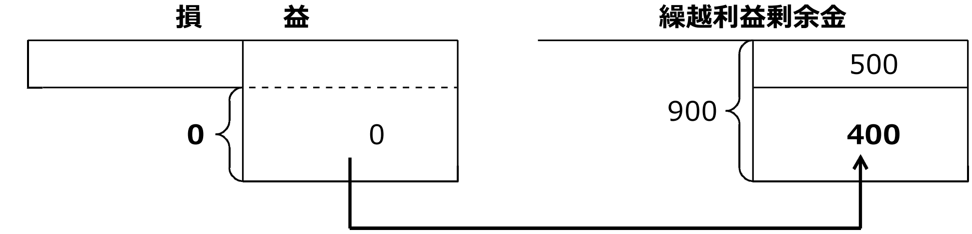


②　資本振替仕訳

「損益」勘定の貸方残高400（当期純利益）を「繰越利益剰余金」勘定の貸方に振り替えます。資本振替を行うと、「繰越利益剰余金」勘定の貸方に400が記入され、「損益」勘定の残高はゼロとなります（③資本振替後を見て下さい）。そこで、借方に「損益」勘定400、貸方に「繰越利益剰余金」勘定400として仕訳を行います。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
損　　益	**400**	**繰 越 利 益 剰 余 金**	**400**

③　資本振替後



実際の勘定の記入は以下となります。

損　　益

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	支　払　利　息	300	12	31	受 取 手 数 料	700
	〃	繰越利益剰余金	400				
			700				700

繰越利益剰余金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	前　期　繰　越	500
				12	31	損　　益	400

なお、収益合計より費用合計が多い場合は、いわゆる赤字で、**当期純損失**（とうきじゅんそんしつ）といいます。その場合、「損益」勘定の借方残高（当期純損失）を「繰越利益剰余金」勘定の借方に振り替えますので、当期純利益の場合の反対仕訳で、以下の仕訳となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
繰越利益剰余金	×××	**損　　益**	×××

資産、負債及び純資産の勘定残高の繰越

【重要性：Ａ】

ＰＯＩＮＴ！

勘定の締切方法をマスターしよう！

資産、負債及び純資産の各勘定は残高がある側とは貸借反対側の摘要欄に「**次期繰越**（じきくりこし）」、金額欄（借方欄または貸方欄）に**残高の金額**を記入して締め切ります（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）。

現　　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	前期繰越	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000	12	31	次期繰越	5,400
4	4	受取手数料	700				
			5,700				5,700

借　入　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	次期繰越	2,000	2	2	現金	2,000

資　本　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	次期繰越	2,500	1	1	前期繰越	2,500

繰越利益剰余金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	次期繰越	900	1	1	前期繰越	500
				12	31	損益	400
			900				900

例題　**次の決算整理後残高試算表に基づいて、①決算振替仕訳を行い、②各勘定の締切を行いなさい。なお、決算日は12月31日である。**

決算整理後残高試算表

借　方	勘定科目	貸　方
5,400	現金	
	借入金	2,000
	資本金	2,500
	繰越利益剰余金	500
	受取手数料	700
300	支払利息	
5,700		5,700

①　決算振替仕訳

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
受取手数料	**700**	**損益**	**700**
損益	**300**	**支払利息**	**300**
損益	**400**	**繰越利益剰余金**	**400**

②　各勘定の締切

受取手数料

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	損益	700	4	4	現金	700

支払利息

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	3	現金	300	12	31	損益	300

損益

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	支払利息	300	12	31	受取手数料	700
	〃	繰越利益剰余金	400				
			700				700

現　　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	前期繰越	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000	12	31	次期繰越	5,400
4	4	受取手数料	700				
			5,700				5,700

借　入　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	次期繰越	2,000	2	2	現金	2,000

資　本　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	次期繰越	2,500	1	1	前期繰越	2,500

繰越利益剰余金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	次期繰越	900	1	1	前期繰越	500
				12	31	損益	400
			900				900

［参考］

本問において、損益計算書と貸借対照表を作成すると、以下のようになります。

損　益　計　算　書

支払利息	300	受取手数料	700
当期純利益	400		
	700		700

貸　借　対　照　表

現　　金	5,400	借入金	2,000
		資本金	2,500
		繰越利益剰余金	900
	5,400		5,400

開始記入

【重要性：Ｂ】

ＰＯＩＮＴ！

開始記入をマスターしよう！

決算が終わり、次期になりました。資産、負債、純資産の各勘定の残高は前期から繰り越されてきます。前期の決算（帳簿の締切）によって残高がゼロとなっていますが、実際にはその残高がなくなるわけではありません。例えば、「現金」勘定（資産）の残高はゼロですが、繰越金額が3,400の場合、実際の現金3,400がゼロになるわけではありません。現金3,400は実際に次期に繰り越されます。

そこで、残高がゼロとなっている資産、負債、純資産の各勘定に、次期繰越金額（当期からみたら前期繰越金額）を戻す必要があります。これを**開始記入**（かいしきにゅう）といいます。前期末に「次期繰越」と記入した貸借反対側の摘要欄に「**前期繰越**（ぜんきくりこし）」、金額欄（借方欄または貸方欄）に**繰越金額**を記入します。

現　　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	前期繰越	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000	12	31	次期繰越	5,400
4	4	受取手数料	700				
			5,700				5,700
1	1	前期繰越	5,400				

借　入　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	次期繰越	2,000	2	2	現金	2,000
				1	1	前期繰越	2,000

資　本　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	次期繰越	2,500	1	1	前期繰越	2,500
				1	1	前期繰越	2,500

繰越利益剰余金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	次期繰越	900	1	1	前期繰越	500
				12	31	損益	400
			900				900
				1	1	前期繰越	900

帳簿の締切 問題

問題1　以下の〔資料〕にもとづいて、答案用紙に示した各勘定について、(　　)内に必要な記入を行いなさい。なお、売上原価は仕入勘定で計算する。また、当期中の仕入、仕入戻し、売上、売上戻りは便宜上、全部一括して記帳している。

〔資料〕

期首商品棚卸高30,000円、仕入戻し高16,000円、売上戻り高10,000円

総仕入高480,000円、総売上高600,000円、期末商品棚卸高36,000円

例題2　以下に関して、必要な仕訳を行いなさい。

①　仕入勘定で算定された売上原価55,000円を損益勘定へ振り替えた。

②　損益勘定から当期の収益合計は69,000円で、費用合計は99,000円であった。この差額を純資産へ振り替える。

帳簿の締切 答案用紙

問題1

仕　　入

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
省略		総仕入高	(　　　)	省略		仕入戻し高	(　　　)
3	31	(　　　)	(　　　)	3	31	(　　　)	(　　　)
					〃	(　　　)	(　　　)
			(　　　)				(　　　)

売　　上

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
省略		売上戻り高	(　　　)	省略		総売上高	(　　　)
3	31	(　　　)	(　　　)				
			(　　　)				(　　　)

繰越商品

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前期繰越	(　　　)	3	31	(　　　)	(　　　)
3	31	(　　　)	(　　　)		〃	(　　　)	(　　　)
			(　　　)				(　　　)

損　　益

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	31	(　　　)	(　　　)	3	31	(　　　)	(　　　)
	〃	(　　　)	(　　　)				
			(　　　)				

問題2

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				

帳簿の締切 解答解説

問題1 **解答**

仕　入

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
省	略	総 仕 入 高	(480,000)	省	略	仕入戻し高	(16,000)
3	31	(繰越商品)	(30,000)	3	31	(繰越商品)	(36,000)
					〃	(損　益)	(458,000)
			(510,000)				(510,000)

売　上

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
省	略	売上戻り高	(10,000)	省	略	総 売 上 高	(600,000)
3	31	(損　益)	(590,000)				
			(600,000)				(600,000)

繰越商品

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
4	1	前期繰越	(30,000)	3	31	(仕　入)	(30,000)
3	31	(仕　入)	(36,000)		〃	(次期繰越)	(36,000)
			(66,000)				(66,000)

損　益

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
3	31	(仕　入)	(458,000)	3	31	(売　上)	(590,000)
	〃	(繰越利益剰余金)	(132,000)				
			(590,000)				(590,000)

問題1　**解説**

・期中仕訳（掛け取引を仮定します）

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	480,000	買掛金	480,000
買掛金	16,000	仕入	16,000
売掛金	600,000	売上	600,000
売上	10,000	売掛金	10,000

・決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	30,000	繰越商品	30,000
繰越商品	36,000	仕入	36,000

・決算振替仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	590,000	損益	590,000
損益	458,000	仕入	458,000
損益	132,000	繰越利益剰余金	132,000

売上：総売上高600,000－売上戻り10,000＝590,000

仕入：総仕入高480,000－仕入戻し16,000

＋期首商品30,000－期末商品36,000＝458,000

繰越利益剰余金：売上590,000－仕入458,000＝132,000

問題2　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	**損　益**	**55,000**	**仕　入**	**55,000**
②	**繰越利益剰余金**	**30,000**	**損　益**	**30,000**

問題2　**解説**

①　売上原価の金額を「仕入」勘定（費用）から「損益」勘定へ振り替えます。

②　収益69,000－費用99,000＝当期純損失30,000

当期純損失を、「損益」勘定から「繰越利益剰余金」勘定（純資産）へ振り替えます。

なお、当期純利益を振り替える場合と借方と貸方の勘定科目が反対になりますので、注意して下さい。

損　益

日	付	摘要	借方	日	付	摘要	貸方
3	31	仕　入	55,000	3	31	諸収益	69,000
	〃	諸費用	44,000		〃	繰越利益剰余金	30,000
			99,000				99,000

純資産

株式の発行

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 株式の発行の内容を理解しよう！

② 株式の発行の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「資本金」勘定（純資産）

（１）純資産とは？

貸借対照表は、資産の部、負債の部、純資産の部の３つに区分します。純資産は、資産から負債を差し引いた差額です。

（２）株主資本

純資産は「株主資本（かぶぬししほん）」と「その他」に区分しますが、日商簿記3級では「**株主資本**」について学習します。また、株主資本は様々な科目がありますが、日商簿記3級では、**資本金**と**利益剰余金**（りえきじょうよきん）のうち、**利益準備金**（りえきじゅんびきん）と**繰越利益剰余金**（くりこしりえきじょうよきん）について学習します。

資本金は「元手」であり、利益剰余金は「もうけ」を意味します。

貸　借　対　照　表

<table>
<tr><td rowspan="4">資　　産</td><td colspan="3">負　　債</td></tr>
<tr><td rowspan="3">株主資本</td><td colspan="2">資本金</td></tr>
<tr><td rowspan="2">利益剰余金</td><td>利益準備金</td></tr>
<tr><td>繰越利益剰余金</td></tr>
</table>

（３）株式の発行

会社の設立時とその後の新株発行時に株式を発行します。なお、新株発行は資本金が増加するため、**増資**（ぞうし）といわれます。

株式を発行した場合、原則として払込金額の全額を「**資本金**」勘定（**純資産**）で処理します。

例題　**A会社の設立にあたり、株式100株を１株あたり8,000円で発行し、払込金額は当座預金とした。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**800,000**	**資本金**	**800,000**

資本金：8,000円×100株＝800,000

例題　**A会社は増資を行うこととなり、株式10株を１株あたり10,000円で発行し、払込金額は当座預金とした。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**100,000**	**資本金**	**100,000**

資本金：10,000円×10株＝100,000

剰余金の配当

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　配当の内容を理解しよう！

②　配当の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「繰越利益剰余金」勘定（純資産）

「未払配当金」勘定（負債）

（１）剰余金の配当とは？

会社は株主から出資してもらった元手をもとに活動します。そして、利益を獲得した場合、株主に還元します。これを、**配当**（はいとう）といいます。

株式会社では、獲得した利益をいくら配当したり、どのように処分するかということを通常、決算日３ヶ月以内に開催される株主総会（かぶぬしそうかい）で決定します。

（２）会計処理

株主総会では配当を決定しますが、配当の支払は後日行われますので、株主総会決議時には配当金額を「繰越利益剰余金」勘定（純資産）から「**未払配当金**」勘定（**負債**）に振り替えます。

また、実際に配当金を支払った時は、「未払配当金」勘定（負債）を減少させます。

例題　**株主総会において利益剰余金による配当2,000円が決議された。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越利益剰余金	**2,000**	**未払配当金**	**2,000**

例題　**株主総会において決議された配当2,000円を当座預金から支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
未払配当金	**2,000**	**当座預金**	**2,000**

利益準備金の積立

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　利益準備金の積立の内容を理解しよう！

②　利益準備金の積立の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「繰越利益剰余金」勘定（純資産）

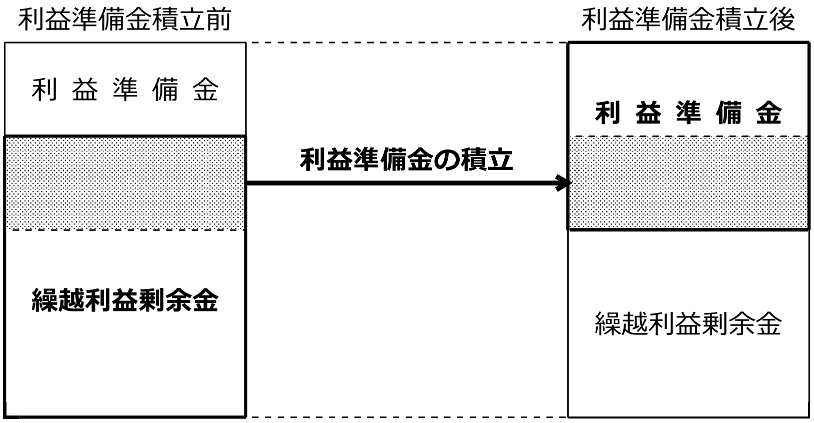
「利益準備金」勘定（純資産）

「未払配当金」勘定（負債）

利益準備金（りえきじゅんびきん）とは、会社法の規定により積み立てが強制されている利益剰余金です。

会社法では、利益剰余金（繰越利益剰余金）による配当金のたびに一定金額を利益準備金として積み立てることを規定しています。株主総会での剰余金の配当決議時に「繰越利益剰余金」勘定（純資産）から「**利益準備金**」勘定（**純資産**）に振り替えます。なお、日商簿記3級では利益準備金の積立額は問題文に与えられますので、問題文の指示に従って下さい。

なお、利益準備金を積み立てるということは、「繰越利益剰余金」勘定（純資産）から「利益準備金」勘定（純資産）に振り替えることを意味します。



例題 **株主総会において利益剰余金による利益準備金の積立4,000円が決議された。**

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
繰 越 利 益 剰 余 金	**4,000**	**利　益　準　備　金**	**4,000**

例題 **株主総会において利益剰余金による配当40,000円、利益準備金の積立4,000円が決議された。**

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
繰 越 利 益 剰 余 金	**44,000**	**未　払　配　当　金**	**40,000**
		利　益　準　備　金	**4,000**

純資産 問題

問題1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　当社は取締役会の決議により、株式100株を1株の払込金額900円で発行し、全株式について払い込みを受け、払込金額を当座預金に預け入れた。

②　定時株主総会において利益剰余金による次の配当等が決議された。

利益準備金の積立：60,000円　　株主配当金：600,000円

純資産　答案用紙

問題1

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				

純資産　解答解説

問題1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	**当　座　預　金**	**90,000**	**資　本　金**	**90,000**
②	**繰越利益剰余金**	**660,000**	**未払配当金**	**600,000**
			利益準備金	**60,000**

問題1　**解説**

①　株主からの払込金額は、原則として「資本金」勘定（純資産）で処理します。

資本金：@900×100株＝90,000

②　株主総会決議には配当金額を「未払配当金」勘定（負債）で処理します。また、利益準備金の積立は「利益準備金」勘定（純資産）で処理します。

帳簿組織①

仕訳帳と総勘定元帳の記入

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　仕訳帳の記入のルールを覚えよう！

②　総勘定元帳の記入のルールを覚えよう！

③　仕訳帳から総勘定元帳への転記のルールを覚えよう！

（1）仕訳帳の記入

仕訳帳（しわけちょう）は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄（てきようらん）には、勘定科目を記入します。真ん中より左側に借方科目、右側に貸方科目を記入します。勘定科目が複数の場合には複数側の上に「諸口（しょくち）」と書きます。なお、諸口とは複数という意味です。また、勘定科目の下に取引の概要（がいよう）を記載します（試験では省略されることが多いです）。

③ 元丁（もとちょう）欄には、転記先の総勘定元帳の番号（ページ数）を記入し、総勘定元帳のその番号（ページ数）へ転記が済んだことを示します。

④ 借方欄と貸方欄には金額を記入します。

仕　訳　帳

4

日付		摘　　要	元丁	借　方	貸　方
1	1	(現　　　　金)	1	10,000	
		(資　本　金)	7		10,000
		株式会社Aを設立した			
3	3	(仕　　　　入) 諸　　　口	21	2,000	
		(現　　　　金)	1		600
		(買　掛　金)	4		1,400
		X社より仕入れ			

（2）総勘定元帳の記入

総勘定元帳（そうかんじょうもとちょう）は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、転記された日（取引が行われた日）を記入します。

② 摘要欄には、仕訳における相手勘定科目を記入します。仕訳の相手勘定科目が複数の場合には「諸口（しょくち）」と書きます。

③ 仕丁（しちょう）欄には、転記元の仕訳帳の番号（ページ数）を記入し、仕訳帳のその番号（ページ数）から転記されたことを示します。

④ 借方欄または貸方欄には金額を記入します。

総勘定元帳

現　　金　　1

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
1	1	資　本　金	4	10,000	3	3	仕　入	4	600

買 掛 金　　4

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
					3	3	仕　入	4	1,400

資 本 金　　7

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
					1	1	現　金	4	10,000

仕　　入　　21

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
3	3	諸　口	4	2,000					

補助簿

【重要性：Ｃ】

ＰＯＩＮＴ！

どのような補助簿があるか確認しよう！

必要に応じて主要簿である仕訳帳と総勘定元帳以外に、特定の取引や特定の勘定について、より詳細に管理・把握したいときに主要簿を補助する**補助簿**を使用します。

補助簿は特定の取引の明細を記録する**補助記入帳**と特定の勘定について会社別、種類別の明細を記録する**補助元帳**に分けられます。例えば、以下のものがあります（前に記載したものと同じです）。

- **主要簿**　仕訳帳、総勘定元帳
- **補助簿**
  - **補助記入帳** … 現金出納帳（げんきんすいとうちょう）、小口現金出納帳（こぐちげんきんすいとうちょう）、当座預金出納帳（とうざよきんすいとうちょう）、売上帳（うりあげちょう）、仕入帳（しいれちょう）、受取手形記入帳（うけとりてがたきにゅうちょう）、支払手形記入帳（しはらいてがたきにゅうちょう）
  - **補助元帳** … 売掛金元帳（うりかけきんもとちょう）、買掛金元帳（かいかけきんもとちょう）、商品有高帳（しょうひんありだかちょう）、固定資産台帳（こていしさんだいちょう）

現金出納帳

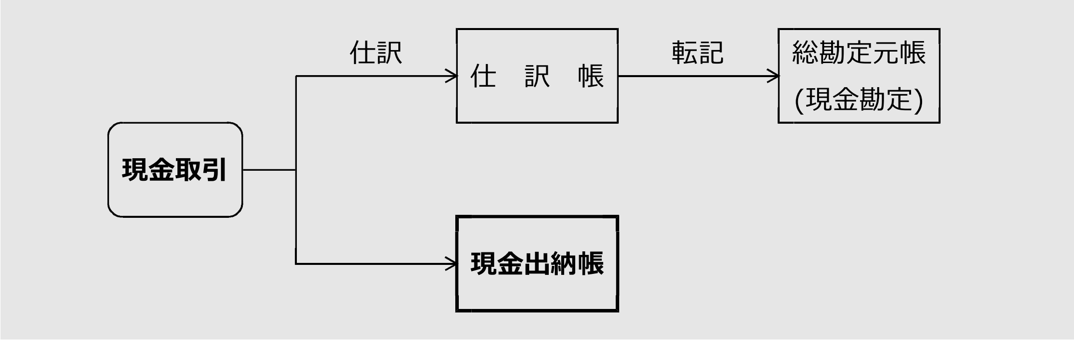
【重要性：Ｂ】

ＰＯＩＮＴ！

①　現金出納帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「現金」勘定）との関係に注意しよう！

現金の入金（収入）と出金（支出）の明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**現金出納帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、現金に関する取引が現金出納帳に記帳されます。



現金出納帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 収入欄には、現金の増加取引を記入します。また、支出欄には現金の減少取引を記入します。残高欄には、取引後の残高を記入します。

④ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を収入欄と残高欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を支出欄に記入します（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）。

⑤ 収入欄と支出欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

現　金　出　納　帳

日	付	摘　　要	収　　入	支　　出	残　　高
3	1	前月繰越	50,000		50,000
	5	A社より仕入		15,000	35,000
	17	B社へ売上	24,000		59,000
	25	通信費の支払		2,000	57,000
	31	次月繰越		57,000	
			74,000	74,000	
4	1	前月繰越	57,000		57,000

この現金出納帳から読み取れる3月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3／5	仕入	15,000	現金	15,000
17	現金	24,000	売上	24,000
25	通信費	2,000	現金	2,000

また、この現金出納帳から読み取れる3月の取引に関する「現金」勘定の記入は以下のとおりです。

現　　金

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
3	17	売上	省	24,000	3	5	仕入	省	15,000
			略			25	通信費	略	2,000

当座預金出納帳

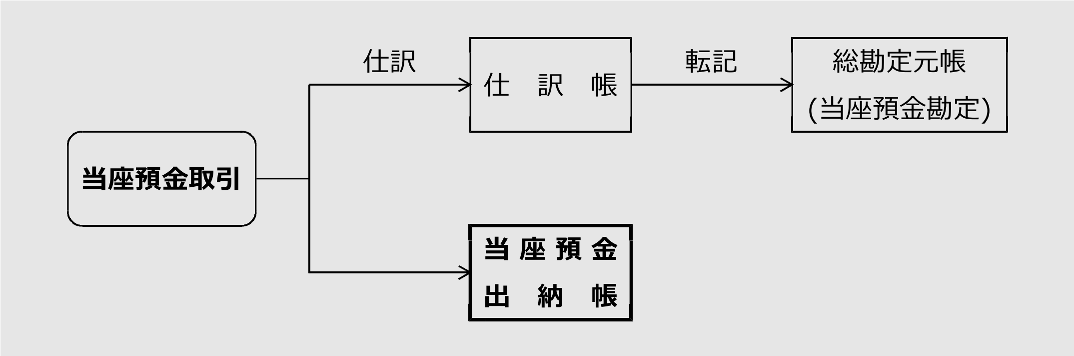
【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座預金出納帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「当座預金」勘定）との関係に注意しよう！

当座預金の預入（増加）と引出（減少）の明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**当座預金出納帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、当座預金に関する取引が当座預金出納帳に記帳されます。



当座預金出納帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 預入欄には、当座預金の増加取引を記入します。また、引出欄には当座預金の減少取引を記入します。残高欄には、取引後の残高を記入します。また、「借または貸」欄には残高が借方残高の場合（資産としての当座預金）には「借」を、残高が貸方残高の場合（負債としての当座借越）には「貸」と記入します。

④ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を預入欄と残高欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を引出欄に記入します（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）。

⑤ 預入欄と引出欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

当　座　預　金　出　納　帳

日付		摘　　要	預　入	引　出	借または貸	残　高
4	1	前月繰越	70,000		借	70,000
	5	A社に買掛金の支払		34,000	〃	36,000
	11	B社の売掛金の回収	45,000		〃	81,000
	20	備品の購入		50,000	〃	31,000
	30	次月繰越		31,000		
			115,000	115,000		
5	1	前月繰越	31,000		〃	31,000

この当座預金出納帳から読み取れる4月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／5	買掛金	34,000	当座預金	34,000
11	当座預金	45,000	売掛金	45,000
20	備品	50,000	当座預金	50,000

また、この当座預金出納帳から読み取れる4月の取引に関する「当座預金」勘定の記入は以下のとおりです。

当座預金

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
4	11	売掛金	省	45,000	4	5	買掛金	省	34,000
			略			20	備品	略	50,000

小口現金出納帳

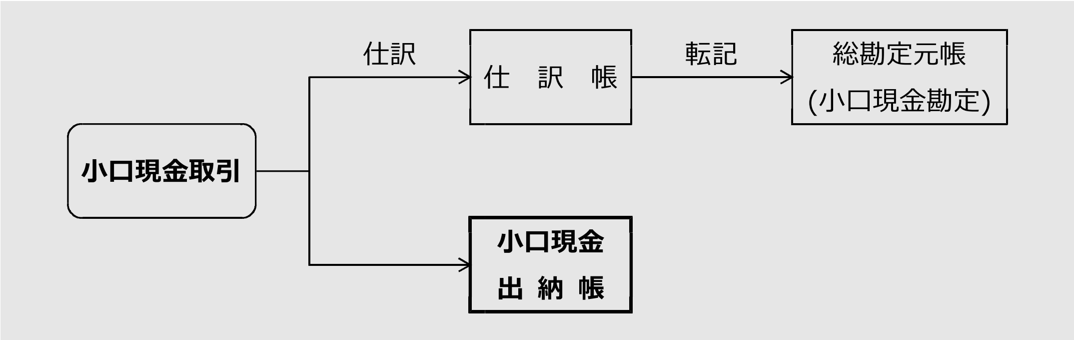
【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　小口現金出納帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「小口現金」勘定）との関係に注意しよう！

前に学習した小口現金出納帳の記入の仕方を説明します。



① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 受入欄には小口現金として受け入れた金額を記入します。また、支払欄には支払金額を記入します。

④ 内訳欄には、支払金額を勘定科目ごとにそれぞれの欄に記入します。

⑤ 月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を支払欄に記入します（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）。

⑥ 受入欄と支払欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

⑦ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を受入欄に記入します。

小 口 現 金 出 納 帳

受　入	日　付		摘　　要	支　払	内　訳		
					旅費交通費	通信費	雑　費
2,000	1	1	小口現金受け入れ				
		9	電車代	300	300		
		15	切手代	150		150	
		21	お茶菓子代	100			100
		25	切手代	50		50	
			合　計	600	300	200	100
600		31	小口現金受け入れ				
		〃	次月繰越	2,000			
2,600				2,600			
2,000	2	1	前月繰越				

この小口現金出納帳から読み取れる1月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。なお、小口現金の補給は小切手により行っており、毎月末に小口現金係から経理に1ヶ月の支払報告を受けていると仮定します。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
1／1	小口現金	2,000	当座預金	2,000
31	旅費交通費	300	小口現金	600
	通信費	200		
	雑費	100		
〃	小口現金	600	当座預金	600

また、この小口現金出納帳から読み取れる1月の取引に関する「小口現金」勘定の記入は以下のとおりです。なお、1/31 の１つ目の仕訳において「小口現金」勘定の相手勘定科目が複数であるので、摘要欄には「諸口（しょくち）」と記入されます。

小口現金

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
1	1	当座預金	省	2,000	1	31	諸口	省	600
	31	当座預金	略	600				略	

帳簿組織① 問題

問題1　**以下の現金出納帳および当座預金出納帳から読み取れる仕訳を行いなさい。**

現　金　出　納　帳

日	付	摘　　要	収　　入	支　　出	残　　高
4	1	前月繰越	60,000		60,000
	7	買掛金の支払い		33,000	27,000
	19	売掛金の回収	34,000		61,000
	21	当座預金へ預入		10,000	51,000
	27	旅費の支払い		9,000	42,000
	30	次月繰越		42,000	
			94,000	94,000	
5	1	前月繰越	42,000		42,000

当 座 預 金 出 納 帳

日	付	摘　　要	預　入	引　出	借または貸	残　高
4	1	前月繰越	120,000		借	120,000
	3	A社より仕入		70,000	〃	50,000
	11	B社へ売上	65,000		〃	115,000
	21	現金の預入	10,000		〃	125,000
	28	買掛金の支払い		50,000	〃	75,000
	30	次月繰越		75,000		
			195,000	195,000		
5	1	前月繰越	75,000		〃	75,000

問題2　以下の小口現金出納帳から読み取れる仕訳を行いなさい。なお、当社は小口現金の管理方法として定額資金前渡制度を採用しており、１ヶ月の終わりに用度係は会計係に支払明細の報告を行うことにしている。

小口現金出納帳

受　入	日　付		摘　　要	支　払	内訳 旅費交通費	内訳 通信費	内訳 雑　費
3,000	6	1	小切手				
		3	はがき	400			
		5	電車代	200			
		7	バス代	300			
		9	電話料金	100			
		11	お茶代	500			
		15	切手代	700			
		24	お菓子代	600			
			合　計	?			
		30	次月繰越	?			
?				?			
?	7	1	前月繰越				
?		〃	小切手				

帳簿組織① 答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
4/3				
7				
11				
19				
21				
27				
28				

問題2

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
6/1				
30				
7/1				

帳簿組織① 解答解説

問題1　解答

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4/3	仕入	70,000	当座預金	70,000
7	買掛金	33,000	現金	33,000
11	当座預金	65,000	売上	65,000
19	現金	34,000	売掛金	34,000
21	当座預金	10,000	現金	10,000
27	旅費交通費	9,000	現金	9,000
28	買掛金	50,000	当座預金	50,000

問題1　解説

現金出納帳における4/21「当座預金へ預入」と当座預金出納帳における4/21「現金の預入」は同じ取引なので、２重に仕訳を行わないように注意して下さい。

問題2　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
6/1	小口現金	3,000	当座預金	3,000
30	旅費交通費 通信費 雑費	500 1,200 1,100	小口現金	2,800
7/1	小口現金	2,800	当座預金	2,800

問題2　**解説**

　問題文の小口現金出納帳の空欄を埋めると以下となります。電車代・バス代は旅費交通費、はがき・電話料金・切手代は通信費、お茶代・お菓子代は雑費となります。また、仕訳を行うのは会計係であり、小口現金の支払明細の報告を受けた6/30に仕訳を行うことに注意して下さい。

小口現金出納帳

受入	日付		摘要	支払	内訳		
					旅費交通費	通信費	雑費
3,000	6	1	小切手				
		3	はがき	400		400	
		5	電車代	200	200		
		7	バス代	300	300		
		9	電話料金	100		100	
		11	お茶代	500			500
		15	切手代	700		700	
		24	お菓子代	600			600
			合計	2,800	500	1,200	1,100
		30	次月繰越	200			
3,000				3,000			
200	7	1	前月繰越				
2,800		〃	小切手				

帳簿組織②

仕入帳

【重要性：A】

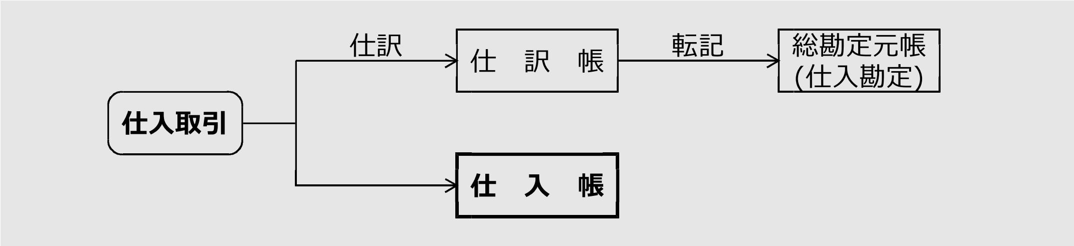
ＰＯＩＮＴ！

①　仕入帳の記入のルールを覚えよう！

②　仕入帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③　総勘定元帳（「仕入」勘定）との関係に注意しよう！

商品の仕入に関する明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**仕入帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、仕入に関する取引が仕入帳に記帳されます。



仕入帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容（仕入先、商品名、数量、単価、支払条件など）を簡潔に記入します。

③ 複数の商品を仕入れた場合には、商品ごとに内訳欄に金額を記入し、合計金額を金額欄に記入します。

④ 仕入戻しは赤字で記入します。ただし、試験では黒で記入します。

⑤ 月末に総仕入高（仕入戻し控除前の仕入高）、仕入戻し高（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）、純仕入高（総仕入高から仕入戻し高を控除した純額）を記入します。

仕　　入　　帳

日付		摘要	内訳	金額
5	7	A社　当座預金		
		商品甲　100個　@50		5,000
	17	C社　掛け		
		商品乙　10個　@100	1,000	
		商品丙　30個　@200	6,000	7,000
	20	C社　掛け戻し		
		商品丙　4個　@200		800
	31	総仕入高		12,000
	〃	仕入戻し高		800
		純仕入高		11,200

この仕入帳から読み取れる5月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
5／7	仕　　入	5,000	当座預金	5,000
17	仕　　入	7,000	買掛金	7,000
20	買掛金	800	仕　　入	800

また、この仕入帳から読み取れる5月の取引に関する「仕入」勘定の記入は以下のとおりです。

仕　　入

日	付	摘　要	仕丁	借　方	日	付	摘　要	仕丁	貸　方
5	7	当座預金	省	5,000	5	20	買掛金	省	800
	17	買掛金	略	7,000				略	

売上帳

【重要性：A】

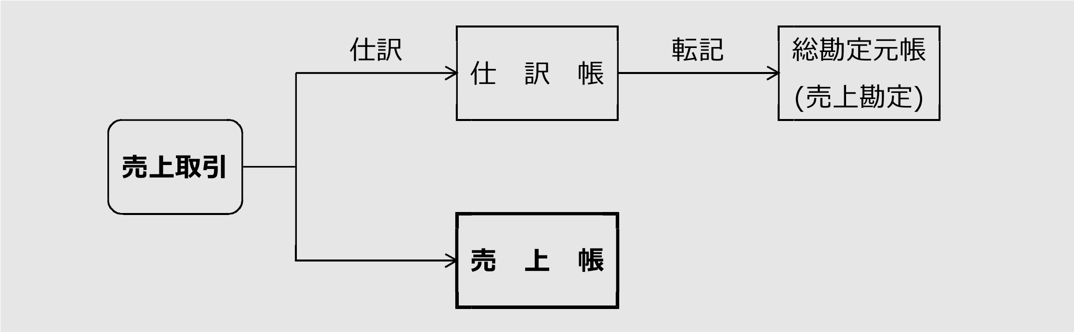
ＰＯＩＮＴ！

①　売上帳の記入のルールを覚えよう！

②　売上帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③　総勘定元帳（「売上」勘定）との関係に注意しよう！

商品の売上に関する明細を記録するための補助簿（ほじょぼ）（補助記入帳（ほじょきにゅうちょう））を、**売上帳**（うりあげちょう）といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、売上に関する取引が売上帳に記帳されます。



売上帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄（てきようらん）には、取引の内容（得意先（とくいさき）、商品名、数量、単価、支払条件など）を簡潔に記入します。

③ 複数の商品を売り上げた場合には、商品ごとに内訳欄に金額を記入し、合計金額を金額欄に記入します。

④ 売上戻りは赤字で記入します。ただし、試験では黒で記入します。

⑤ 月末に総売上高（売上戻り控除前の売上高）、売上戻り高（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）、純売上高（総売上高から売上戻り高を控除した純額）を記入します。

売　上　帳

日付		摘要	内訳	金額
6	7	B社　当座預金		
		商品甲　200個　@80		16,000
	17	D社　掛け		
		商品乙　20個　@120	2,400	
		商品丙　40個　@250	10,000	12,400
	20	D社　掛け戻り		
		商品丙　4個　@250		1,000
	30	総売上高		28,400
	〃	売上戻り高		1,000
		純売上高		27,400

この売上帳から読み取れる6月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
6／7	当座預金	16,000	売上	16,000
17	売掛金	12,400	売上	12,400
20	売上	1,000	売掛金	1,000

また、この売上帳から読み取れる6月の取引に関する「売上」勘定の記入は以下のとおりです。

売　　上

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
6	20	売掛金	省	1,000	6	7	当座預金	省	16,000
			略			17	売掛金	略	12,400

売掛金元帳

【重要性：A】

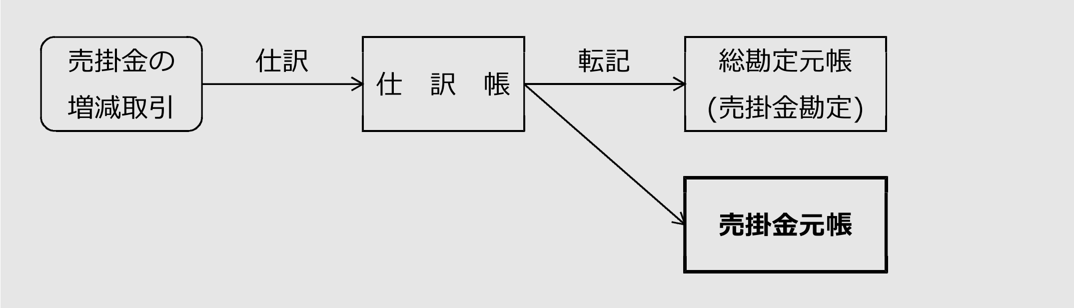
ＰＯＩＮＴ！

①　売掛金元帳の記入のルールを覚え、記入できるようにしよう！

②　売掛金元帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③　総勘定元帳（「売掛金」勘定）との関係に注意しよう！

得意先ごとの売掛金の明細を記録するための補助簿（補助元帳）を、**売掛金元帳**（**得意先元帳**ともいう場合があります）といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、得意先別の売掛金に関する取引が得意先別の売掛金元帳に記帳されます。この際、取引先の商店名や会社名をつけた勘定を設定しますので、これを**人名勘定**といいます。



売掛金元帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 借方欄には、売掛金の増加取引を記入します。また、貸方欄には売掛金の減少取引を記入します。残高欄には、取引後の残高を記入します。また、「借または貸」欄には残高が借方残高の場合には「借」を、残高が貸方残高の場合には「貸」と記入します。

④ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を借方欄と残高欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を貸方欄に記入します（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）。

⑤ 借方欄と貸方欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

売　掛　金　元　帳

B　商　店

日	付	摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
7	1	前月繰越	40,000		借	40,000
	5	掛け売上	24,000		〃	64,000
	11	掛け戻り		3,000	〃	61,000
	31	次月繰越		61,000		
			64,000	64,000		
8	1	前月繰越	61,000		〃	61,000

このＢ商店売掛金元帳から読み取れる7月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
7／5	売掛金	24,000	売上	24,000
11	売上	3,000	売掛金	3,000

また、このＢ商店売掛金元帳から読み取れる7月の取引に関する「売掛金」勘定の記入は以下のとおりです。

売　掛　金

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
7	5	売上	省略	24,000	7	11	売上	省略	3,000

買掛金元帳

【重要性：A】

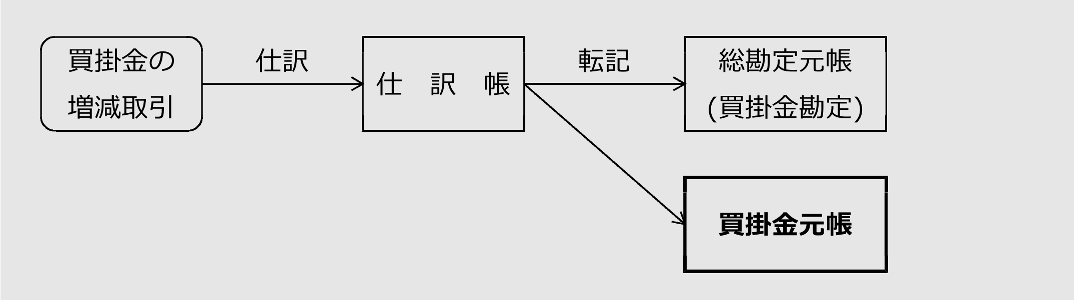
ＰＯＩＮＴ！

①　買掛金元帳の記入のルールを覚え、記入できるようにしよう！

②　買掛金元帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③　総勘定元帳（「買掛金」勘定）との関係に注意しよう！

仕入先ごとの買掛金の明細を記録するための補助簿（ほじょぼ）（補助元帳（ほじょもとちょう））を、**買掛金元帳（かいかけきんもとちょう）**（**仕入先元帳**ともいう場合があります）といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、仕入先別の買掛金に関する取引が仕入先別の買掛金元帳に記帳されます。この際、取引先の商店名や会社名をつけた勘定を設定しますので、これを**人名勘定（じんめいかんじょう）**といいます。



買掛金元帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄（てきようらん）には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 貸方欄には、買掛金の増加取引を記入します。また、借方欄には買掛金の減少取引を記入します。残高欄（ざんだからん）には、取引後の残高を記入します。また、「借または貸」欄には残高が貸方残高の場合には「貸」を、残高が借方残高の場合には「借」と記入します。

④ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を貸方欄と残高欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を借方欄に記入します（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）。

⑤ 借方欄と貸方欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

買　掛　金　元　帳

A　商　店

日付		摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
7	1	前月繰越		40,000	貸	40,000
	5	掛け仕入		24,000	〃	64,000
	11	掛け戻し	3,000		〃	61,000
	31	次月繰越	61,000			
			64,000	64,000		
8	1	前月繰越		61,000	〃	61,000

このA商店買掛金元帳から読み取れる7月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
7／5	仕入	24,000	買掛金	24,000
11	買掛金	3,000	仕入	3,000

また、このA商店買掛金元帳から読み取れる7月の取引に関する「買掛金」勘定の記入は以下のとおりです。

買 掛 金

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
7	11	仕入	省略	3,000	7	5	仕入	省略	24,000

帳簿組織② 問題

問題1 **以下の取引と仕入帳にもとづき、買掛金元帳（B社）の記入を行いなさい。なお、当社では月末に補助簿の締切を行っている。**

5月2日　B社に対する買掛金8,000円について小切手を振り出して支払った。
　7日　A社に対する買掛金5,000円を現金にて支払った。
　11日 A社に対する買掛金1,800円について小切手を振り出して支払った。
　12日 B社に対する買掛金12,000円を支払うために、約束手形を振り出した。
　17日 B社に対する買掛金17,000円を支払うために、約束手形を振り出した。

仕　入　帳

日付		摘要	内訳	金額
5	3	A社　掛け		
		商品甲　150個　@50		7,500
	5	B社　掛け		
		商品乙　20個　@100		2,000
	11	A社　掛け		
		商品甲　100個　@50		5,000
	18	B社　掛け		
		商品乙　30個　@100	3,000	
		商品丙　30個　@120	3,600	6,600
	20	B社　掛け戻し		
		商品丙　5個　@120		600
	31	総仕入高		21,100
	〃	仕入戻し高		600
	〃	純仕入高		20,500

問題2　**以下の取引と売上帳にもとづき、売掛金元帳（A社）の記入を行いなさい。なお、当社では月末に補助簿の締切を行っている。**

7月2日　B社に対する売掛金10,000円を現金で回収した。
　6日　A社に対する売掛金15,000円を他社振出小切手で回収した。
　11日　A社に対する売掛金の決済として、A社振出約束手形21,000円を受け取った。
　17日　B社に対する売掛金12,000円の回収として当座預金に振り込まれた。
　23日　A社に対する売掛金17,000円を現金で回収した。

売　上　帳

日付		摘要	内訳	金額
7	7	A社　掛け		
		商品甲　300個　@80		24,000
	9	B社　掛け		
		商品乙　100個　@120		12,000
	18	A社　掛け		
		商品甲　400個　@80		32,000
	19	B社　掛け		
		商品乙　30個　@120	3,600	
		商品丙　60個　@250	15,000	18,600
	20	A社　掛け戻し		
		商品甲　5個　@80		400
	31	総売上高		86,600
	〃	売上戻り高		400
	〃	純売上高		86,200

帳簿組織② 答案用紙

問題1

買 掛 金 元 帳

B 社

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
5	1	前月繰越		80,000	貸	80,000
	31	次月繰越				
6	1	前月繰越			貸	

問題2

売 掛 金 元 帳

A 社

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
7	1	前月繰越	40,000		借	40,000
8	1	前月繰越			借	

帳簿組織② 解答解説

問題1　**解答**

買　掛　金　元　帳

B　社

日	付	摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
5	1	前月繰越		80,000	貸	80,000
	2	小切手振り出し	8,000		〃	72,000
	5	掛け仕入		2,000	〃	74,000
	12	約束手形振り出し	12,000		〃	62,000
	17	約束手形振り出し	17,000		〃	45,000
	18	掛け仕入		6,600	〃	51,600
	20	掛け戻し	600		〃	51,000
	31	次月繰越	51,000			
			88,600	88,600		
6	1	前月繰越		51,000	貸	

問題1　**解説**

買掛金元帳（B社）の記入が求められているので、5月の取引および仕入帳で関連する仕訳は以下のとおりです。これをもとに買掛金元帳（B社）の記入を行って下さい。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
5/2	買掛金（B社）	8,000	当座預金	8,000
5	仕入	2,000	買掛金（B社）	2,000
12	買掛金（B社）	12,000	支払手形	12,000
17	買掛金（B社）	17,000	支払手形	17,000
18	仕入	6,600	買掛金（B社）	6,600
20	買掛金（B社）	600	仕入	600

問題2　**解答**

売　掛　金　元　帳

A　社

日付		摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
7	1	前月繰越	40,000		借	40,000
	6	小切手による回収		15,000	〃	25,000
	7	掛け売上	24,000		〃	49,000
	11	約束手形による回収		21,000	〃	28,000
	18	掛け売上	32,000		〃	60,000
	20	掛け戻り		400	〃	59,600
	23	現金による回収		17,000	〃	42,600
	31	次月繰越		42,600		
			96,000	96,000		
8	1	前月繰越	42,600		借	42,600

問題2　**解説**

売掛金元帳（A社）の記入が求められているので、7月の取引および売上帳で関連する仕訳は以下のとおりです。これをもとに売掛金元帳（A社）の記入を行って下さい。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
7/6	**現　金**	**15,000**	**売掛金（A社）**	**15,000**
7	**売掛金（A社）**	**24,000**	**売　上**	**24,000**
11	**受取手形**	**21,000**	**売掛金（A社）**	**21,000**
18	**売掛金（A社）**	**32,000**	**売　上**	**32,000**
20	**売　上**	**400**	**売掛金（A社）**	**400**
23	**現　金**	**17,000**	**売掛金（A社）**	**17,000**

帳簿組織③

受取手形記入帳

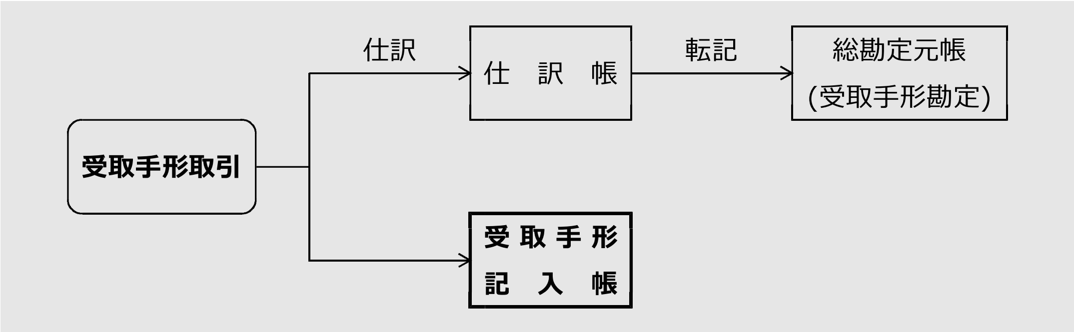
【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　受取手形記入帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「受取手形」勘定）との関係に注意しよう！

受取手形の明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**受取手形記入帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、受取手形に関する取引が受取手形記入帳に記帳されます。



受取手形記入帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。
② 手形種類欄には、約束手形なら「約手」と記入します。
③ 手形番号欄には、手形の番号を記入します。
④ 摘要欄には、仕訳の相手勘定科目を記入します。
⑤ 支払人欄には、手形代金の支払人を記入します。
⑥ 振出人または裏書人欄には、手形の振出人を記入します。なお、裏書人については学習していませんが、日商簿記2級の出題範囲なので気にしないで下さい。
⑦ 振出日欄には、手形の振出日を、満期日欄には、手形の満期日を記入します。
⑧ 支払場所欄には、手形代金が支払われる金融機関名を記入します。
⑨ 手形金額欄には、手形金額を記入します。
⑩ てん末欄には、受取手形の減少した日付とその内容を記入します。手形代金を当座により回収したら「当座入金」、貸し倒れた場合には「貸倒れ」と記入します。

受　取　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	支払人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
4	8	約手	22	売　上	A社	A社	4	8	7	7	x銀行	1,000	7	7	当座入金
7	1	約手	77	売 掛 金	A社	A社	7	1	9	9	x銀行	4,000			

この受取手形記入帳から読み取れる取引に関する仕訳は以下のとおりです。7/1 に取得した受取手形4,000については、てん末欄に何も記入されていませんので、今も決済されず保有していることを示します。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／8	受取手形	1,000	売上	1,000
7／1	受取手形	4,000	売掛金	4,000
7／7	当座預金	1,000	受取手形	1,000

また、この受取手形記入帳から読み取れる取引に関する「受取手形」勘定の記入は以下のとおりです。

受取手形

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
4	8	売上		1,000	7	7	当座預金		1,000
7	1	売掛金		4,000					

支払手形記入帳

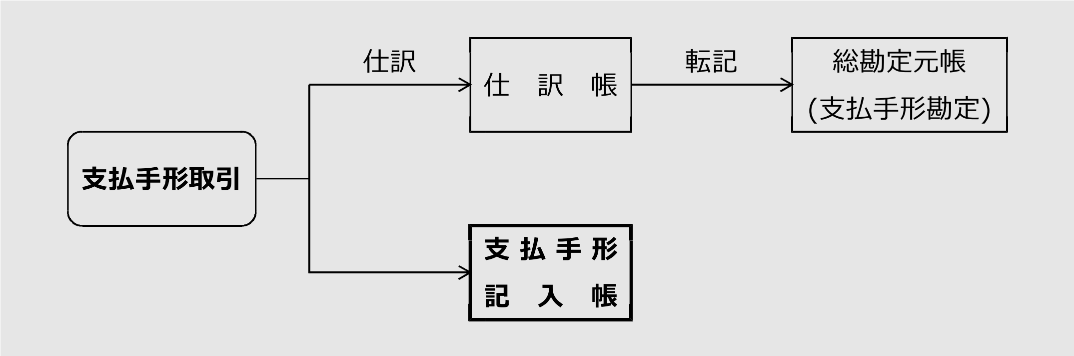
【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　支払手形記入帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「支払手形」勘定）との関係に注意しよう！

支払手形の明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**支払手形記入帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、支払手形に関する取引が支払手形記入帳に記帳されます。



支払手形記入帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。
② 手形種類欄には、約束手形なら「約手」と記入します。
③ 手形番号欄には、手形の番号を記入します。
④ 摘要欄には、仕訳の相手勘定科目を記入します。
⑤ 受取人欄には、手形代金の受取人を記入します。
⑥ 振出人欄には、手形の振出人を記入します。
⑦ 振出日欄には、手形の振出日を、満期日欄には、手形の満期日を記入します。
⑧ 支払場所欄には、手形代金が支払われる金融機関名を記入します。
⑨ 手形金額欄には、手形金額を記入します。
⑩ てん末欄には、支払手形の減少した日付とその内容を記入します。手形代金を当座により支払った場合には「当座支払」と記入します。

支　払　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
4	8	約手	22	仕　入	B社	当社	4	8	7	7	x銀行	1,000	7	7	当座支払
6	5	約手	23	買 掛 金	D社	当社	6	5	9	5	x銀行	3,000			

この支払手形記入帳から読み取れる取引に関する仕訳は以下のとおりです。なお、6/5に発生した支払手形3,000については、てん末欄に何も記入されていませんので、未だ満期日が到来しておらず、支払っていないことを示します。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／8	仕入	1,000	支払手形	1,000
6／5	買掛金	3,000	支払手形	3,000
7／7	支払手形	1,000	当座預金	1,000

また、この支払手形記入帳から読み取れる取引に関する「支払手形」勘定の記入は以下のとおりです。

支払手形

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
7	7	当座預金	省略	1,000	4	8	仕入	省略	1,000
					6	5	買掛金	省略	3,000

商品有高帳

【重要性：A】

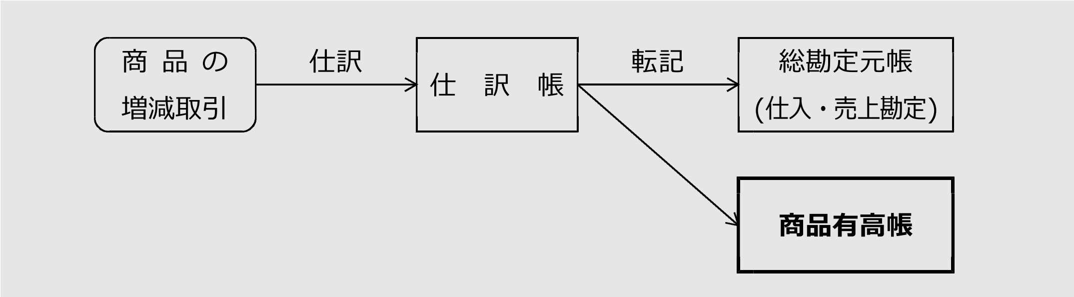
ＰＯＩＮＴ！

① 商品有高帳の記入のルールを覚え、記入できるようにしよう！

② 商品有高帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③ 総勘定元帳（「仕入」勘定、「売上」勘定）との関係に注意しよう！

商品の種類ごとの受入や払出などの明細を記録するための補助簿（補助元帳）を、**商品有高帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、**商品の原価**に関する取引が商品種類別の商品有高帳に記帳されます。



商品有高帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 受入欄には、受け入れた商品の数量、単価、金額（＝単価×数量）を記入します。

④ 払出欄には、払い出した商品の数量、単価（仕入単価）、金額を原価（取得原価）で記入します。売価ではないので注意して下さい。

⑤ 残高欄には、取引後の数量、単価、金額を記入します。

⑥ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初の商品の数量、単価、金額を受入欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残の商品の数量、単価、金額を払出欄に記入します（赤字で書きますが、試験では黒で記入します）。

⑦ 受入欄と払出欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受　入			払　出			残　高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
9	1	前月繰越	20	100	2,000				20	100	2,000
	5	仕　　入	30	100	3,000				50	100	5,000
	10	売　　上				40	100	4,000	10	100	1,000
	15	仕　　入	50	100	5,000				60	100	6,000
	20	売　　上				45	100	4,500	15	100	1,500
	30	次月繰越				15	100	1,500			
			100		10,000	100		10,000			

この商品有高帳から読み取れる9月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。なお、商品売買はすべて掛取引とし、売価は@150と仮定します。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
9／5	仕入	3,000	買掛金	3,000
10	売掛金	6,000	売上	6,000
15	仕入	5,000	買掛金	5,000
20	売掛金	6,750	売上	6,750

9/10 売上金額：@150×40個＝6,000

9/20 売上金額：@150×45個＝6,750

また、この商品有高帳から読み取れる9月の取引に関する「売上」勘定、「仕入」勘定の記入は以下のとおりです。

売　　上

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
			省		9	10	売掛金	省	6,000
			略			20	売掛金	略	6,750

仕　　入

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
9	5	買掛金	省	3,000				省	
	15	買掛金	略	5,000				略	

固定資産台帳

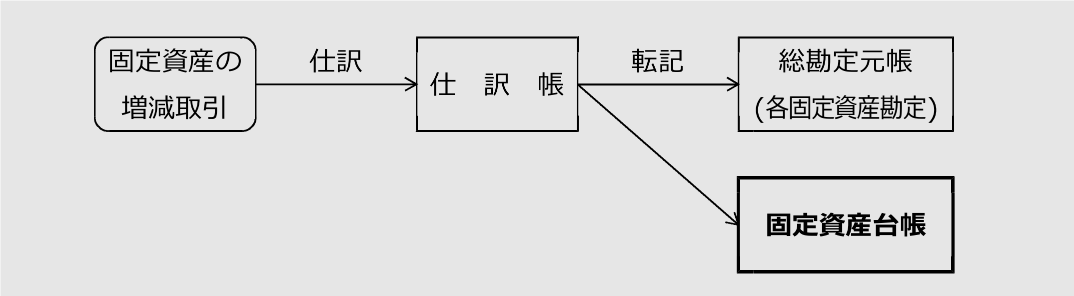
【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　固定資産台帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（各固定資産勘定、「減価償却累計額」勘定）との関係に注意しよう！

固定資産台帳（こていしさんだいちょう）とは、<u>所有する固定資産を管理するために作成する補助簿（補助元帳（ほじょもとちょう））</u>です。



固定資産台帳は以下の手順で記入します。

① 取得年月日には、固定資産の取得した年月日を記入します。

② 名称欄には、固定資産の名称を記入します。

③ 数量欄に、固定資産の数量を記入します。

④ 耐用年数欄には、固定資産の耐用年数を記入します。

⑤ 取得原価欄には、固定資産の取得原価を記入します。

⑥ 期首減価償却累計額欄には、期首における減価償却累計額を記入します。

⑦ 差引期首帳簿価額欄には、期首における帳簿価額（取得原価－期首減価償却累計額）を記入します。

⑧ 当期減価償却費欄には、当期の減価償却費を記入します。

⑨ 期末帳簿価額欄には、期末における帳簿価額（差引期首帳簿価額－当期減価償却費または、取得原価－期末減価償却累計額）を記入します。

<u>固　定　資　産　台　帳</u>　　×5年3月31日現在

取得年月日	名称	数量	耐用年数	取得原価	期首減価償却累計額	差引期首帳簿価額	当期減価償却費	期末帳簿価額
備品								
×1年4月1日	備品A	1	5年	100,000	60,000	40,000	20,000	20,000
×3年10月1日	備品B	2	6年	180,000	15,000	165,000	30,000	135,000
×4年7月1日	備品C	3	8年	400,000	0	400,000	37,500	362,500
小　計				680,000	75,000	605,000	87,500	517,500

この固定資産台帳から読み取れる当期（×4年4月1日～×5年3月31日）の仕訳は以下のとおりです。備品の購入代金は当座預金により支払ったものとします。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
7／1	備品	400,000	当座預金	400,000
3/31	減価償却費	87,500	備品減価償却累計額	87,500

また、この固定資産台帳から読み取れる「備品」勘定、「備品減価償却累計額」勘定の記入は以下のとおりです。

備　　品

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
4	1	前期繰越	省	280,000	3	31	次期繰越	省	680,000
7	1	当座預金	略	400,000				略	
				680,000					680,000

備品減価償却累計額

日	付	摘要	仕丁	借方	日	付	摘要	仕丁	貸方
3	31	次期繰越	省	162,500	4	1	前期繰越	省	75,000
			略		3	31	減価償却費	略	87,500
				162,500					162,500

帳簿組織③ 問題

問題1 **以下の受取手形記入帳と支払手形記入帳から読み取れる仕訳を行いなさい。**

受 取 手 形 記 入 帳

日付		手形種類	手形番号	摘 要	支払人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘 要
2	9	約手	22	売 上	A社	A社	2	9	5	9	x銀行	50,000	5	9	当座入金
8	3	約手	77	売 掛 金	A社	A社	8	3	9	9	x銀行	40,000			

支 払 手 形 記 入 帳

日付		手形種類	手形番号	摘 要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘 要
3	3	約手	25	仕 入	B社	当社	3	3	7	7	x銀行	28,000	7	7	当座支払
6	1	約手	29	買 掛 金	D社	当社	6	1	9	1	x銀行	42,000			

帳簿組織③　答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
2/9				
3/3				
5/9				
6/1				
7/7				
8/3				

帳簿組織③　解答解説

問題1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
2/9	受取手形	50,000	売上	50,000
3/3	仕入	28,000	支払手形	28,000
5/9	当座預金	50,000	受取手形	50,000
6/1	買掛金	42,000	支払手形	42,000
7/7	支払手形	28,000	当座預金	28,000
8/3	受取手形	40,000	売掛金	40,000

問題1　**解説**

受取手形記入帳から読み取れる仕訳は以下のとおりです。受取手形記入帳のてん末欄に注意して下さい。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
2/9	受取手形	50,000	売上	50,000
5/9	当座預金	50,000	受取手形	50,000
8/3	受取手形	40,000	売掛金	40,000

支払手形記入帳から読み取れる仕訳は以下のとおりです。支払手形記入帳のてん末欄に注意して下さい。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
3/3	仕入	28,000	支払手形	28,000
6/1	買掛金	42,000	支払手形	42,000
7/7	支払手形	28,000	当座預金	28,000

商品売買③

先入先出法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 先出先入法のルールを覚えよう！

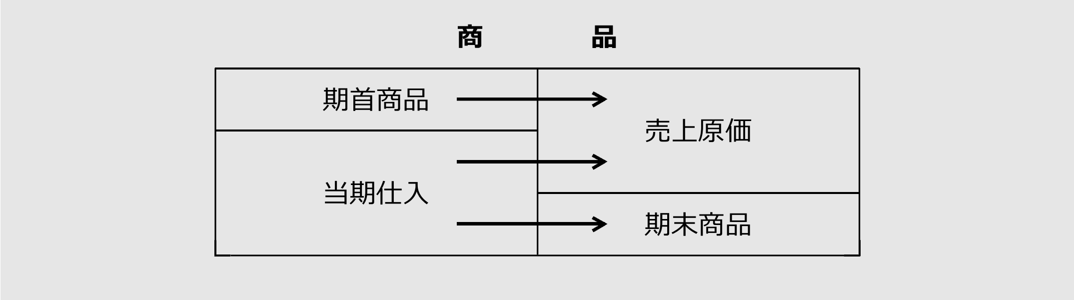
② 商品有高帳に記入できるようになろう！

③ 売上原価や期末商品の金額を算定できるようになろう！

同一の商品を複数回に分けて仕入れた場合、仕入の単価が異なる場合があります。この場合、売上原価や期末商品の算定にあたり、払い出した商品にどの単価をつけるのかが問題となります。この論点を**商品の払出単価（はらいだしたんか）の計算**といいます。

商品の払出単価の計算方法には様々な方法がありますが、日商簿記３級では、**先入先出法（さきいれさきだしほう）**と**移動平均法（いどうへいきんほう）**が出題されます。

先入先出法とは、先に受け入れた商品から先に払い出されたと仮定して、商品の払出単価を計算する方法です。したがって、古く仕入れた商品が売上原価を構成し、期末商品は新しく仕入れた商品から構成されることになります。



例題　**９月の商品の仕入と売上の状況は以下のとおりです。先入先出法を採用している場合の売上原価と月末商品における商品の金額を答えなさい。**

９月初　商品在庫　20個　@100円
５日　仕　　入　30個　@110円
10日　売　　上　40個
15日　仕　　入　50個　@112円
20日　売　　上　45個
９月末　商品在庫　15個

商　品　有　高　帳

（先入先出法）

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
9	1	前月繰越	20	100	2,000				20	100	2,000
	5	仕　　入	30	110	3,300				20	100	2,000
									30	110	3,300
	10	売　　上				20	100	2,000			
						20	110	2,200	10	110	1,100
	15	仕　　入	50	112	5,600				10	110	1,100
									50	112	5,600
	20	売　　上				10	110	1,100			
						35	112	3,920	15	112	1,680
	30	次月繰越				15	112	1,680			
			100		10,900	100		10,900			

①　売上原価を払出にしたがって計算する場合

9月10日の払出40個は、先に仕入れた月初在庫20個（@100円）と後に仕入れた9/5仕入分20個（@110円）です。また、9月20日の払出45個は、先に仕入れた9/5仕入分10個（@110円）と9/15仕入分35個（@112円）です。

したがって、売上原価は、

月初在庫@100×20個＋9/5仕入分(@110×20個＋@110×10個)
＋9/15仕入分@112円×35個＝9,220円となります。

ボックス図で示すと以下のようになります。なお、1ヶ月単位で計算する場合、期首商品は月初商品、当期仕入は当月仕入、期末商品は月末商品となります。

商　　　品

期首商品　@100×20個＝2,000	売上原価
当期仕入	9/10　@100×20個＝2,000
9/5　@110×30個＝3,300	@110×20個＝2,200
	9/20　@110×10個＝1,100
9/15　@112×50個＝5,600	@112×35個＝3,920
	期末商品　差額　1,680
合　計　10,900	合　計　10,900

②　期末（月末）商品を求め、売上原価を差額で計算する場合

先入先出法は、先に仕入れた商品から先に払い出したと仮定して計算する方法ですが、後から仕入れた商品が期末（または月末）に残ることになります。

最後の仕入である9/15の仕入50個に対して、月末の在庫数は15個なので、月末の在庫はすべて9/15仕入分から構成されます。

したがって、月末商品は、9/15仕入分@112円×15個＝1,680円となります。

そして、売上原価は以下のように逆算で求めた方が早いでしょう。

月初在庫@100円×20個＋仕入(9/5仕入分@110円×30個
　＋9/15仕入分@112円×50個)－月末在庫@112円×15個＝9,220円となります。

ボックス図で示すと以下のようになります。

商　　　品

期首商品　@100×20個＝2,000	売上原価
当期仕入	
9/5　@110×30個＝3,300	差額　9,220
9/15　@112×50個＝5,600	
	期末商品　@112×15個＝1,680
合　計　10,900	合　計　10,900

移動平均法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 移動平均法のルールを覚えよう！

② 商品有高帳に記入できるようになろう！

③ 売上原価や期末商品の金額を算定できるようになろう！

移動平均法（いどうへいきんほう）とは、商品の受け入れの都度、平均単価を計算して、平均単価を払出単価とする方法です。平均単価は以下の式で算定します。

$$\textbf{平均単価} = \frac{\textbf{受入前商品残高＋受入商品金額}}{\textbf{受入前商品数量＋受入商品数量}}$$

例題　**９月の商品の仕入と売上の状況は以下のとおりです。移動平均法を採用している場合の売上原価と月末商品の金額を答えなさい。**

９月初	**商品在庫**	**20個**	**@100円**
５日	**仕　　入**	**30個**	**@110円**
10日	**売　　上**	**40個**	
15日	**仕　　入**	**50個**	**@112円**
20日	**売　　上**	**45個**	
９月末	**商品在庫**	**15個**	

商　品　有　高　帳

（移動平均法）

日付		摘要	受　入			払　出			残　高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
9	1	前月繰越	20	100	2,000				20	100	2,000
	5	仕　　入	30	110	3,300				50	106	5,300
	10	売　　上				40	106	4,240	10	106	1,060
	15	仕　　入	50	112	5,600				60	111	6,660
	20	売　　上				45	111	4,995	15	111	1,665
	30	次月繰越				15	111	1,665			
			100		10,900	100		10,900			

9月10日の払出40個は、9/5仕入後の平均単価@106円で計算されます。また、9月20日の払出45個は、9/15仕入後の平均単価@111円で計算されます。

したがって、売上原価は、

9/10払出分@106円×40個＋9/20払出分@111円×45個＝9,235円となります。

また、月末商品は、@111円×15個＝1,665円となります。

ボックス図で示すと以下のようになります。なお、1ヶ月単位で計算する場合、期首商品は月初商品、当期仕入は当月仕入、期末商品は月末商品となります。

商　品

期首商品　@100×20個＝2,000	売上原価
当期仕入	9/10　@106×40個＝4,240
9/5　@110×30個＝3,300	
9/15　@112×50個＝5,600	9/20　@111×45個＝4,995
	期末商品　@111×15個＝1,665
合　計　10,900	合　計　10,900

商品売買③ 問題

問題1 以下の仕入帳と売上帳にもとづいて、商品有高帳の記入（先入先出法）と1月中の売上原価と売上総利益を計算しなさい。なお、商品有高帳は毎月、締切を行っている。

仕　入　帳

日	付	摘　要	内　訳	金　額
1	3	A社　　掛け		
		商品X　15個　@80		1,200
	20	B社　　掛け		
		商品X　14個　@70		980

売　上　帳

日	付	摘　要	内　訳	金　額
1	15	P社　　掛け		
		商品X　12個　@105		1,260
	28	M社　　掛け		
		商品X　16個　@100		1,600

問題2　**以下の仕入帳と売上帳にもとづいて、商品有高帳の記入（移動平均法）と1月中の売上原価と売上総利益を計算しなさい。なお、商品有高帳は毎月、締切を行っている。**

仕　入　帳

日	付	摘　要	内　訳	金　額
1	3	A社　　掛け		
		商品X　15個　@80		1,200
	20	B社　　掛け		
		商品X　25個　@76		1,900

売　上　帳

日	付	摘　要	内　訳	金　額
1	15	P社　　掛け		
		商品X　10個　@105		1,050
	28	M社　　掛け		
		商品X　23個　@100		2,300

商品売買③ 答案用紙

問題1

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(　　　　)
当月商品仕入高	(　　　　)
合　　計	(　　　　)
月末商品棚卸高	(　　　　)
売 上 原 価	(　　　　)

売上総利益の計算

売　上　高	(　　　　)
売 上 原 価	(　　　　)
売 上 総 利 益	(　　　　)

問題2

商品有高帳

(移動平均法)

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(　　　　　　　)
当月商品仕入高	(　　　　　　　)
合　　計	(　　　　　　　)
月末商品棚卸高	(　　　　　　　)
売 上 原 価	(　　　　　　　)

売上総利益の計算

売　上　高	(　　　　　　　)
売 上 原 価	(　　　　　　　)
売上総利益	(　　　　　　　)

商品売買③ 解答解説

問題1 **解答**

(先入先出法)

商 品 有 高 帳

日付		摘要	受入 数量	受入 単価	受入 金額	払出 数量	払出 単価	払出 金額	残高 数量	残高 単価	残高 金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　入	15	80	1,200				10	90	900
									15	80	1,200
	15	売　上				10	90	900			
						2	80	160	13	80	1,040
	20	仕　入	14	70	980				13	80	1,040
									14	70	980
	28	売　上				13	80	1,040			
						3	70	210	11	70	770
	31	次月繰越				11	70	770			
			39		3,080	39		3,080			

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(900)
当月商品仕入高	(2,180)
合　計	(3,080)
月末商品棚卸高	(770)
売 上 原 価	(2,310)

売上総利益の計算

売 上 高	(2,860)
売 上 原 価	(2,310)
売 上 総 利 益	(550)

問題1 **解説**

月初商品棚卸高は答案用紙の前期繰越から900と求めて下さい。

当月商品仕入高：1,200＋980＝2,180

月末商品棚卸高：@70×11個＝770

売上原価：900＋160＋1,040＋210=2,310

売上高：1,260＋1,600＝2,860

売上総利益：売上高2,860－売上原価2,310＝550

問題2　**解答**

(移動平均法)

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　入	15	80	1,200				25	84	2,100
	15	売　上				10	84	840	15	84	1,260
	20	仕　入	25	76	1,900				40	79	3,160
	28	売　上				23	79	1,817	17	79	1,343
	31	次月繰越				17	79	1,343			
			50		4,000	50		4,000			

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(900)
当月商品仕入高	(3,100)
合　計	(4,000)
月末商品棚卸高	(1,343)
売上原価	(2,657)

売上総利益の計算

売　上　高	(3,350)
売上原価	(2,657)
売上総利益	(693)

問題2　**解説**

月初商品棚卸高は答案用紙の前期繰越から900と求めて下さい。

当月商品仕入高：1,200＋1,900＝3,100

月末商品棚卸高：@79×17個＝1,343

売上原価：840＋1,817=2,657

売上高：1,050＋2,300＝3,350

売上総利益：売上高3,350－売上原価2,657＝693

伝　票

３伝票制

【重要性：Ａ】

ＰＯＩＮＴ！

①　３つの伝票の違いを理解しよう！

②　３つの伝票への記入方法をマスターしよう！

③　一部現金取引の処理方法をマスターしよう！

主な勘定科目

「現金」勘定（資産）

伝票(でんぴょう)とは、仕訳帳の代わりに取引を記入する紙片(しへん)です。仕訳帳は帳簿（ノート）なので、担当者を分けて処理することが難しいのですが、伝票は１枚ずつの紙なので、担当者を分けることが可能となります。伝票は仕訳帳の代わりに用いるので、伝票に記入した取引は仕訳を行う必要はありません。なお、伝票に記入することを、**起票**(きひょう)といいます。

３伝票制(さんでんぴょうせい)とは、**入金伝票**(にゅうきんでんぴょう)、**出金伝票**(しゅつきんでんぴょう)、**振替伝票**(ふりかえでんぴょう)の３種類の伝票を用いる方法です。

① 入金伝票

入金伝票には、現金の増加取引である**入金取引**を起票します。仕訳で考えますと、借方が「現金」勘定となる取引です。したがって、借方は必ず「現金」勘定となるので、入金伝票の科目欄には**貸方の相手勘定科目**しか記入しません。

入 金 伝 票

×年×月×日

科　　目	金　　額
売　　掛　　金	**1,000**

例題　**商品を1,000円で売り上げ、代金は現金で受け取った。**

仕訳で示すと、以下になります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**1,000**	**売　　　上**	**1,000**

入金伝票には以下のように起票されます。

入 金 伝 票

×年×月×日

科　　目	金　　額
売　　　上	**1,000**

② 出金伝票

出金伝票には、現金の減少取引である**出金取引**を起票します。仕訳で考えますと、貸方が「現金」勘定となる取引です。したがって、貸方は必ず「現金」勘定となるので、出金伝票の科目欄には**借方の相手勘定科目**しか記入しません。

出 金 伝 票

×年×月×日

科　　目	金　　額
買　掛　金	**2,000**

例題 **商品2,000円を仕入れ、代金は現金で支払った。**

仕訳で示すと、以下になります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　入	**2,000**	**現　金**	**2,000**

出金伝票には以下のように起票されます。

出 金 伝 票

×年×月×日

科　　目	金　　額
仕　入	**2,000**

③　振替伝票

振替伝票には、入金取引と出金取引以外の取引を起票します。振替伝票には、仕訳の形式で記入します。

振　替　伝　票

×年×月×日

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
売　掛　金	3,000	売　上	3,000

例題　**備品3,000円を購入し、代金は月末に支払うこととした。**

仕訳で示すと、以下になります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
備　品	3,000	未　払　金	3,000

振替伝票には以下のように起票されます。

振　替　伝　票

×年×月×日

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
備　品	3,000	未　払　金	3,000

④　一部現金取引

取引の一部に現金取引が含まれている取引を、**一部現金取引**（いちぶげんきんとりひき）といいます。一部現金取引は現金取引とそれ以外の取引が混在しているのですが、その起票方法には、取引を分解する方法と、取引を仮定する方法があります。

例題　**商品を1,000円で売り上げ、代金のうち300円は現金で受け取り、残額は掛けとした。**

仕訳で示すと、以下になります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**300**	**売上**	**1,000**
売掛金	**700**		

・取引を分解する方法

以下のように取引を単純に分解して処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**300**	**売上**	**300**
売掛金	**700**	**売上**	**700**

したがって、伝票には入金伝票と振替伝票に以下のように起票されます。

入　金　伝　票

×年×月×日

科目	金額
売上	**300**

振　替　伝　票

×年×月×日

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**700**	**売上**	**700**

・取引を仮定する方法

いったん全額を掛けで売り上げ、すぐに掛け代金を現金で回収したと考えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**1,000**	**売上**	**1,000**
現金	**300**	**売掛金**	**300**

したがって、伝票には振替伝票と入金伝票に以下のように起票されます。

振替伝票

×年×月×日

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**1,000**	**売上**	**1,000**

入金伝票

×年×月×日

科目	金額
売掛金	**300**

転記

【重要性：Ａ】

ＰＯＩＮＴ！

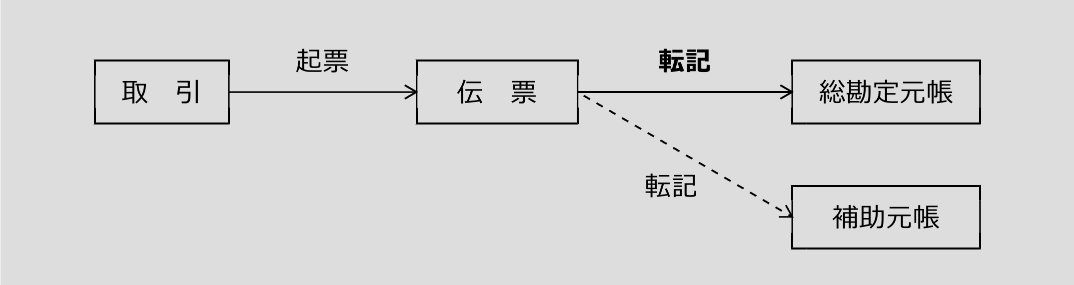
①　伝票から総勘定元帳への転記の方法を理解しよう！

②　仕訳日計表の記入方法をマスターしよう！

伝票に起票された取引を総勘定元帳へ転記するには、以下の方法があります。なお、補助元帳へは伝票からその都度転記します。

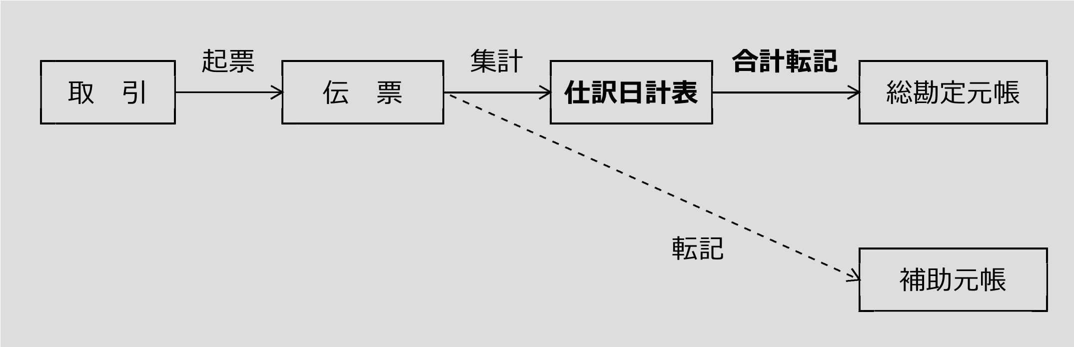
（１）伝票から直接転記する方法

各伝票から総勘定元帳の各勘定へ伝票から転記します。



（２）仕訳日計表に集計する方法

仕訳日計表とは、合計試算表の一種で、１日分の伝票を集計する表をいいます。仕訳日計表を作成し、仕訳日計表から総勘定元帳の各勘定へ**合計金額を転記**します。これを**合計転記**（ごうけいてんき）といいます。



例題　**4月3日に以下の取引を行った。当社は3伝票制を採用しており、伝票から総勘定元帳へ転記している。**

①　商品1,000円を掛で仕入れた。

②　商品1,200円を現金で仕入れた。

③　商品を1,800円で得意先A社へ売り上げ、代金は掛とした。

④　商品を2,000円で得意先B社へ売り上げ、代金は現金で受け取った。

⑤　買掛金800円を決済し、現金で支払った。

⑥　得意先B社に対する売掛金1,700円が決済され、現金で受け取った。

⑦　買掛金900円の決済のため、約束手形を振り出した。

・起票

		借方科目	金額	貸方科目	金額
①	振替伝票	仕　入	1,000	買掛金	1,000
②	出金伝票	仕　入	1,200	現　金	1,200
③	振替伝票	売掛金	1,800	売　上	1,800
④	入金伝票	現　金	2,000	売　上	2,000
⑤	出金伝票	買掛金	800	現　金	800
⑥	入金伝票	現　金	1,700	売掛金	1,700
⑦	振替伝票	買掛金	900	支払手形	900

・総勘定元帳

現　金　　1

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前月繰越	50,000	4	3	出金伝票	1,200
	3	入金伝票	2,000		〃	出金伝票	800
	〃	入金伝票	1,700				

売掛金　　4

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前月繰越	30,000	4	3	入金伝票	1,700
	3	振替伝票	1,800				

支払手形 7

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				4	1	前月繰越	15,000
					3	振替伝票	900

買掛金 8

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
4	3	出金伝票	800	4	1	前月繰越	20,000
	〃	振替伝票	900		3	振替伝票	1,000

売上 11

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				4	3	振替伝票	1,800
					〃	入金伝票	2,000

仕入 21

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
4	3	振替伝票	1,000				
	〃	出金伝票	1,200				

・売掛金元帳

各伝票から補助元帳へ転記します。

売掛金元帳

A社 1

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
4	1	前月繰越	18,000		借	18,000
	3	振替伝票	1,800		〃	19,800

B社 2

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
4	1	前月繰越	12,000		借	12,000
	3	入金伝票		1,700	〃	10,300

例題　4月3日に以下の取引を行った。当社は3伝票制を採用しており、各伝票にもとづいて仕訳日計表を作成し、総勘定元帳へ転記している。

① 商品1,000円を掛で仕入れた。
② 商品1,200円を現金で仕入れた。
③ 商品を1,800円で得意先A社へ売り上げ、代金は掛とした。
④ 商品を2,000円で得意先B社へ売り上げ、代金は現金で受け取った。
⑤ 買掛金800円を決済し、現金で支払った。
⑥ 得意先B社に対する売掛金1,700円が決済され、現金で受け取った。
⑦ 買掛金900円の決済のため、約束手形を振り出した。

・起票

		借方科目	金額	貸方科目	金額
①	振替伝票	仕　入	1,000	買 掛 金	1,000
②	出金伝票	仕　入	1,200	現　金	1,200
③	振替伝票	売 掛 金	1,800	売　上	1,800
④	入金伝票	現　金	2,000	売　上	2,000
⑤	出金伝票	買 掛 金	800	現　金	800
⑥	入金伝票	現　金	1,700	売 掛 金	1,700
⑦	振替伝票	買 掛 金	900	支払手形	900

・仕訳日計表

仕　訳　日　計　表

4月3日

借　方	元丁	勘 定 科 目	元丁	貸　方
3,700	1	現　金	1	2,000
1,800	4	売 掛 金	4	1,700
		支 払 手 形	7	900
1,700	8	買 掛 金	8	1,000
		売　上	11	3,800
2,200	21	仕　入		
9,400				9,400

・総勘定元帳

仕訳日計表から総勘定元帳の各勘定へ合計金額を転記します。

現　　金　　1

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前月繰越	50,000	4	3	仕訳日計表	2,000
	3	仕訳日計表	3,700				

売 掛 金　　4

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前月繰越	30,000	4	3	仕訳日計表	1,700
	3	仕訳日計表	1,800				

支払手形　　7

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				4	1	前月繰越	15,000
					3	仕訳日計表	900

買 掛 金　　8

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	3	仕訳日計表	1,700	4	1	前月繰越	20,000
					3	仕訳日計表	1,000

売　　上　　11

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				4	3	仕訳日計表	3,800

仕　　入　　21

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	3	仕訳日計表	2,200				

・売掛金元帳

各伝票から補助元帳へ転記します。

売　掛　金　元　帳

A　社　　1

日付		摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
4	1	前月繰越	18,000		借	18,000
	3	振替伝票	1,800		〃	19,800

B　社　　2

日付		摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
4	1	前月繰越	12,000		借	12,000
	3	入金伝票		1,700	〃	10,300

伝票 問題

問題1　次の取引について、各伝票に起票しなさい。

　商品を50,000円で販売し、代金のうち30,000円は他社振出小切手で受け取り、残額は掛けとした。なお、商品を発送するための運賃（当社負担）500円は現金で支払った。3伝票制を採用しており、一部現金取引については、いったん全額を振替伝票に掛売上として起票し、掛代金をただちに現金で回収したとして入金伝票に起票する方法を採用している。

問題2　次の取引について、各伝票に起票しなさい。

　商品10,000円を仕入れ、代金のうち4,000円は現金で支払い、残額は掛けとした。3伝票制を採用しており、一部現金取引については、取引を分解して起票する方法を採用している。

伝票 答案用紙

問題1

入　金　伝　票

科　　目	金　　額

出　金　伝　票

科　　目	金　　額

振　替　伝　票

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額

問題2

入　金　伝　票

科　　目	金　　額

出　金　伝　票

科　　目	金　　額

振　替　伝　票

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額

伝票 解答解説

問題1 **解答**

入金伝票

科目	金額
売掛金	**30,000**

出金伝票

科目	金額
発送費	**500**

振替伝票

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**50,000**	**売上**	**50,000**

問題1 **解説**

一部現金取引については、いったん全額を振替伝票に掛売上として起票し、掛代金をただちに現金で回収したとして入金伝票に起票する方法を採用しているので、仕訳形式で示すと、以下となります。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
振替伝票	**売掛金**	**50,000**	**売上**	**50,000**
入金伝票	**現金**	**30,000**	**売掛金**	**30,000**
出金伝票	**発送費**	**500**	**現金**	**500**

問題2　**解答**

入 金 伝 票

科　　目	金　　額

出 金 伝 票

科　　目	金　　額
仕　　入	**4,000**

振 替 伝 票

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
仕　　入	**6,000**	**買　掛　金**	**6,000**

問題2　**解説**

一部現金取引については、取引を分解して起票する方法を採用しているので、仕訳形式で示すと、以下となります。

	借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
出金伝票	**仕　　入**	**4,000**	**現　　金**	**4,000**
振替伝票	**仕　　入**	**6,000**	**買　掛　金**	**6,000**

精算表

精算表

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 精算表がどのようなものか理解しよう！

② 精算表の記入方法をマスターしよう！

精算表（せいさんひょう）とは、決算整理前残高試算表から決算整理を行い、損益計算書と貸借対照表を作成するまでの一連の手続きをまとめた表です。精算表は以下の手順で記入します。

① 試算表欄に決算整理前の各勘定の残高を記入します（試験では通常、記入されています）。

② 決算整理仕訳を修正記入欄に記入します。勘定科目が新たに発生した場合は、勘定科目欄に追加します。

③ 試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減算して、収益、費用は損益計算書欄へ、資産、負債、純資産は貸借対照表欄に記入します。

④ 損益計算書欄の差額で当期純利益を算定し、損益計算書欄の借方に記入するとともに、貸借対照表欄の貸方に記入します。なお、当期純利益は貸借対照表欄の差額でも算定できます。

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
資産	①		②				①＋②	
資産	③			④			③－④	
負債・純資産		⑤		⑥				⑤＋⑥
負債・純資産		⑦	⑧					⑦－⑧
収益		⑨		⑩		⑨＋⑩		
収益		⑪	⑫			⑪－⑫		
費用	⑬		⑭		⑬＋⑭			
費用	⑮			⑯	⑮－⑯			
	××	××						
当期純利益					⑰			⑰
			××	××	××	××	××	××

例題　**精算表を作成しなさい。なお、期末商品は800円であり、未払給料100円を計上する。**

決算整理仕訳を示しますと、以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕入**	**800**
給料	**100**	**未払給料**	**100**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	1,200						1,200	
繰越商品	700		800	700			800	
借入金		300						300
資本金		800						800
繰越利益剰余金		200						200
売上		3,200				3,200		
仕入	2,000		700	800	1,900			
給料	600		100		700			
	4,500	4,500						
未払給料				100				100
当期純利益					600			600
			1,600	1,600	3,200	3,200	2,000	2,000

なお、貸借対照表における繰越利益剰余金は200＋600＝800となります。

精算表 問題

問題1　精算表を作成しなさい。

〔決算整理事項〕

1．期末商品は180円であった。

2．利息100円を次期へ繰り延べる。

3．決算において、貸倒引当金50円を設定する。

問題2　**2030年7月31日の合計試算表を作成しなさい。なお、決算日は12月31日である。**

合　計　試　算　表

2030年6月30日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
61,000	現　　　　　金	13,000
423,000	当　座　預　金	340,000
454,000	受　取　手　形	220,000
845,000	売　　掛　　金	500,000
380,000	支　払　手　形	570,000
220,000	買　　掛　　金	430,000
	資　　本　　金	80,000
	繰越利益剰余金	20,000
	売　　　　　上	700,000
490,000	仕　　　　　入	
2,873,000	合　　計	2,873,000

2030年7月の取引

1．売上取引

掛売上23,000円、当座売上18,000円、現金売上32,000円、手形売上42,000円

売上戻り6,000円（掛代金の減額）

2．仕入取引

掛仕入13,000円、当座仕入9,000円、手形仕入21,000円

3．売掛金の決済

当座預金による回収58,000円、手形による回収40,000円

4．受取手形の決済

当座預金による回収45,000円

5．買掛金の決済

当座預金による支払70,000円、手形による支払33,000円

6．支払手形の決済

当座預金による支払95,000円

問題3　**2030年8月31日の残高試算表を作成しなさい。なお、決算日は12月31日である。**

残　高　試　算　表

2030年7月31日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
80,000	現　　　　金	
130,000	当　座　預　金	
171,000	受　取　手　形	
264,000	売　　掛　　金	
	支　払　手　形	149,000
	買　　掛　　金	120,000
	資　　本　　金	80,000
	繰越利益剰余金	20,000
	売　　　　上	809,000
533,000	仕　　　　入	
1,178,000	合　　計	1,178,000

2030年8月の取引

1．商品売買取引

掛売上60,000円、掛仕入42,000円

2．現金取引

当座預金への預入2,000円

3．当座取引

現金の預入2,000円、売掛金の回収11,000円、買掛金の支払22,000円

受取手形の回収35,000円、支払手形の決済41,000円

問題4　次の決算整理前残高試算表および決算整理事項にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

決算整理前残高試算表

借　方	勘定科目	貸　方
200	現金	
10,000	売掛金	
600	繰越商品	
5,000	備品	
	借入金	3,000
	減価償却累計額	1,300
	資本金	7,000
	繰越利益剰余金	3,000
	売上	5,200
3,000	仕入	
700	給料	
19,500		19,500

〔決算整理事項〕

1．期末商品は800円であった。

2．未払給料100円を計上する。

3．貸倒引当金200円を繰り入れる。

4．減価償却費800円を計上する。

精算表 答案用紙

問題1

精　　算　　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現　　金	100							
売 掛 金	1,000							
繰越商品	200							
借 入 金		300						
資 本 金		600						
繰越利益剰余金		400						
売　　上		3,700						
仕　　入	3,000							
支払利息	700							
	5,000	5,000						
(　　　)								
貸倒引当金繰入								
貸倒引当金								
当期純利益								

問題2

合　計　試　算　表

2030年7月31日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
	現　　　　　　金	
	当　座　預　金	
	受　取　手　形	
	売　　掛　　金	
	支　払　手　形	
	買　　掛　　金	
	資　　本　　金	
	繰越利益剰余金	
	売　　　　　　上	
	仕　　　　　　入	
	合　　計	

問題3

残　高　試　算　表

2030年8月31日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
	現　　　　　　金	
	当　座　預　金	
	受　取　手　形	
	売　　掛　　金	
	支　払　手　形	
	買　　掛　　金	
	資　　本　　金	
	繰越利益剰余金	
	売　　　　　　上	
	仕　　　　　　入	
	合　　計	

問題4

損益計算書

費用	金額	収益	金額
売上原価		売上高	
給料			
貸倒引当金繰入			
減価償却費			
当期純利益			

貸借対照表

資産	金額	負債・純資産	金額
現金		未払給料	
売掛金		借入金	
貸倒引当金	△	資本金	
商品		繰越利益剰余金	
備品			
減価償却累計額	△		

精算表 解答解説

問題1 **解答**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現　　　金	100						100	
売　掛　金	1,000						1,000	
繰越商品	200		180	200			180	
借　入　金		300						300
資　本　金		600						600
繰越利益剰余金		400						400
売　　　上		3,700				3,700		
仕　　　入	3,000		200	180	3,020			
支払利息	700			100	600			
	5,000	5,000						
(前払利息)			100				100	
貸倒引当金繰入			50		50			
貸倒引当金				50				50
当期純利益					30			30
			530	530	3,700	3,700	1,380	1,380

問題1 **解説**

決算整理仕訳を示すと、以下となります。精算表では修正記入欄に仕訳を行って下さい。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕　入	**200**	**繰越商品**	**200**
繰越商品	**180**	**仕　入**	**180**
前払利息	**100**	**支払利息**	**100**
貸倒引当金繰入	**50**	**貸倒引当金**	**50**

問題2 **解答**

合 計 試 算 表

2030年7月31日

借　方	勘 定 科 目	貸　方
93,000	現　　　金	13,000
544,000	当 座 預 金	514,000
536,000	受 取 手 形	265,000
868,000	売　掛　金	604,000
475,000	支 払 手 形	624,000
323,000	買　掛　金	443,000
	資　本　金	80,000
	繰越利益剰余金	20,000
6,000	売　　　上	815,000
533,000	仕　　　入	
3,378,000	合　計	3,378,000

問題2 **解説**

2030年7月の取引に関する仕訳を示すと、以下となります。テキストにあるように、T勘定を設定して集計しても良いです。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
売　掛　金	**23,000**	**売　　　上**	**115,000**
当 座 預 金	**18,000**		
現　　　金	**32,000**		
受 取 手 形	**42,000**		
売　　　上	**6,000**	**売　掛　金**	**6,000**
仕　　　入	**43,000**	**買　掛　金**	**13,000**
		当 座 預 金	**9,000**
		支 払 手 形	**21,000**
当 座 預 金	**58,000**	**売　掛　金**	**98,000**
受 取 手 形	**40,000**		
当 座 預 金	**45,000**	**受 取 手 形**	**45,000**
買　掛　金	**103,000**	**当 座 預 金**	**70,000**
		支 払 手 形	**33,000**
支 払 手 形	**95,000**	**当 座 預 金**	**95,000**

問題3　**解答**

残　高　試　算　表

2030年8月31日

借　方	勘　定　科　目	貸　方
78,000	現　金	
115,000	当座預金	
136,000	受取手形	
313,000	売　掛　金	
	支払手形	108,000
	買　掛　金	140,000
	資　本　金	80,000
	繰越利益剰余金	20,000
	売　上	869,000
575,000	仕　入	
1,217,000	合　計	1,217,000

問題3　**解説**

2030年8月の取引に関する仕訳を示すと、以下となります。なお、２．現金取引「当座預金への預入2,000円」と３．当座取引「現金の預入2,000円」は同一取引なので、二重に仕訳を行わないように注意して下さい。また、テキストにあるように、T勘定を設定して集計しても良いです。

借方科目	**金　額**	**貸方科目**	**金　額**
売　掛　金	**60,000**	**売　上**	**60,000**
仕　入	**42,000**	**買　掛　金**	**42,000**
当座預金	**2,000**	**現　金**	**2,000**
当座預金	**46,000**	**売　掛　金** **受取手形**	**11,000** **35,000**
買　掛　金 **支払手形**	**22,000** **41,000**	**当座預金**	**63,000**

問題4　**解答**

損益計算書

費用	金額	収益	金額
売上原価	2,800	売上高	5,200
給料	800		
貸倒引当金繰入	200		
減価償却費	800		
当期純利益	600		
	5,200		5,200

貸借対照表

資産	金額	負債・純資産	金額
現金	200	未払給料	100
売掛金	10,000	借入金	3,000
貸倒引当金	△200	資本金	7,000
商品	800	繰越利益剰余金	3,600
備品	5,000		
減価償却累計額	△2,100		
	13,700		13,700

問題4　**解説**

決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	600	繰越商品	600
繰越商品	800	仕入	800
給料	100	未払給料	100
貸倒引当金繰入	200	貸倒引当金	200
減価償却費	800	減価償却累計額	800

決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表

借方	勘定科目	貸方
200	現金	
10,000	売掛金	
800	繰越商品	
5,000	備品	
	未払給料	100
	借入金	3,000
	貸倒引当金	200
	減価償却累計額	2,100
	資本金	7,000
	繰越利益剰余金	3,000
	売上	5,200
2,800	仕入	
800	給料	
200	貸倒引当金繰入	
800	減価償却費	
20,600		20,600

貸借対照表における繰越利益剰余金

前T/B 3,000＋当期純利益600＝3,600

試験対策（仕訳問題）

日商簿記3級の第1問は、仕訳形式の問題が5問出題されます。勘定科目の候補が与えられますので、その中から適切な勘定科目を選び、仕訳を解答します。与えられた勘定科目以外で解答した場合は、正解となりませんので注意して下さい。

仕訳問題は今まで学習してきた仕訳を解答すれば良いのですが、特に、複数の論点が問われる問題が間違いやすいので注意して下さい。

例題　**下記の取引について仕訳を行いなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。**

仮払消費税	未払消費税	売上	仕入
備品	未払金	未払家賃	受取家賃
支払家賃	前受金	繰越商品	現金
未収入金	仮受消費税	売掛金	買掛金
仮払金	損益	前受家賃	未収家賃
預り金	建物	立替金	前払金
仮受金	商品	当座預金	繰越利益剰余金

①　前期の決算で計上した前受家賃1,000円について、当期首に再振替仕訳を行う。

②　本日、新潟商店に対する売掛金59,000円および買掛金69,000円の決済日につき、新潟商店の承諾を得て両者を相殺処理するとともに、買掛金の超過額10,000円は小切手を振り出して支払った。

③　備品99,000円を購入し、代金は全額、翌月末に支払うこととした。この購入に伴い発生した運送費600円と据付費300円は現金で支払った。

④　出張中の店員から40,000円の入金があったが、その詳細は不明であった。ここで、当該金額が商品代金の手付金であることが判明した。

⑤　以前に掛け販売した商品（仕入原価：税抜金額1,000円、税込金額1,100円）が返品され、掛け代金（売価：税抜金額1,300円、税込金額1,430円）を減額した。

①　再振替仕訳

前期の決算整理仕訳は以下のとおりです。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
受取家賃	1,000	前受家賃	1,000

したがって、当期の再振替仕訳は反対仕訳となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
前受家賃	**1,000**	**受取家賃**	**1,000**

②　売掛金と買掛金の相殺

取引先に対して、売掛金と買掛金が同時に存在する場合には、両者を相殺処理する場合があります。その場合、「売掛金」勘定（資産）の減少と「買掛金」（負債）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
買掛金	**69,000**	**売掛金**	**59,000**
		当座預金	**10,000**

なお、上記仕訳は以下のように分解して考えても良いでしょう。

・売掛金と買掛金の相殺

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
買掛金	59,000	売掛金	59,000

・買掛金の残額の支払

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
買掛金	10,000	当座預金	10,000

③　備品を購入する際に発生した運搬費および据付費は、備品の取得原価に含める処理を行います。また、商品以外のものを購入し、代金は未払の場合、「未払金」勘定（負債）で処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
備品	**99,900**	**未払金**	**99,000**
		現金	**900**

④　入金時に以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　金	40,000	仮受金	40,000

したがって、内容が判明したときは「仮受金」勘定（負債）から「前受金」勘定（負債）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮受金	**40,000**	**前受金**	**40,000**

⑤　販売時に以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	1,430	売　上	1,300
		仮受消費税	130

売上戻りは、売上時の仕訳の取り消しとなりますので、逆仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売　上	**1,300**	**売掛金**	**1,430**
仮受消費税	**130**		

試験対策（勘定記入）

勘定記入の問題は第2問か第4問に出題されることがあります。必要な仕訳を行い、それを各勘定に記入して解答します。特に、摘要欄の記入に注意して下さい。

例題　**毎年7月1日に向こう１年分の支払家賃1,200円を現金で支払っている。そこで支払家賃勘定と前払家賃勘定の記入を行いなさい。なお、決算日は3月31日である。**

まず、当期において行われる仕訳を考えます。

① 期首（4月1日、再振替仕訳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払家賃	**300**	**前払家賃**	**300**

前払家賃：1,200÷12ヶ月×３ヶ月(4月～6月分)＝300

② 家賃支払時（7月1日）

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払家賃	**1,200**	**現金**	**1,200**

③ 決算整理（3月31日）

借方科目	金額	貸方科目	金額
前払家賃	**300**	**支払家賃**	**300**

④ 決算振替（3月31日）

借方科目	金額	貸方科目	金額
損益	**1,200**	**支払家賃**	**1,200**

次に、仕訳をもとに勘定へ転記します。なお、前払家賃の残高は仕訳からの転記でなく、「前期繰越」「次期繰越」と記入して繰り越されることに注意して下さい。

支払家賃

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
4	1	前払家賃	省	300	3	31	前払家賃	省	300
7	1	現金	略	1,200		〃	損益	略	1,200
				1,500					1,500

前払家賃

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
4	1	前期繰越	省	300	4	1	支払家賃	省	300
3	31	支払家賃	略	300	3	31	次期繰越	略	300
				600					600

試験対策（補助簿）

補助簿に関する問題は主に第2問で出題されます。出題形式としては、補助簿の記入・締切を行う問題、与えられた補助簿から取引を推定する問題、取引から記入すべき補助簿を選択する問題などがあります。ここでは、取引から記入すべき補助簿を選択する問題について解き方を説明します。

例題　**以下の取引にもとづいて、それぞれの取引がどの補助簿に記入されるか、解答欄に○を付しなさい。なお、当社が設定している補助簿は、現金出納帳、当座預金出納帳、仕入帳、売上帳、商品有高帳、売掛金元帳、買掛金元帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳である。**

①　仕入先B社から商品3,000円を仕入れ、代金のうち1,000円は約束手形を振り出し、残額は掛けとした。なお、引取費用500円は現金で支払った。

②　仕入先B社から仕入れた商品400円が品違いであったため返品し、掛け代金から差し引かれた。

③　得意先C社へ商品4,000円を売り上げ、代金のうち1,500円は約束手形を受け取り、残額は掛けとした。当社負担の運送費200円は小切手を振り出して支払った。

④　得意先C社へ売り上げた商品300円が返品され、掛け代金から差し引いた。

⑤　仕入先B社への買掛金800円の支払のために、約束手形を振り出した。

各取引について仕訳をもとに記入される補助簿を考えます。その際には、商品有高帳に注意して下さい。商品有高帳は商品の原価に関する取引が記入されますが、三分法の場合、商品の原価に関する期中取引が仕訳では「商品」や「繰越商品」勘定が使われないので漏れないように注意して下さい。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	**仕入**	**3,500**	**支払手形**	**1,000**
			買掛金	**2,000**
			現金	**500**

借方　仕入帳、商品有高帳（商品の原価が増加するため）

貸方　支払手形記入帳、買掛金元帳、現金出納帳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
②	**買掛金**	**400**	**仕入**	**400**

借方　買掛金元帳

貸方　仕入帳、商品有高帳（商品の原価が減少するため）

	借方科目	金額	貸方科目	金額
③	**受取手形**	**1,500**	**売上**	**4,000**
	売掛金	**2,500**		
	発送費	**200**	**当座預金**	**200**

借方　受取手形記入帳、売掛金元帳

貸方　売上帳、商品有高帳（商品の原価が減少するため）、当座預金出納帳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
④	**売上**	**300**	**売掛金**	**300**

借方　売上帳、商品有高帳（商品の原価が増加するため）

貸方　売掛金元帳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
⑤	**買掛金**	**800**	**支払手形**	**800**

借方　買掛金元帳

貸方　支払手形記入帳

	現金出納帳	当座預金出納帳	仕入帳	売上帳	商品有高帳	売掛金元帳	買掛金元帳	受取手形記入帳	支払手形記入帳
①	○		○		○		○		○
②			○		○		○		
③		○		○	○	○		○	
④				○	○	○			
⑤							○		○

試験対策（補助簿・推定）

ここでは、買掛金勘定と買掛金元帳の空欄推定問題について解き方を説明します。

例題 鹿島商事株式会社の、8月中の買掛金に関する取引の記録は以下のとおりである。①及び②に帳簿名、③～⑩には適切な語句または金額を答えなさい。なお、商品売買の記帳は３分法により、補助簿②に両商店以外は存在しない。

主 要 簿

①

買 掛 金

8/ 8	（ ③ ）	（ ）	8/ 1	前月繰越	280,000
15	当座預金	（ ④ ）	6	（ ）	（ ⑥ ）
24	（ ）	（ ⑤ ）	19	（ ）	140,000
31	次月繰越	（ ）			
		（ ）			（ ）

補 助 簿

②

浦和商店

8/ 8	返 品	8,000	8/ 1	前月繰越	116,000
15	支 払 い	220,000	6	仕 入	270,000
31	次月繰越	（ ⑦ ）			
		（ ）			（ ）

川崎商店

8/15	支 払 い	（ ⑧ ）	8/ 1	前月繰越	（ ⑨ ）
24	返 品	3,000	19	仕 入	（ ⑩ ）
31	次月繰越	125,000			
		（ ）			（ ）

①	総勘定元帳	②	買掛金元帳	③	仕入
④	396,000	⑤	3,000	⑥	270,000
⑦	158,000	⑧	176,000	⑨	164,000
⑩	140,000				

① 主要簿で「買掛金」勘定が設けられている帳簿は「総勘定元帳」です。

② 買掛金の明細を記録するための補助簿ですので、「買掛金元帳（又は、仕入先元帳）」です。

③ 買掛金元帳（浦和商店）8/8 返品より、返品により買掛金が減少したことがわかります。「買掛金」勘定の③は摘要欄の記入となりますので、相手勘定科目の「仕入」と記入します。「返品」は相手勘定科目ではありませんので注意してください。なお、3分法における返品時の仕訳は以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	3,000	仕入	3,000

④ 買掛金元帳（浦和商店）8/15 支払い 220,000と買掛金元帳（川崎商店）8/15 支払い⑧176,000(後述)の合計396,000となります。

⑤ 買掛金元帳（川崎商店）8/24 返品 より、3,000となります。

⑥ 買掛金元帳（浦和商店）8/6 仕入 より、270,000となります。

⑦ 買掛金元帳（浦和商店）の貸借差額より、158,000となります。

貸方(116,000＋270,000)－借方(8,000＋220,000)＝158,000

⑧ 買掛金元帳（川崎商店）の貸借差額より、176,000となります。

貸方(⑨164,000(後述)＋⑩140,000(後述))－借方(3,000＋125,000)＝176,000

⑨ 「買掛金」勘定 前月繰越280,000

－買掛金元帳（浦和商店）前月繰越116,000＝164,000

⑩ 「買掛金」勘定 8/19 より、140,000となります。

空欄を埋めた買掛金勘定と買掛金元帳は以下となります。

主　要　簿

① 総勘定元帳

買　掛　金

8/ 8	（③ 仕　入）	（　8,000）	8/ 1	前月繰越	280,000
15	当座預金	（④ 396,000）	6	（仕　入）	（⑥270,000）
24	（仕　入）	（⑤　3,000）	19	（仕　入）	140,000
31	次月繰越	（　283,000）			
		（　690,000）			（　690,000）

補　助　簿

② 買掛金元帳

浦和商店

8/ 8	返　品	8,000	8/ 1	前月繰越	116,000
15	支払い	220,000	6	仕　入	270,000
31	次月繰越	（⑦ 158,000）			
		（　386,000）			（　386,000）

川崎商店

8/15	支払い	（⑧ 176,000）	8/ 1	前月繰越	（⑨ 164,000）
24	返　品	3,000	19	仕　入	（⑩ 140,000）
31	次月繰越	125,000			
		（　304,000）			（　304,000）

試験対策（伝票・推定）

伝票は第4問に出題されることが多いです。

各伝票の記入を求める問題、与えられている伝票から取引を読み取る問題が出題されています。注意して欲しい論点は以下です。

一部現金取引は、取引を分解する方法と、取引を仮定する方法がある。

例題　商品を1,000円で売り上げ、代金のうち300円は現金で受け取り、残額は掛けとした。なお、入金伝票の科目欄には売掛金が記入されている。そこで、3伝票制を採用している場合、振替伝票を起票しなさい。

①　まず、取引を仕訳で考えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	300	売上	1,000
売掛金	700		

②　次に、一部現金取引なので、取引を分解する方法と取引を仮定する方法がありますが、与えられている入金伝票の記入を考えます。相手勘定科目が「売掛金」勘定なので以下の処理であることがわかります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	300	売掛金	300

③　そこで、①の仕訳になるように、訂正仕訳と同じように仕訳を考えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	1,000	売上	1,000

したがって、振替伝票に以下のように起票されます。

振　替　伝　票

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**1,000**	**売上**	**1,000**

例題　**商品を1,000円で売り上げ、代金のうち300円は現金で受け取り、残額は掛けとした。なお、入金伝票の科目欄には売上が記入されている。そこで、3伝票制を採用している場合、振替伝票を起票しなさい。**

①　まず、取引を仕訳で考えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	300	売上	1,000
売掛金	700		

②　次に、一部現金取引なので、取引を分解する方法と取引を仮定する方法がありますが、与えられている入金伝票の記入を考えます。相手勘定科目が「売上」勘定なので以下の処理であることがわかります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	300	売上	300

③　そこで、①の仕訳になるように、訂正仕訳と同じように仕訳を考えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	700	売上	700

したがって、振替伝票に以下のように起票されます。

振　替　伝　票

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**700**	**売上**	**700**

試験対策（伝票・仕訳日計表）

総勘定元帳や補助元帳への転記を問う問題です。

例題 次の2030年3月1日における取引に関して、仕訳日計表を作成し、現金勘定、売掛金勘定、買掛金勘定と売掛金元帳を完成しなさい（総勘定元帳の各勘定と売掛金元帳の締切は行わないこと）。なお、現金勘定の月初残高は50,000円、売掛金勘定の月初残高は49,000円、買掛金勘定の月初残高は20,000円であった。また、売掛金元帳の沖縄社勘定の月初残高は18,000円、長崎社勘定の月初残高は12,000円、大分社勘定の月初残高は19,000円であった。

入金伝票 No.101
売掛金(沖縄社) 1,000

入金伝票 No.102
売掛金(長崎社) 2,000

入金伝票 No.103
売掛金(大分社) 3,000

出金伝票 No.201
買掛金(大阪社) 1,500

出金伝票 No.202
買掛金(京都社) 2,500

出金伝票 No.203
買掛金(大阪社) 3,500

振替伝票 No.501
受取手形 5,000
売掛金(沖縄社) 5,000

振替伝票 No.502
買掛金(滋賀社) 4,500
支払手形 4,500

振替伝票 No.503
買掛金(滋賀社) 1,700
売掛金(大分社) 1,700

振替伝票 No.504
売掛金(沖縄社) 1,000
売　上 1,000

振替伝票 No.505
売掛金(大分社) 4,000
売　上 4,000

振替伝票 No.506
売掛金(大分社) 5,000
売　上 5,000

振替伝票 No.507
仕　入 4,500
買掛金(滋賀社) 4,500

振替伝票 No.508
仕　入 2,500
買掛金(京都社) 2,500

振替伝票 No.509
仕　入 5,500
買掛金(大阪社) 5,500

・起票

仕訳形式で示します。売掛金勘定の下の括弧書きは売掛金元帳の勘定を示しています。

	No.	借方科目	金額	貸方科目	金額
入金伝票	101	現　　金	1,000	売 掛 金 （沖縄社）	1,000
	102	現　　金	2,000	売 掛 金 （長崎社）	2,000
	103	現　　金	3,000	売 掛 金 （大分社）	3,000
出金伝票	201	買 掛 金	1,500	現　　金	1,500
	202	買 掛 金	2,500	現　　金	2,500
	203	買 掛 金	3,500	現　　金	3,500
振替伝票	501	受取手形	5,000	売 掛 金 （沖縄社）	5,000
	502	買 掛 金	4,500	支払手形	4,500
	503	買 掛 金	1,700	売 掛 金 （大分社）	1,700
	504	売 掛 金 （沖縄社）	1,000	売　　上	1,000
	505	売 掛 金 （大分社）	4,000	売　　上	4,000
	506	売 掛 金 （大分社）	5,000	売　　上	5,000
	507	仕　　入	4,500	買 掛 金	4,500
	508	仕　　入	2,500	買 掛 金	2,500
	509	仕　　入	5,500	買 掛 金	5,500

・仕訳日計表

仕 訳 日 計 表

2030年3月1日

借　　方	元丁	勘　定　科　目	元丁	貸　　方
6,000	1	現　　　　金	1	7,500
5,000	省略	受　取　手　形		
10,000	4	売　掛　金	4	12,700
		支　払　手　形	省略	4,500
13,700	8	買　掛　金	8	12,500
		売　　　　上	省略	10,000
12,500	省略	仕　　　　入		
47,200				47,200

・総勘定元帳

仕訳日計表から総勘定元帳の各勘定へ**合計金額**を転記します。

現　　金　　1

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
3	1	前　月　繰　越	50,000	3	1	仕　訳　日　計　表	7,500
	〃	仕　訳　日　計　表	6,000				

売　掛　金　　4

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
3	1	前　月　繰　越	49,000	3	1	仕　訳　日　計　表	12,700
	〃	仕　訳　日　計　表	10,000				

買　掛　金　　8

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
3	1	仕　訳　日　計　表	13,700	3	1	前　月　繰　越	20,000
					〃	仕　訳　日　計　表	12,500

・売掛金元帳

各伝票から補助元帳へ転記を行います。

売　掛　金　元　帳

沖縄社　1

日	付	摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
3	1	前月繰越	18,000		借	18,000
	〃	入金伝票		1,000	〃	17,000
	〃	振替伝票		5,000	〃	12,000
	〃	振替伝票	1,000		〃	13,000

長崎社　2

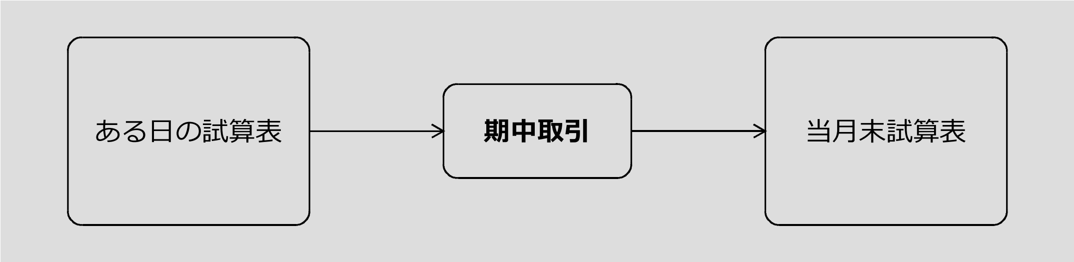
日	付	摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
3	1	前月繰越	12,000		借	12,000
	〃	入金伝票		2,000	〃	10,000

大分社　3

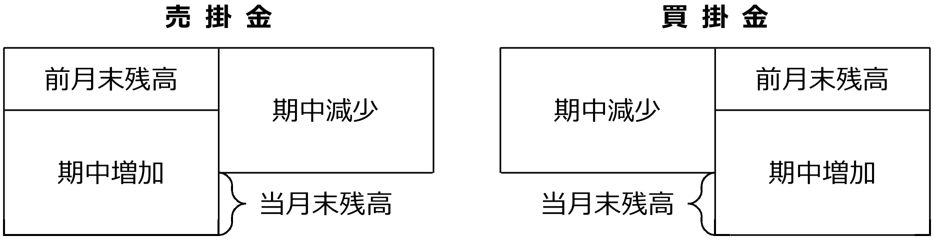
日	付	摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
3	1	前月繰越	19,000		借	19,000
	〃	入金伝票		3,000	〃	16,000
	〃	振替伝票		1,700	〃	14,300
	〃	振替伝票	4,000		〃	18,300
	〃	振替伝票	5,000		〃	23,300

試験対策（試算表）

試算表の作成は第3問に出題されることが多いです。ある一時点の試算表が与えられ、ある一定期間の期中取引の処理を行い、試算表を作成する問題が多いです。なお、試算表には、残高試算表、合計試算表、合計残高試算表がありますので、どの試算表が問われているのかをしっかり確認して解いて下さい。



期中取引仕訳を行い、それを集計して、試算表を作成していきます。処理しなければならない期中取引が多い場合、そのすべてに仕訳を行うと、時間がかかります。そこで、以下のようなT勘定を設定して、そこで仕訳と集計を行うという解法があります。なお、その場合、すべての勘定についてT勘定を設定するのではなく、問題の期中取引で何度も使われる勘定科目について設定すれば良いでしょう。



（１）残高試算表の作成

例題　**2030年5月31日の残高試算表を作成しなさい。なお、決算日は12月31日である。**

残　高　試　算　表

2030年4月30日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
50,000	現　　　　　　金	
123,000	当　座　預　金	
234,000	受　取　手　形	
345,000	売　　掛　　金	
	売　　　　　　上	700,000

2030年5月の取引

１．売上取引

掛け売上10,000円、当座売上15,000円、現金売上18,000円、手形売上20,000円

２．売掛金の決済

当座預金による回収28,000円、手形による回収50,000円

３．受取手形の決済

当座預金による回収60,000円

・仕訳による解法

5月の期中取引仕訳を行い、それを集計して5月末の残高試算表を作成します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
売　掛　金	**10,000**	**売　　上**	**63,000**
当座預金	**15,000**		
現　　金	**18,000**		
受取手形	**20,000**		
当座預金	**28,000**	**売　掛　金**	**78,000**
受取手形	**50,000**		
当座預金	**60,000**	**受取手形**	**60,000**

現　　金：50,000＋18,000＝68,000

当座預金：123,000＋15,000＋28,000＋60,000＝226,000

受取手形：234,000＋20,000＋50,000－60,000＝244,000

売 掛 金：345,000＋10,000－78,000＝277,000

売　　上：700,000＋63,000＝763,000

・T勘定による解法

仕訳による解法ですと、仕訳とその集計が必要となります。そこで、T勘定を設定し、直接、T勘定に処理を行う方法だと処理のスピードが速くなります。

例えば、「当座預金60,000 / 受取手形60,000」という仕訳の場合、仕訳を書かずに、当座預金勘定（資産）の借方に60,000円、受取手形勘定の貸方に60,000円を直接記入します。そして、すべての処理が終わったら、各勘定の貸借差額で残高を算定します。

現　　金

50,000		68,000
18,000		

当座預金

123,000		226,000
15,000		
28,000		
60,000		

受取手形

234,000	60,000	
20,000		244,000
50,000		

売 掛 金

345,000	78,000	
10,000		277,000

売　　上

763,000		700,000
		63,000

残　高　試　算　表

2030年5月31日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
68,000	現　　　　　金	
226,000	当　座　預　金	
244,000	受　取　手　形	
277,000	売　　掛　　金	
	売　　　　　上	763,000

（2）合計試算表の作成

例題　**2030年5月31日の合計試算表を作成しなさい。なお、決算日は12月31日である。**

合　計　試　算　表

2030年4月30日

借　方	勘　定　科　目	貸　方
61,000	現　　　　　金	11,000
423,000	当　座　預　金	300,000
454,000	受　取　手　形	220,000
845,000	売　　掛　　金	500,000
	売　　　　　上	700,000

2030年5月の取引

1．売上取引

掛け売上10,000円、当座売上15,000円、現金売上18,000円、手形売上20,000円

2．売掛金の決済

当座預金による回収28,000円、手形による回収50,000円

3．受取手形の決済

当座預金による回収60,000円

・仕訳による解法

5月の期中取引仕訳を行い、それを集計して5月末の残高試算表を作成します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
売　掛　金	**10,000**	**売　　　上**	**63,000**
当　座　預　金	**15,000**		
現　　　金	**18,000**		
受　取　手　形	**20,000**		
当　座　預　金	**28,000**	**売　掛　金**	**78,000**
受　取　手　形	**50,000**		
当　座　預　金	**60,000**	**受　取　手　形**	**60,000**

現　　金：(借方)61,000＋18,000＝79,000
　　　　　(貸方)11,000

当座預金：(借方)423,000＋15,000＋28,000＋60,000＝526,000
　　　　　(貸方)300,000

受取手形：(借方)454,000＋20,000＋50,000＝524,000

(貸方)220,000＋60,000＝280,000

売 掛 金：(借方)845,000＋10,000＝855,000

(貸方)500,000＋78,000＝578,000

売　　上：(貸方)700,000＋63,000＝763,000

・T勘定による解法

残高試算表の作成の場合と解法は同じです。ただし、合計試算表の作成ですので、すべての処理が終わったら、各勘定の借方合計と貸方合計を算定することになります。

現　　金

借方	貸方
61,000	11,000
18,000	
合計 79,000	

当座預金

借方	貸方
423,000	300,000
15,000	
28,000	
60,000	
合計 526,000	

受取手形

借方	貸方
454,000	220,000
20,000	60,000
50,000	
合計 524,000	合計 280,000

売 掛 金

借方	貸方
845,000	500,000
10,000	78,000
合計 855,000	合計 578,000

売　　上

借方	貸方
	700,000
	63,000
	合計 763,000

合　計　試　算　表

2030年5月31日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
79,000	現　　　　　金	11,000
526,000	当　座　預　金	300,000
524,000	受　取　手　形	280,000
855,000	売　　掛　　金	578,000
	売　　　　　上	763,000

試験対策（精算表）

精算表の作成は第5問に出題されます。

（1）順進と逆進

精算表の出題は順進（じゅんしん）問題と逆進（ぎゃくしん）問題があります。精算表は、**決算整理前残高試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを進めますが、この流れどおりの問題を順進問題といいます。逆進問題は、損益計算書や貸借対照表の数値が与えられて、決算整理前残高試算表の数値を答えるといった、手続きの流れとは逆に進む処理を行う問題をいいます。

例題　**精算表を作成しなさい。なお、期末商品は800円である。**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	700							
仕入	2,000							

必要な決算整理仕訳を考え、精算表に記入します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕入**	**800**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	700		**800**	**700**			**800**	
仕入	2,000		**700**	**800**	**1,900**			

例題　**精算表を作成しなさい。**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品							800	
仕入	2,000				1,900			

「繰越商品」勘定の貸借対照表欄800より、期末商品が800であることがわかります。

また、「仕入」勘定は以下の式が成り立ちます。

前T/B（当期仕入）＋期首商品－期末商品＝売上原価（損益計算書欄）

本問にあてはめますと、2,000＋期首商品－期末商品800＝1,900

したがって、期首商品が700とわかります。決算整理仕訳は以下となり、精算表に記入します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕入**	**800**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	**700**		**800**	**700**			800	
仕入	2,000		**700**	**800**	1,900			

（２）出題論点

精算表は、**決算整理前残高試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを進めますので、基本的には、決算整理が出題されます。しかし、決算整理以外にも、訂正仕訳や未処理も出題されます。

① 決算整理

下記の論点が頻出ですので、苦手な論点がないように各テーマでしっかり学習して下さい。

・売上原価の算定
・固定資産の減価償却
・現金過不足の処理
・貸倒引当金の設定
・収益・費用の前受・前払と未収・未払

② 訂正仕訳・未処理

訂正仕訳や未処理については、問題の指示にしたがって、解いて下さい。なお、訂正仕訳や未処理を先に処理してから、次に決算整理仕訳を行って下さい。例えば、売掛金の回収が未処理であった場合、貸倒引当金は、未処理を処理した後の売掛金残高に対して設定しますので、先に、貸倒引当金の設定を行うと、未処理を仕訳した後にまた、貸倒引当金の修正が必要となるからです。頻出の論点は以下です。

・仮払金の精算
・仮受金の整理
・勘定科目の間違え
・未処理

（３）決算整理の例題

例題　**決算において、現金不足額200円の原因が判明しなかった。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
雑損	**200**	**現金過不足**	**200**

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金過不足	200			**200**				
雑損	500		**200**		**700**			

例題　**当期首に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数30年、定額法）について、減価償却を行う。**

(取得原価120,000－残存価額120,000×0.1)÷耐用年数30年

＝取得原価120,000×0.9÷耐用年数30年＝減価償却費3,600

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	**3,600**	**建物減価償却累計額**	**3,600**

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
建物	120,000						**120,000**	
建物減価償却累計額				**3,600**				**3,600**
減価償却費			**3,600**		**3,600**			

（４）訂正仕訳・未処理の例題

例題　**商品の手付金として800円を受け取っていたが、これを売掛金から控除していたので、決算にあたり修正する。**

実際に行った仕訳（借方は現金と仮定します）

現　　金	800	/	売　掛　金	800

本来、行うべき仕訳（借方は現金と仮定します）

現　　金	800	/	前　受　金	800

修正仕訳

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
売　掛　金	**800**	**前　受　金**	**800**

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売　掛　金	1,700		**800**				**2,500**	
前　受　金		1,500		**800**				**2,300**

例題　**取立依頼していた約束手形900円が無事決済され、当座預金口座に入金されたが、未処理である。**

取立依頼とは、手形の代金の取り立て（回収）を取引銀行に依頼することをいいます。この取引は、受取手形の回収取引です。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当　座　預　金	**900**	**受　取　手　形**	**900**

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
当座預金	2,700		**900**				**3,600**	
受取手形	2,500			**900**			**1,600**	

試験対策（P/L・B/S）

損益計算書と貸借対照表の作成は、第3問または第5問に出題されることがあります。

出題形式としては、**決算整理前試算表**が与えられている問題と**決算整理後試算表**が与えられている問題があります。

決算整理前試算表が与えられている問題では、精算表と同様に、**決算整理前試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを行いますので、決算整理仕訳を行い、それを加味して、損益計算書と貸借対照表を作成します。

決算整理後試算表が与えられている問題では、決算整理がすでに終わっていますので、決算整理後残高試算表の数値を使って、損益計算書と貸借対照表を作成します。

損益計算書と貸借対照表を作成する場合には、以下に注意して下さい。

- 「売上」勘定は、**売上高**として表示します。
- 「仕入」勘定は、**売上原価**として表示します。
- 「繰越商品」勘定は、**商品**として表示します。
- 「貸倒引当金」勘定は、原則として、売掛金や受取手形などの対象債権から控除する形式で表示します。したがって、貸方ではなく、借方に表示します。
- 「減価償却累計額」勘定は、原則として、建物や備品などの対象固定資産から控除する形式で表示します。したがって、貸方ではなく、借方に表示します。

例題　**次の決算整理前残高試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。期末商品は800円であり、未払給料100円を計上する。**

決算整理前残高試算表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
1,200	現　　　　金	
700	繰　越　商　品	
	借　　入　　金	300
	資　　本　　金	700
	繰越利益剰余金	300
	売　　　　上	3,200
2,000	仕　　　　入	
600	給　　　　料	
4,500		4,500

決算整理仕訳

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕　　　入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕　　　入**	**800**
給　　　料	**100**	**未払給料**	**100**

損　益　計　算　書

費　用	金　額	収　益	金　額
売上原価	1,900	売　上　高	3,200
給　　　料	700		
当期純利益	600		
	3,200		3,200

売上原価：前T/B 仕入2,000＋700－800＝1,900

給　　料：前T/B 600＋100＝700

貸　借　対　照　表

資　産	金　額	負債・純資産	金　額
現　　　金	1,200	未払給料	100
商　　　品	800	借　入　金	300
		資　本　金	700
		繰越利益剰余金	900
	2,000		2,000

繰越利益剰余金：前T/B 300＋当期純利益600＝900

例題　**次の決算整理後残高試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。期首商品は700円、期末商品は800円であった。**

決算整理後残高試算表

借　方	勘定科目	貸　方
1,200	現金	
?	繰越商品	
	未払給料	100
	借入金	300
	資本金	?
	繰越利益剰余金	300
	売上	3,200
1,900	仕入	
700	給料	
?		?

決算整理**後**残高試算表の「繰越商品」勘定（資産）は、期末商品の金額800円が入ります。それによって、借方合計が4,600円となります。貸方合計は借方合計4,600円と一致しますので、貸方の差額で「資本金」勘定（純資産）には700円が入ります。そして、決算整理後残高試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成します。

損　益　計　算　書

費　用	金　額	収　益	金　額
売上原価	1,900	売上高	3,200
給料	700		
当期純利益	600		
	3,200		3,200

売上原価：後T/B 仕入1,900

貸　借　対　照　表

資　産	金　額	負債・純資産	金　額
現金	1,200	未払給料	100
商品	800	借入金	300
		資本金	700
		繰越利益剰余金	900
	2,000		2,000

繰越利益剰余金：前T/B 300＋当期純利益600＝900

例題　**次の決算整理後残高試算表にもとづいて、貸借対照表を作成しなさい。**

決算整理後残高試算表

借　方	勘 定 科 目	貸　方
1,200	現　　　　金	
1,000	売　掛　金	
800	繰　越　商　品	
2,000	備　　　　品	
	未　払　給　料	100
	借　入　金	300
	貸 倒 引 当 金	20
	減価償却累計額	1,500
	資　本　金	2,000
	繰越利益剰余金	500
	売　　　　上	3,200
1,900	仕　　　　入	
500	給　　　　料	
200	減 価 償 却 費	
20	貸倒引当金繰入	
7,620		7,620

貸倒引当金20円は、売掛金1,000円から控除する形式で借方に表示し、純額の金額980円（＝1,000円－20円）をその右側に表示します。また、減価償却累計額1,500円は、備品2,000円から控除する形式で借方に表示し、純額の金額500円（＝2,000円－1,500円）をその右側に表示します。

貸 借 対 照 表

現　　金		1,200	未 払 給 料	100
売 掛 金	1,000		借 入 金	300
貸倒引当金	20	980	資 本 金	2,000
商　　品		800	繰越利益剰余金	1,080
備　　品	2,000			
減価償却累計額	1,500	500		
		3,480		3,480

当期純利益：売上3,200－(仕入1,900＋給料500＋減価償却費200＋貸倒引当金繰入20)＝580

繰越利益剰余金：後T/B 500＋当期純利益580＝1,080

試験対策（証ひょう）

取引を帳簿に記録するには、取引の証拠となる書類に基づいて仕訳を行う必要があります。この書類を**証ひょう**（しょう）といいます。日商簿記3級では、証ひょうが問題文に与えられて、その証ひょうに基づいて会計処理を行う問題が出題されます。

証ひょうには、例えば以下のものがあります。

・請求書：代金の支払いを請求する書類
・納品書：商品等を納品する際に、納品物と併せて取引先に発行する書類
・見積書：商品等の金額、取引条件等をまえもって取引先に提示する書類
・領収書：代金を受け取ったことを証明する書類

例題　**従業員が出張から帰社し、本人が立替払いしていた旅費について、下記の領収書を提出したので、現金で精算した。**

領　収　書

株式会社新宿商事　様

30,000　円

但し、旅客運賃として
上記金額を正に領収いたしました。

京橋旅客鉄道株式会社（公印省略）
××駅発行　取扱者（捺印省略）

旅客運賃を支払ったことに対する領収書ですので、「旅費交通費」勘定（費用）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
旅　費　交　通　費	**30,000**	**現　　　　　金**	**30,000**

例題　**商品を仕入れ、品物とともに次の納品書を受け取った。なお、代金は来月末に支払うこととした。なお、消費税については税抜方式により処理している。**

納　品　書

株式会社恵比寿商事　御中

渋谷商事株式会社

品物	数量	単価	金額
商品A	100	100	10,000
商品B	200	150	30,000
商品C	300	200	60,000
	消費税		8,000
	合計		108,000

商品の納品書ですので、「仕入」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕　入	100,000	買　掛　金	108,000
仮払消費税	8,000		

仕入：10,000＋30,000＋60,000＝100,000

例題　事務作業で使用する文房具等を注文し、品物とともに次の請求書を受け取った。なお、代金は来月末に支払うこととした。

請　求　書

株式会社原宿商事　様

代々木商事株式会社

品物	数量	単価	金額
ボールペン	10	500	5,000
印刷用紙（A4、500枚入り）	20	900	18,000
プリンターインク	5	8,000	40,000
送料	—	—	1,200
	合計		64,200

×3年6月30日までに合計金額を下記口座へお振り込み下さい。

大手町銀行東京支店　普通　123456　ヨヨギショウジ（カ

文房具等の注文に対する請求書ですので、「消耗品費」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
消耗品費	64,200	未払金	64,200

例題　事務作業で使用するパソコンを注文し、品物とともに次の領収書を受け取った。なお、代金はすでに支払っており、仮払金勘定で処理している。

領　収　書

株式会社新宿商事　様

大久保商事株式会社

品物	数量	単価	金額
パソコン	5	178,000	890,000
送料	―	―	10,800
セッティング作業代	5	5,000	25,000
	合計		925,800

上記の合計金額を領収いたしました。

収入印紙
1,000円

パソコンの購入代金を支払ったことに対する領収書ですので、「備品」勘定（資産）で処理します。なお、送料及びセッティング作業代は付随費用として、備品の取得原価に含めます。

また、収入印紙は領収書の発行者（本問では売主である大久保商事株式会社）が負担して領収書に貼り付けますので、買主（本問では株式会社新宿商事）では収入印紙に関する処理はありません。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品	925,800	仮払金	925,800

例題　**商品を売り上げ、品物とともに次の納品書兼請求書の原本を発送した。株式会社原宿商事への請求額と同額の送料を現金で支払った。なお、代金は来月末に受け取ることとした。また、立て替えた送料について売掛金勘定で処理すること。**

納品書兼請求書（控）

株式会社原宿商事　御中

代々木商事株式会社

品物	数量	単価	金額
ボールペン	10	500	5,000
印刷用紙（A4、500枚入り）	20	900	18,000
プリンターインク	5	8,000	40,000
送料	―	―	1,200
	合計		64,200

×3年6月30日までに合計金額を下記口座へお振り込み下さい。

大手町銀行東京支店　普通　123456　ヨヨギショウジ（カ

商品の販売に対する納品書兼請求書（控）なので、「売上」勘定（収益）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	64,200	売上	63,000
		現金	1,200

売上：5,000＋18,000＋40,000＝63,000

例題 店舗における一日分の売上の仕訳を行うにあたり、集計結果は次のとおりであった。なお、合計額のうち64,800円はクレジットカード、残りは現金による売上であった。また、消費税については税抜方式により処理している。

売上集計表

品物	数量	単価	金額
商品A	100	100	10,000
商品B	200	150	30,000
商品C	300	200	60,000
	消費税		8,000
	合計		108,000

本問では信販会社への手数料に関する情報が与えられていないため、信販会社への手数料を入金時に計上する方法で処理していると考えてください。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	43,200	売上	100,000
クレジット売掛金	64,800	仮受消費税	8,000

現金：108,000－64,800＝43,200

売上：10,000＋30,000＋60,000＝100,000

例題　商品を864,000円（消費税64,000円を含む）で販売し、代金として次のものを受け取った。なお、消費税については税抜方式により処理している。

小　切　手

支払地
○○銀行東京支店
金額 ￥464,000※
上記金額をこの小切手と引き替えに持参人へお支払い下さい。
振出日×3年5月15日　　**株式会社五反田商事**
振出地　東京都○○　　**振出人　代表取締役△△**

約　束　手　形

株式会社湯島　殿
金額 ￥400,000※

支払期日
×3年8月15日

上記金額をあなたへこの約束手形と引替えにお支払いいたします。
振出日×3年5月15日
振出地　東京都○○
振出人　株式会社五反田商事
代表取締役△△

他社が振り出した小切手を受け取った場合は「現金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	464,000	売上	800,000
受取手形	400,000	仮受消費税	64,000

売上：税込金額864,000－消費税64,000＝800,000

例題　事務所を賃貸するため契約を行い、下記の振込依頼書どおりに普通預金から振り込んだ。なお、仲介手数料は費用として処理すること。

振込依頼書

株式会社原宿商事　御中

銀座不動産株式会社

内容		金額
敷金		600,000
初月賃料		100,000
仲介手数料		50,000
	合計	750,000

大手町銀行東京支店　普通　654321　ギンザフドウサン（カ

敷金は「差入保証金」勘定（資産）で、仲介手数料は「支払手数料」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
差入保証金	600,000	普通預金	750,000
支払家賃	100,000		
支払手数料	50,000		

例題　下記の納付書にもとづいて、普通預金口座から法人税を納付した。

領　収　証　書

科目	
	法人税

本　　税	300,000
○○○税	
▲▲▲税	
■■税	
××税	
合計額	300,000

納期等の区分　×30401　×40331

中間申告　確定申告

住所	東京都世田谷区
氏名	株式会社世田谷商事

出納印 ×3.11.30

納付書（領収証書）より、法人税の中間申告（中間納付）であることが判明するため、支払額は「仮払法人税等」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仮払法人税等	**300,000**	**普通預金**	**300,000**

例題　下記の納付書にもとづいて、普通預金口座から法人税を納付した。

領　収　証　書

科目	
	法人税

本　　税	500,000
○○○税	
▲▲▲税	
■■税	
××税	
合計額	500,000

納期等の区分　×30401　×40331

中間申告　確定申告

住所	東京都世田谷区
氏名	株式会社世田谷商事

出納印 ×4.5.31

納付書（領収証書）より、法人税の確定申告であることが判明するため、支払額は「未払法人税等」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
未払法人税等	**500,000**	**普通預金**	**500,000**

例題 下記の納付書にもとづいて、普通預金口座から消費税を納付した。

領　収　証　書

科目	消費税及び地方消費税

本　　税	150,000
○○○税	
▲▲▲税	
■■税	
××税	
合計額	150,000

住所	東京都世田谷区
氏名	株式会社世田谷商事

納期等の区分　×30401　×40331

中間申告　（確定申告）

出納印　×4.5.31

納付書（領収証書）より、消費税の確定申告であることが判明するため、支払額は「未払消費税」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
未払消費税	**150,000**	**普通預金**	**150,000**

例題　取引銀行の当座勘定照合表（入出金明細）を参照したところ、次のとおりであった。日比谷商店及び霞が関商店は当社の商品の取引先であり、商品売買取引はすべて掛けとしている。なお、いずれの取引先とも振込手数料は当社負担としており、霞が関商店からの入金額は、当社負担の振込手数料500円が差し引かれた金額である。また、小切手は×9年5月10日に備品の購入の際に振り出したものである。

×9年5月14日

当座勘定照合表

株式会社原宿商事　様

銀座銀行目黒支店

取引日	摘要	お支払金額	お預り金額	残高
5.13	お振込　日比谷商店	150,000		8,805,600
5.13	お振込手数料	540		8,805,060
5.13	お振込　霞が関商店		320,000	9,125,060
5.13	手形引落（No 111）	400,000		8,725,060
5.13	小切手引落(No 652)	100,000		8,625,060
5.13	融資ご返済	600,000		8,025,060
5.13	融資お利息	1,500		8,023,560

当座勘定照合表は当座預金に関する証ひょうですので、そこに記載されている「お支払金額」及び「お預り金額」は「当座預金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金 支払手数料	150,000 540	当座預金	150,540
当座預金 支払手数料	320,000 500	売掛金	320,500
支払手形	400,000	当座預金	400,000
仕訳なし			
借入金 支払利息	600,000 1,500	当座預金	601,500

なお、小切手振出時に以下の仕訳を行っており、実際に当座預金口座から引き落とされたときは、仕訳は行いません。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品	100,000	当座預金	100,000

資料　出題される収益・費用の勘定一覧

（１）日商簿記３級で出題される主な収益

売上高（売上）	…	商品の販売高
受取家賃	…	建物を貸したことによって生じる収益
受取地代	…	土地を貸したことによって生じる収益
受取手数料	…	取引を仲介したことによって生じる収益
受取利息	…	金銭を貸し付けることによって受け取る利息
雑益	…	少額の収益
貸倒引当金戻入	…	貸倒引当金の戻し入れによって生じる収益
償却債権取立益	…	前期以前に貸倒処理した債権が当期に回収できたことによる収益
固定資産売却益	…	固定資産を売却することによって生じる収益

（２）日商簿記３級で出題される主な費用

売上原価（仕入）	…	販売した商品の取得原価
発　送　費	…	商品の送料等の費用
給　料	…	従業員の労働の対価として支払う費用
法定福利費	…	社会保険の会社負担分
広告宣伝費	…	広告宣伝のための費用
支払手数料	…	取引を仲介してもらったことによって生じる費用
支　払　利　息	…	金銭の借り入れによって生じる支払う利息
旅費交通費	…	電車代、バス代、タクシー代、飛行機代などの費用
貸倒引当金繰入	…	貸倒引当金を設定することによって生じる費用
貸　倒　損　失	…	債権の貸し倒れに伴う費用
減価償却費	…	減価償却によって計上する費用
通　信　費	…	切手代、はがき代、電話代などの費用
消　耗　品　費	…	文房具代、コピー用紙などの費用
水道光熱費	…	水道代、電気代、ガス代などの費用
支　払　家　賃	…	建物を借りることによって生じる費用
支　払　地　代	…	土地を借りることによって生じる費用
保　険　料	…	保険料の支払
租　税　公　課	…	固定資産税や印紙税等費用となる税金
修　繕　費	…	固定資産等の維持管理や修理のための費用
雑　費	…	お茶菓子代、その他どの勘定にも該当しない項目
雑　損	…	少額の損失
固定資産売却損	…	固定資産を売却することによって生じる費用
保　管　費	…	商品等の保管に関する費用
諸　会　費	…	様々な団体に支払う会費
法人税、住民税及び事業税	…	利益に課せられる税金である法人税、住民税及び事業税